

「体験の風をおこそう」運動<sup>®</sup>

国立青少年教育施設での勤務経験による  
資質能力の向上に関する調査研究  
(令和5年度調査)

報告書

令和8年3月



National Institution For Youth Education  
国立青少年教育振興機構



# 国立青少年教育施設での勤務経験による資質能力の向上に関する調査研究

## <目次>

### 第1章 調査研究の概要

1	調査研究の経緯	3
2	調査方法	4
3	集計・分析に用いたソフト	4
4	本報告書の見方	4
5	回収率	4

### 第2章 調査結果

1	研修支援に関する業務の実施状況	5
2	教育事業に関する業務の実施状況	8
3	仕事を進める上での協議の実施状況	11
4	研修の受講状況	16
5	国立施設での勤務における満足度	26
6	国立施設での勤務における教員のときの経験等の活用	30
7	国立施設での勤務経験の学校での活用	31
8	国立施設に勤務することへの意欲の変化	31
9	資質能力の習得	35
10	見方・考え方についての意識	54
11	国立施設での業務等に対する有用感	62
12	国立施設に勤務した3年間における派遣元の教育委員会との関係	65
13	教員が学校以外の機関等に派遣されることへの評価	66
14	国立施設派遣後に青少年教育に関わる意欲	66
15	国立施設3年間の勤務についての総合的な満足度	67
16	国立施設に勤務したことによる学校の集団宿泊活動に対する考えの変化	67

### 第3章 クロス集計の結果～教員が学校以外の機関等に派遣されることについての意識との関係～

1	研修支援に関する業務	69
2	教育事業に関する業務	71
3	仕事を進める上での協議	72
4	国立施設での勤務における教員のときの経験等の活用	76
5	国立施設での勤務経験の学校での活用	76
6	社会教育主事の任用資格	76
7	教職員研修支援機構が実施する研修の受講	77
8	国立施設勤務後における青少年教育との関与意識	78

9	国立施設勤務中における派遣元の教育委員会との関係	79
10	国立施設3年間の勤務についての総合的な満足度	80

#### 第4章 調査結果のまとめ

1	調査結果の概要	81
2	教員が学校以外の機関に派遣されることの有用性	86

#### 参考資料

1	三次調査・第3回調査・アンケート調査票	87
2	三次調査・第4回調査・アンケート調査票	92

## 第1章 調査研究の概要

### 1 調査研究の経緯

本調査研究は、学校教員にとって学校以外の機関等に派遣され勤務する経験が職能の成長に有用であることを、実証的な方法で明らかにすることを目的としている。

これまで、道府県教育委員会（以下、県等教育委員会）から国立青少年教育振興機構（以下、機構）に派遣され、各国立施設に勤務した企画指導専門職等（以下、専門職等）を対象に、令和元年度に一次調査、令和2年度に二次調査を実施し、国立施設での勤務経験により習得・向上した資質能力等を明らかにした（表 1-1）<sup>1</sup>。

表 1-1 令和元年度（一次）調査及び令和2年度（二次）調査の概要

調査年度	調査方法
令和元年度 （一次調査）	①令和元年度の時点で、県等教育委員会から派遣され国立施設に勤務している専門職等を対象にインタビュー調査を実施（6施設 11人） ②令和元年度以前に、県等教育委員会から国立施設に派遣され専門職等として勤務した教員等を対象にインタビュー調査を実施（3人） ③令和元年度の時点で、県等教育委員会から派遣され国立施設に勤務している全ての専門職等を対象に、①及び②を基に調査票を作成し、Web アンケート調査を実施（対象 103人、回答 96人、回収率 93.2%）
令和2年度 （二次調査）	平成27年度から令和元年度の間に、県等教育委員会から派遣され国立施設に専門職等として勤務した教員等を対象に Web アンケート調査を実施（対象 180人、回答 153人、回収率 85.0%）

この2回の調査結果を踏まえ、「三次調査」として、令和3年度から勤務した専門職等を対象に、資質能力の習得・向上や業務内容、満足度等の経年的な変化及び学校以外の機関等で勤務することの評価等を把握・分析するためアンケート調査を実施した（表 1-2）。

表 1-2 三次調査における各調査の実施年

実施回	実施年	国立施設勤務年数
第1回	令和3年（2021年）6月	国立施設に勤務して約3カ月
第2回	令和4年（2022年）3月	国立施設に勤務して約1年
第3回	令和5年（2023年）3月	国立施設に勤務して約2年
第4回	令和6年（2024年）3月	国立施設に勤務して約3年

<sup>1</sup> 「令和元年・2年度調査」「令和3年度調査」の結果は、「国立青少年教育施設での勤務経験による資質能力の向上に関する調査研究」（報告書）として公表している。

（令和元年・2年度） <https://koueki.net/user/niye/110373248-1.pdf>

（令和3年度） <https://koueki.net/user/niye/110373347-1zentai.pdf>

## 2 調査方法

- ①Web アンケート調査とした。
- ②青少年教育研究センターから各国立施設の所長に調査への協力を依頼するとともに、専門職等に向けた調査への協力依頼文書（目的、方法、内容等を記載）及び Web フォームアドレスを総務係に送信し、調査対象となる専門職等への転送を依頼した。

## 3 集計・分析に用いたソフト

集計・分析には、清水裕士<sup>2</sup>が開発した心理統計分析用のフリーソフトウェア「HAD」を用いた。

## 4 本報告書の見方

- ①図表中のパーセント数値は少数点以下第2位を四捨五入しているため、合計値が必ずしも100.0%にならない。なお、合計値が99.9%または100.1%の場合、本文には100.0%として記載している。
- ②図表には、第1回～第4回のうち、実施した回の調査結果を表示している。

## 5 回収率

回収率は表1-3のとおりである。第1回～第3回の対象者33人に対して、第4回が24人となっていることから、派遣期間が2年だった専門職等が9人だったことがうかがえる。

なお、第4回到答した24人のうち、第1～第4回の全ての調査に回答した者は10人であった。

表 1-3 回収率

実施回	対象者数	回答者数	回収率
第1回	33人	26人	78.8%
第2回		30人	90.9%
第3回		29人	87.9%
第4回	24人	24人	100.0%

---

<sup>2</sup> 清水裕士「フリーの統計分析ソフト HAD：機能の紹介と統計学習・教育，研究実践における利用方法の提案」『メディア・情報・コミュニケーション研究』2016.1，pp.59-73.

## 第2章 調査結果

### 1 研修支援に関する業務の実施状況

利用団体の研修支援に当たる業務を、利用団体が極端に多かったり少なかったりした週ではなく、比較的平均的な1週間（月～金曜日の5日間）を想定し、どの程度行ったのかを尋ねた結果は図2-1、表2-1のとおりである。

なお、本調査における各業務の定義は次のとおりとした。

- ※自然体験活動プログラム：野外炊事や登山、水辺活動等とする。
- ※グループワーク：チームビルドやネイチャーゲーム等といった利用団体の研修目的に応じて一定の時間グループの指導にあたる活動とする。
- ※直接指導：利用者に対して指導する場合。
- ※間接指導：引率者等に対して指導する場合。

指導を行った割合（「1日」または「2日～3日」または「4日～5日」と回答した割合）は、全7項目のうち「新型コロナウイルス感染防止のための消毒作業」を除いた6項目で、第3回（2年目）が他の回よりも高い傾向が見られる。この傾向は「2日～3日」と回答した割合にも見られる。

「2日～3日」または「4日～5日」（以下、「2日以上」と回答した割合が各回とも50%以上の業務は、「来所または電話での利用者との事前相談」「窓口または電話での利用への対応」「入所式またはオリエンテーションの指導」となっている。

「指導」に関する業務を2日以上行った割合は、「入所式またはオリエンテーションの指導」の第3回が79.3%で最も高く、次いで、「自然体験活動プログラムの直接指導」の第3回が58.3%、「自然体験活動プログラムの間接指導」の第3回が51.8%、「グループワークの直接指導」の第3回が13.8%となっている。

各項目について、「2日以上」と回答した割合の第2回と第4回を比較すると、第4回の方が高い項目は「入所式またはオリエンテーションの指導」「自然体験活動プログラムの間接指導」の2項目で、第4回の方が低い項目は「来所または電話での利用者との事前相談」「窓口または電話での利用への対応」「自然体験活動プログラムの直接指導」「グループワークの直接指導」「新型コロナウイルス感染防止のための消毒作業」の5項目となっている。コロナ禍による制限が緩和されたにも関わらず研修支援に関する業務が令和3年度と比べ令和5年度の方が減っている。

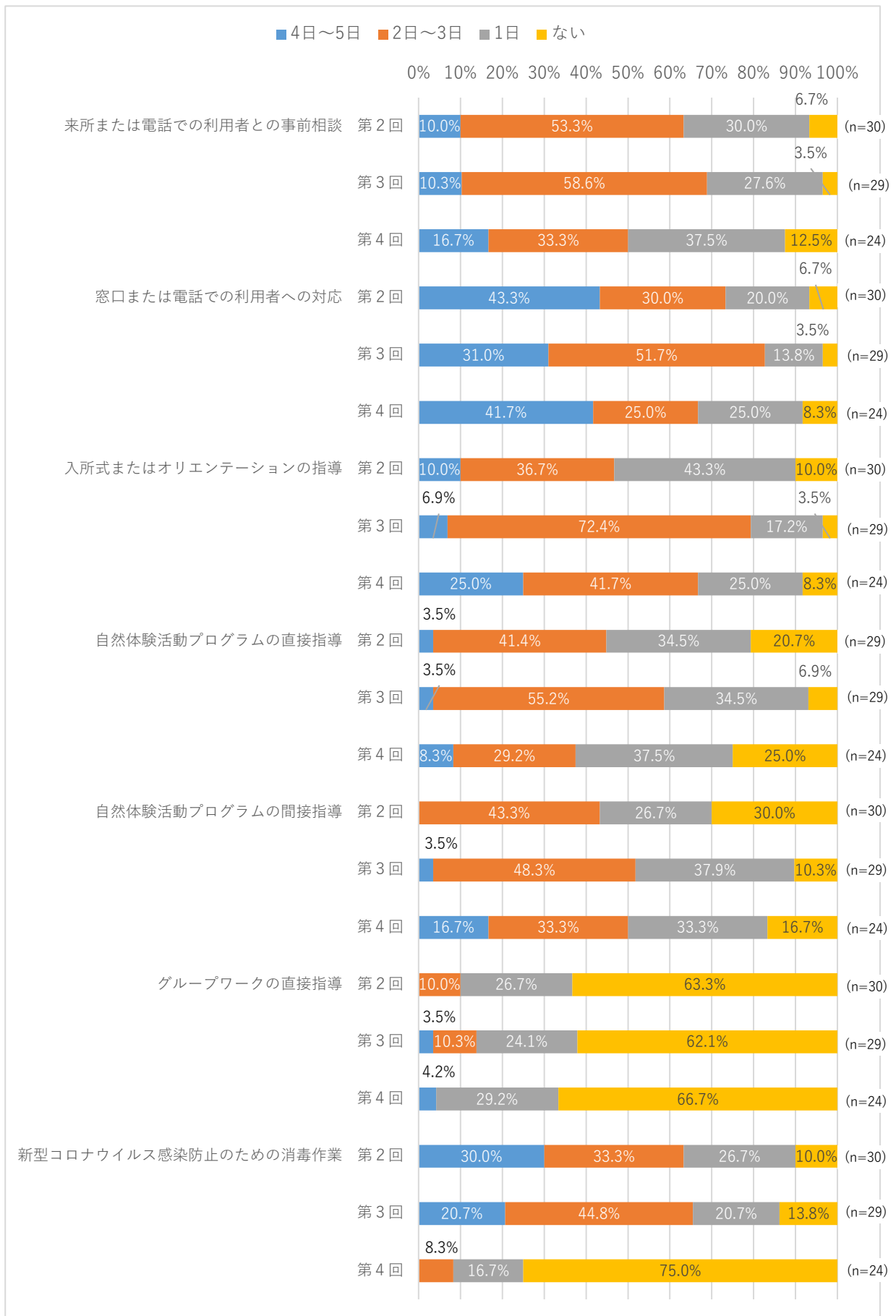


図 2-1 研修支援業務の実施状況

表 2-1 研修支援業務の実施状況

研修支援業務	実施回	度数	4日~5日	2日~3日	1日	ない	合計
		割合					
来所または電話での利用者との事前相談	第2回	度数	3	16	9	2	30
		割合	10.0%	53.3%	30.0%	6.7%	100.0%
	第3回	度数	3	17	8	1	29
		割合	10.3%	58.6%	27.6%	3.5%	100.0%
	第4回	度数	4	8	9	3	24
		割合	16.7%	33.3%	37.5%	12.5%	100.0%
窓口または電話での利用者への対応	第2回	度数	13	9	6	2	30
		割合	43.3%	30.0%	20.0%	6.7%	100.0%
	第3回	度数	9	15	4	1	29
		割合	31.0%	51.7%	13.8%	3.5%	100.0%
	第4回	度数	10	6	6	2	24
		割合	41.7%	25.0%	25.0%	8.3%	100.0%
入所式またはオリエンテーションの指導	第2回	度数	3	11	13	3	30
		割合	10.0%	36.7%	43.3%	10.0%	100.0%
	第3回	度数	2	21	5	1	29
		割合	6.9%	72.4%	17.2%	3.5%	100.0%
	第4回	度数	6	10	6	2	24
		割合	25.0%	41.7%	25.0%	8.3%	100.0%
自然体験活動プログラムの直接指導	第2回	度数	1	12	10	6	29
		割合	3.5%	41.4%	34.5%	20.7%	100.1%
	第3回	度数	1	16	10	2	29
		割合	3.5%	55.2%	34.5%	6.9%	100.1%
	第4回	度数	2	7	9	6	24
		割合	8.3%	29.2%	37.5%	25.0%	100.0%
自然体験活動プログラムの間接指導	第2回	度数	0	13	8	9	30
		割合	0.0%	43.3%	26.7%	30.0%	100.0%
	第3回	度数	1	14	11	3	29
		割合	3.5%	48.3%	37.9%	10.3%	100.0%
	第4回	度数	4	8	8	4	24
		割合	16.7%	33.3%	33.3%	16.7%	100.0%
グループワークの直接指導	第2回	度数	0	3	8	19	30
		割合	0.0%	10.0%	26.7%	63.3%	100.0%
	第3回	度数	1	3	7	18	29
		割合	3.5%	10.3%	24.1%	62.1%	100.0%
	第4回	度数	1	0	7	16	24
		割合	4.2%	0%	29.2%	66.7%	100.1%
新型コロナウイルス感染防止のための消毒作業	第2回	度数	9	10	8	3	30
		割合	30.0%	33.3%	26.7%	10.0%	100.0%
	第3回	度数	6	13	6	4	29
		割合	20.7%	44.8%	20.7%	13.8%	100.0%
	第4回	度数	0	2	4	18	24
		割合	0%	8.3%	16.7%	75.0%	100.0%

## 2 教育事業に関する業務の実施状況

### (1) 宿泊を伴う教育事業の主担当数

宿泊を伴う教育事業の企画・運営の中心となる主担当を、1年間でどの程度担ったかを尋ねた結果は図2-2、表2-2のとおりである。

1事業以上担当した割合は、第3回が96.6%と最も高く、次いで第2回が93.4%、第4回が91.7%となっている。

また、2事業以上担当した割合を見ると、第3回が89.7%と最も高く、次いで第2回が83.4%、第4回が66.7%となる。第3回は「4事業以上」と回答した割合が48.3%で、他の回よりも高い傾向が見られる。

なお、「ない」と回答した者が各回とも1名もしくは2名いることが分かる。

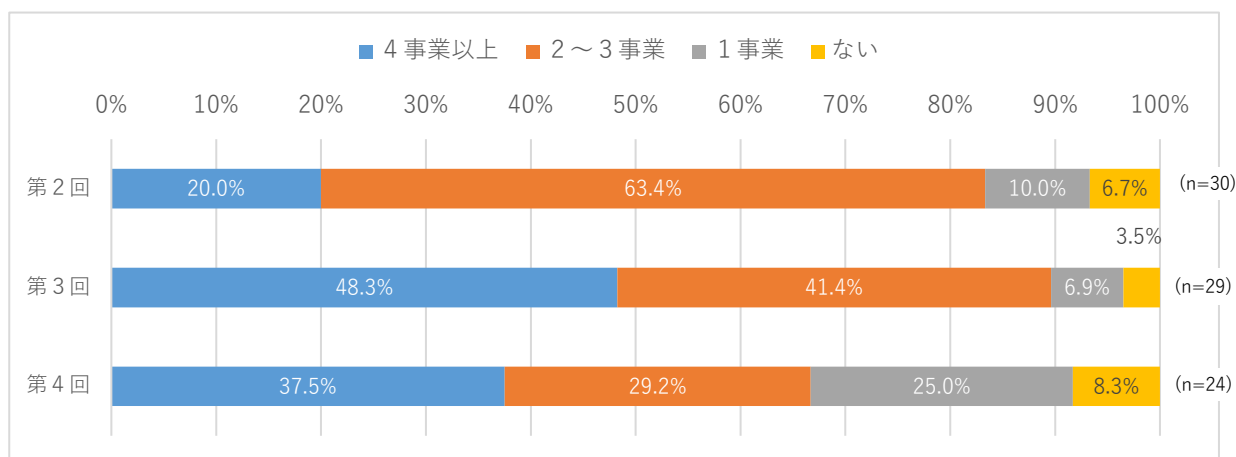


図 2-2 宿泊を伴う教育事業の主担当数

表 2-2 宿泊を伴う教育事業の主担当数

主担当数	第2回		第3回		第4回	
	度数	割合	度数	割合	度数	割合
4事業以上	6	20.0%	14	48.3%	9	37.5%
2～3事業	19	63.4%	12	41.4%	7	29.2%
1事業	3	10.0%	2	6.9%	6	25.0%
ない	2	6.7%	1	3.5%	2	8.3%
合計	30	100.1%	29	100.1%	24	100.0%

## (2) 主担当となった宿泊を伴う教育事業の対象

主担当となった宿泊を伴う教育事業の対象を尋ねた結果は図2-3, 表2-3のとおりである。

「教員として勤務した学校種以外の青少年を対象とした事業」の第2回が71.4%, 第3回が85.7%, 第4回が63.6%となっており, 他の対象と比べると高い傾向が見られる。また, 低い傾向が見られるのは「指導者を対象とした研修事業」で第2回が35.7%, 第3回が33.3%, 第4回が36.4%となっている。

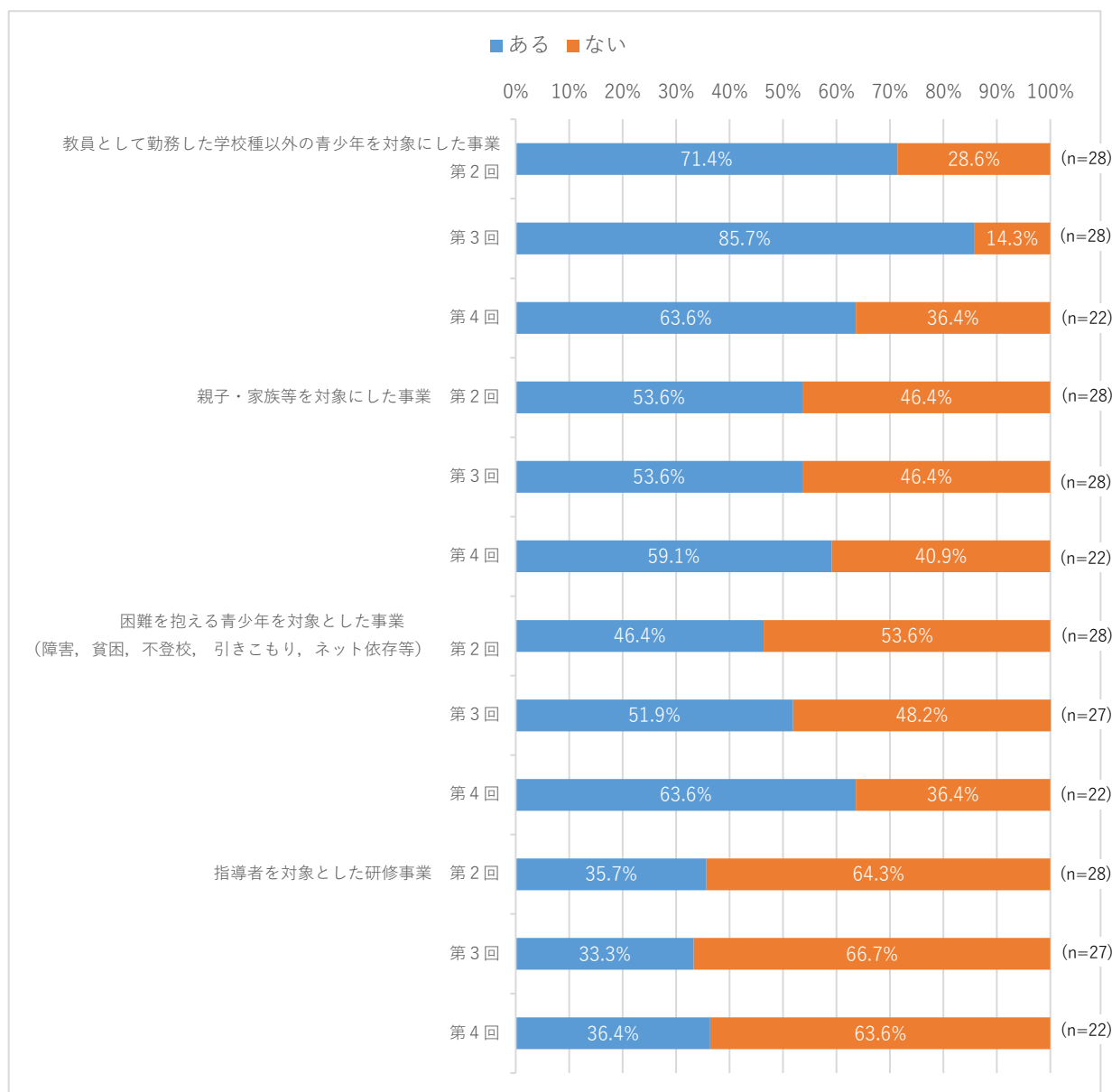


図 2-3 主担当となった宿泊を伴う教育事業の対象

表 2-3 主担当となった宿泊を伴う教育事業の対象

対象	実施回	度数	ある	ない	合計
		割合			
教員として勤務した学校種以外の青少年を対象にした事業	第2回	度数	20	8	28
		割合	71.4%	28.6%	100.0
	第3回	度数	24	4	28
		割合	85.7%	14.3%	100.0%
	第4回	度数	14	8	22
		割合	63.6%	36.4%	100.0%
親子・家族等を対象にした事業	第2回	度数	15	13	28
		割合	53.6%	46.4%	100.0
	第3回	度数	15	13	28
		割合	53.6%	46.4%	100.0%
	第4回	度数	13	9	22
		割合	59.1%	40.9%	100.0%
困難を抱える青少年を対象とした事業（障害，貧困，不登校，引きこもり，ネット依存等）	第2回	度数	13	15	28
		割合	46.4%	53.6%	100.0
	第3回	度数	14	13	27
		割合	51.9%	48.2	100.1%
	第4回	度数	14	8	22
		割合	63.6%	36.4%	100.0%
指導者を対象とした研修事業	第2回	度数	10	18	28
		割合	35.7%	64.3%	100.0
	第3回	度数	9	18	27
		割合	33.3%	66.7%	100.0%
	第4回	度数	8	14	22
		割合	36.4%	63.6%	100.0%

### 3 仕事を進める上での協議の実施状況

#### (1) 協議の対象別の実施状況

仕事を進める上で、所長等との協議をどの程度行ったのかを尋ねた結果は図 2-4、表 2-4 のとおりである。

「行った」または「どちらかというに行った」と回答した割合は、各回とも「所長」「次長」「他の専門職等」「専門職等以外の職員」「関係機関または地域の団体等」のいずれも概ね 80% を超えている。また、各対象の各回の割合を比較すると、いずれも第 2 回（1 年目）が最も高く、第 2 回、第 3 回、第 4 回と段々低くなっている傾向が見られる。

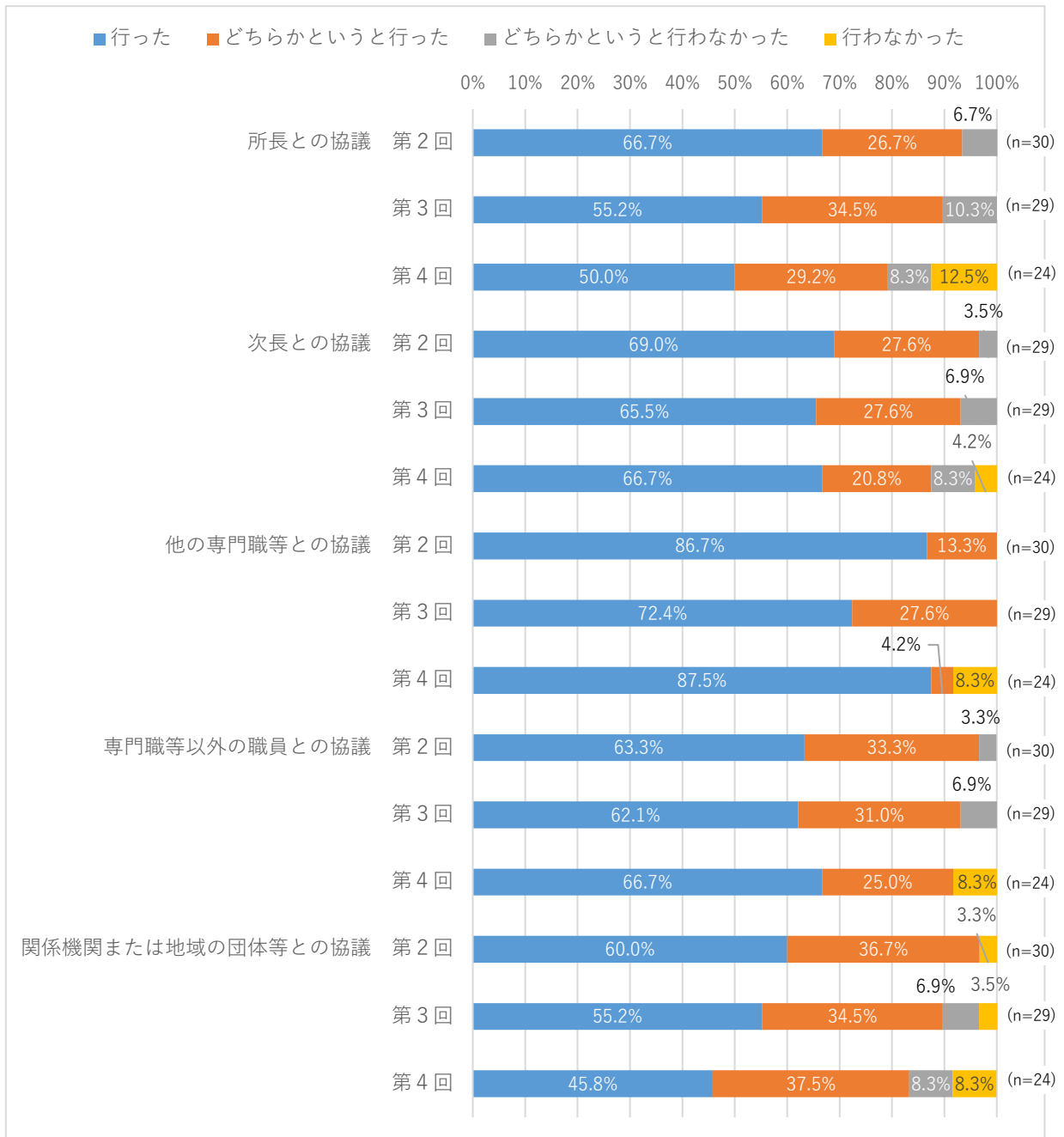


図 2-4 仕事を進める上での協議の実施状況

表 2-4 仕事を進める上での協議の実施状況

協議の対象	実施回	度数 割合	行った	どちらかとい	どちらかとい	行わな かった	合計
				行った	行わなかった		
所長との協議	第 2 回	度数	20	8	2	0	30
		割合	66.7%	26.7%	6.7%	0.0%	100.1%
	第 3 回	度数	16	10	3	0	29
		割合	55.2%	34.5%	10.3%	0.0%	100.0%
	第 4 回	度数	12	7	2	3	24
		割合	50.0%	29.2%	8.3%	12.5%	100.0%
次長との協議	第 2 回	度数	20	8	1	0	29
		割合	69.0%	27.6%	3.5%	0.0%	100.1%
	第 3 回	度数	19	8	2	0	29
		割合	65.5%	27.6%	6.9%	0.0%	100.0%
	第 4 回	度数	16	5	2	1	24
		割合	66.7%	20.8%	8.3%	4.2%	100.0%
他の専門職等との協議	第 2 回	度数	26	4	0	0	30
		割合	86.7%	13.3%	0.0%	0.0%	100.0%
	第 3 回	度数	21	8	0	0	29
		割合	72.4%	27.6%	0.0%	0.0%	100.0%
	第 4 回	度数	21	1	0	2	24
		割合	87.5%	4.2%	0.0%	8.3%	100.0%
専門職等以外の職員との協議	第 2 回	度数	19	10	1	0	30
		割合	63.3%	33.3%	3.3%	0.0%	99.9%
	第 3 回	度数	18	9	2	0	29
		割合	62.1%	31.0%	6.9%	0.0%	100.0%
	第 4 回	度数	16	6	0	2	24
		割合	66.7%	25.0%	0.0%	8.3%	100.0%
関係機関または地域の団体等との協議	第 2 回	度数	18	11	0	1	30
		割合	60.0%	36.7%	0.0%	3.3%	100.0%
	第 3 回	度数	16	10	2	1	29
		割合	55.2%	34.5%	6.9%	3.5%	100.1%
	第 4 回	度数	11	9	2	2	24
		割合	45.8%	37.5%	8.3%	8.3%	99.9%

## (2) 所長または次長との協議内容 (第 3 回・第 4 回)

第 3 回と第 4 回で、仕事を進める上で所長または次長とどのような協議を行ったのかを尋ねた結果は図 2-5、表 2-5 のとおりである。

「行った」または「どちらかというに行った」と回答した割合は、「教育事業の企画の段階で、事業の内容・指導方法・運営に関すること」の第 3 回が 89.3%、第 4 回が 78.3%で、他の項目と比べると高い傾向が見られる。

「行った」または「どちらかというに行った」と回答した割合が、第 3 回よりも第 4 回の方が低くなっている項目は、「教育事業の企画の段階で、事業の内容・指導方法・運営に関すること」「年度当初に、あなたが業務の見通し・目標を設定すること」「仕事に取り組むあなたの姿勢・意欲に関すること」「仕事をする上で必要なあなたの資質・能力に関すること」の 4 項目となっている。一方、第 3 回よりも第 4 回の方が高くなっている項目は、「教育事業の

後で、事業の評価に関すること」「年度途中で、あなたが設定した年度当初の業務の見通し・目標の評価・修正に関すること」の2項目となっている。

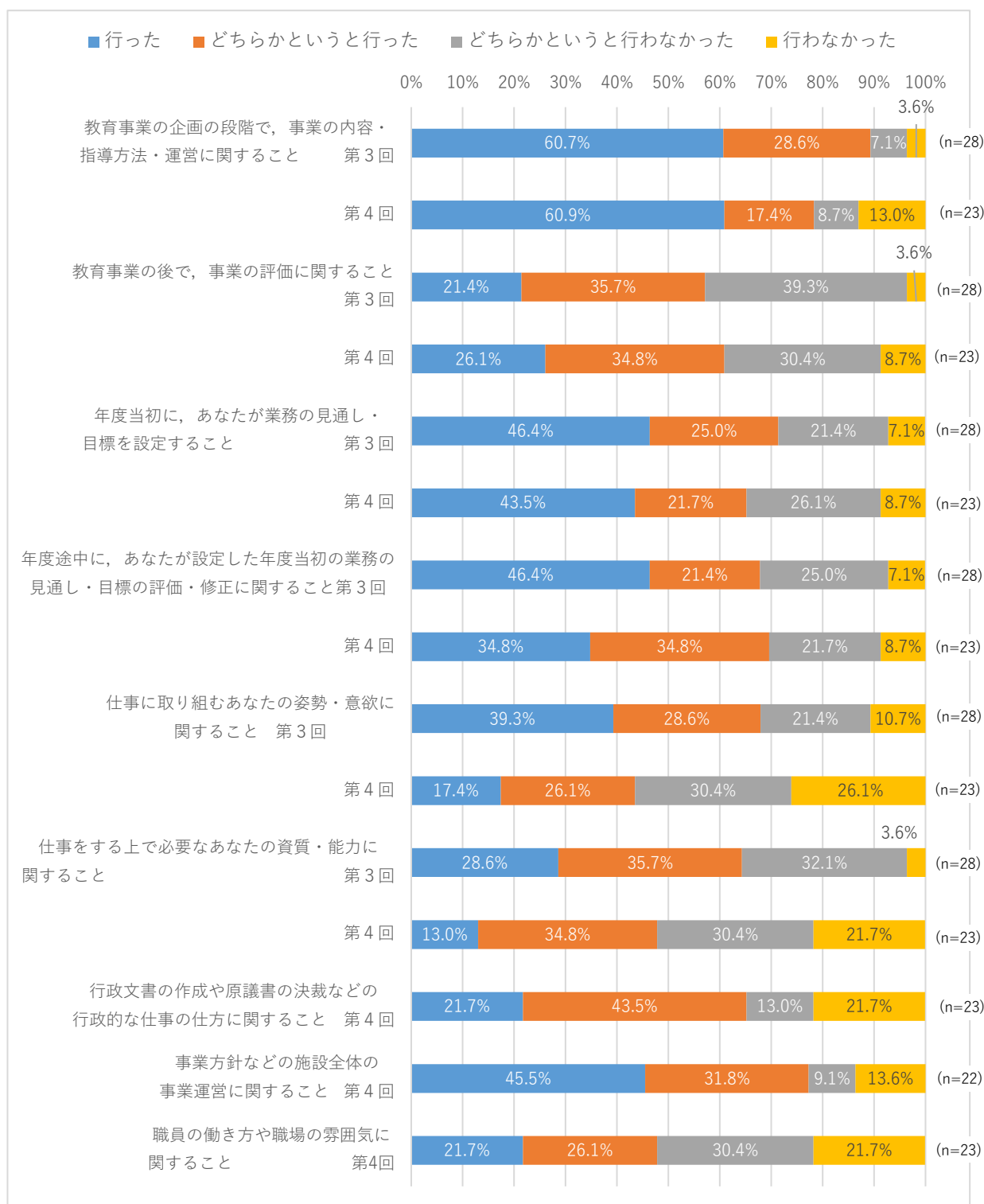


図 2-5 所長または次長との協議の内容

表 2-5 所長または次長との協議の内容

協議対象	実施回	度数		行った	どちらかとい 行った	どちらかとい 行わなかった	行わな かった	合計
		割合	割合					
教育事業の企画の段階で、 事業の内容・指導方法・運 営に関すること	第3回	度数	17	8	2	1	28	
		割合	60.7%	28.6%	7.1%	3.6%	100.0%	
	第4回	度数	14	4	2	3	23	
		割合	60.9%	17.4%	8.7%	13.0%	100.0%	
教育事業の後で、事業の評 価に関すること	第3回	度数	6	10	11	1	28	
		割合	21.4%	35.7%	39.3%	3.6%	100.0%	
	第4回	度数	6	8	7	2	23	
		割合	26.1%	34.8%	30.4%	8.7%	100.0%	
年度当初に、あなたが業務 の見通し・目標を設定する こと	第3回	度数	13	7	6	2	28	
		割合	46.4%	25.0%	21.4%	7.1%	99.9%	
	第4回	度数	10	5	6	2	23	
		割合	43.5%	21.7%	26.1%	8.7%	100.0%	
年度途中に、あなたが設定 した年度当初の業務の見 通し・目標の評価・修正に 関すること	第3回	度数	13	6	7	2	28	
		割合	46.4%	21.4%	25.0%	7.1%	100.1%	
	第4回	度数	8	8	5	2	23	
		割合	34.8%	34.8%	21.7%	8.7%	100.0%	
仕事に取り組むあなたの 姿勢・意欲に関すること	第3回	度数	11	8	6	3	28	
		割合	39.3%	28.6%	21.4%	10.7%	100.0%	
	第4回	度数	4	6	7	6	23	
		割合	17.4%	26.1%	30.4%	26.1%	100.0%	
仕事をする上で必要なあ なたの資質・能力に関す ること	第3回	度数	8	10	9	1	28	
		割合	28.6%	35.7%	32.1%	3.6%	100.0%	
	第4回	度数	3	8	7	5	23	
		割合	13.0%	34.8%	30.4%	21.7%	99.9%	
行政文書の作成や原議書 の決裁などの行政的な仕 事の仕方に関すること	第4回	度数	5	10	3	5	23	
		割合	21.7%	43.5%	13.0%	21.7%	99.9%	
事業方針などの施設全体 の事業運営に関すること	第4回	度数	10	7	2	3	22	
		割合	45.5%	31.8%	9.1%	13.6%	100.0%	
職員の働き方や職場の雰 囲気に関すること	第4回	度数	5	6	7	5	23	
		割合	21.7%	26.1%	30.4%	21.7%	99.9%	

### (3) 所長または次長と協議したいこと (第3回)

第3回調査で、所長または次長と、どのようなことを協議(対話)したいと思うかを自由記述で最大3件まで尋ねたところ、28人(全回答者数29人)から50件の回答があった。筆者が回答を分類した結果は表2-6の通りである。

表 2-6 所長または次長と協議したいこと

分類	回答
<p>所の運営に関すること</p>	<p>①機構及び所の方針，方向性について            ②所としての教育ビジョンを示していただき，それにのっとっているかについて話したかった。            ③超過勤務の削減など効率的な運営を求められるが，機構の方針や業務分担についての明確な指示がなく，指示を待っている時間や急な依頼があり，計画的な業務はできなかった。本部の方針，所としての方針を示して欲しい。            ④早い段階で，今年の方針（メインの活動，どの関係機関と連携するのか，機構の方針として数年に渡る事業はその方向性の確認等）を決めること。            ⑤所としての方針を具体的に示していただけると，業務が円滑に進められると思う。            ⑥施設の運営に関すること。            ⑦全体的な運営について，再度確認したい。            ⑧他機関との連携等について</p>
<p>業務全般に関すること</p>	<p>①日々の業務に関すること。            ②業務改善について            ③円滑な業務運営            ④施設の業務について            ⑤業務の分担について            ⑥係の横断的連携の仕方            ⑦他部署との連携，共有についての方法について            ⑧誰もが働きやすいと感じる職場づくりについて            ⑨働きやすい職場づくり            ⑩予算の有効利用についてアドバイスが欲しい。            ⑪安全管理</p>
<p>教育事業に関すること</p>	<p>①教育事業の在り方について（勤務体制等）            ②教育事業の運営方針            ③企画事業の持つ意味等について            ④プログラム化等，数年に渡る事業の情報共有            ⑤事業や活動のねらい            ⑥教育事業の内容に関する協議            ⑦事業をとおして，参加者にどのような資質・能力が身につくのか。            ⑧参加者が体験活動をとおして，どのような知識や思考力・判断力・表現力等が身につくのか，学校教育との関連をどのように持たせて進めていくのか。            事業の具体的な内容教育事業の運営について            ⑨企画の進め方，運営方法について            ⑩教育事業のプログラムについて</p>

	①新規教育事業の開発について ②機構として目指す事業の目的に沿って計画立案できるように助言が欲しい。 ③教育事業に対しての指導・助言 ④ある程度固まった時点での助言
研修支援に関すること	①主に学校団体に対する対応（本当に学校が求めていることは何なのだろうかということ）。また、本当に必要な支援は何なのだろうかということ。 ②研修支援や教育事業の内容に関すること ③利用団体への対応の仕方 ④利用団体への指導の仕方
研修に関すること	①職員研修について（職員のスキルアップ） ②研修等自己研鑽に関すること
働き方に関すること	①勤務体制についての相談 ②計画性を持った働き方 ③職員の福利厚生
体験活動に関すること	①今後の小・中学生を対象とした体験活動の充実について ②現在の小・中学校で行われている教育活動といかにリンクできる部分があるか、どうリンクを強めるのか。 ③小・中・高のつながりを意識した体験活動の在り方や持ち方について
その他	①最近の世の中の事 ②私生活に関すること ③今現在、十分にできていると感じており、満足しています。

#### 4 研修の受講状況

##### (1) 受講した研修

各年度、受講した研修を尋ねた結果は図 2-6、表 2-7 のとおりである。なお、研修は参加者が一堂に会し指導者から直接指導を受けた場合としている。また、「施設で受けた」は自施設で実施した場合、「外部で受けた」は自施設以外の機関等（機構本部を含む）が実施する研修に参加した場合としている。

「受講した」と回答した割合が高いのは、第 2 回の「野外炊事」が 90%、第 2 回の「安全管理・危機管理」が 90%、第 2 回の「青少年教育」が 86.7%、第 2 回の「青少年教育振興機構」が 96.7%となっている。

「受講した」と回答した場合、「施設で受けた」と「外部で受けた」を見ると「施設で受けた」の方に高い傾向が見られる。ただし、「レクリエーション」「ファシリテーション」「コーディネート」「青少年教育振興機構（第 2 回）」については、「外部で受けた」と回答した割合が、他の項目と比べると高い傾向が見られる。

「受講しなかった」と回答した割合が高い項目は、「インタープリテーション」の第 2 回が 79.3%、第 3 回が 93.1%、第 4 が 91.7%、「カウンセリング」の第 2 回が 86.2%、第 3 回が 93.1%、第 4 回が 91.7%となっている。

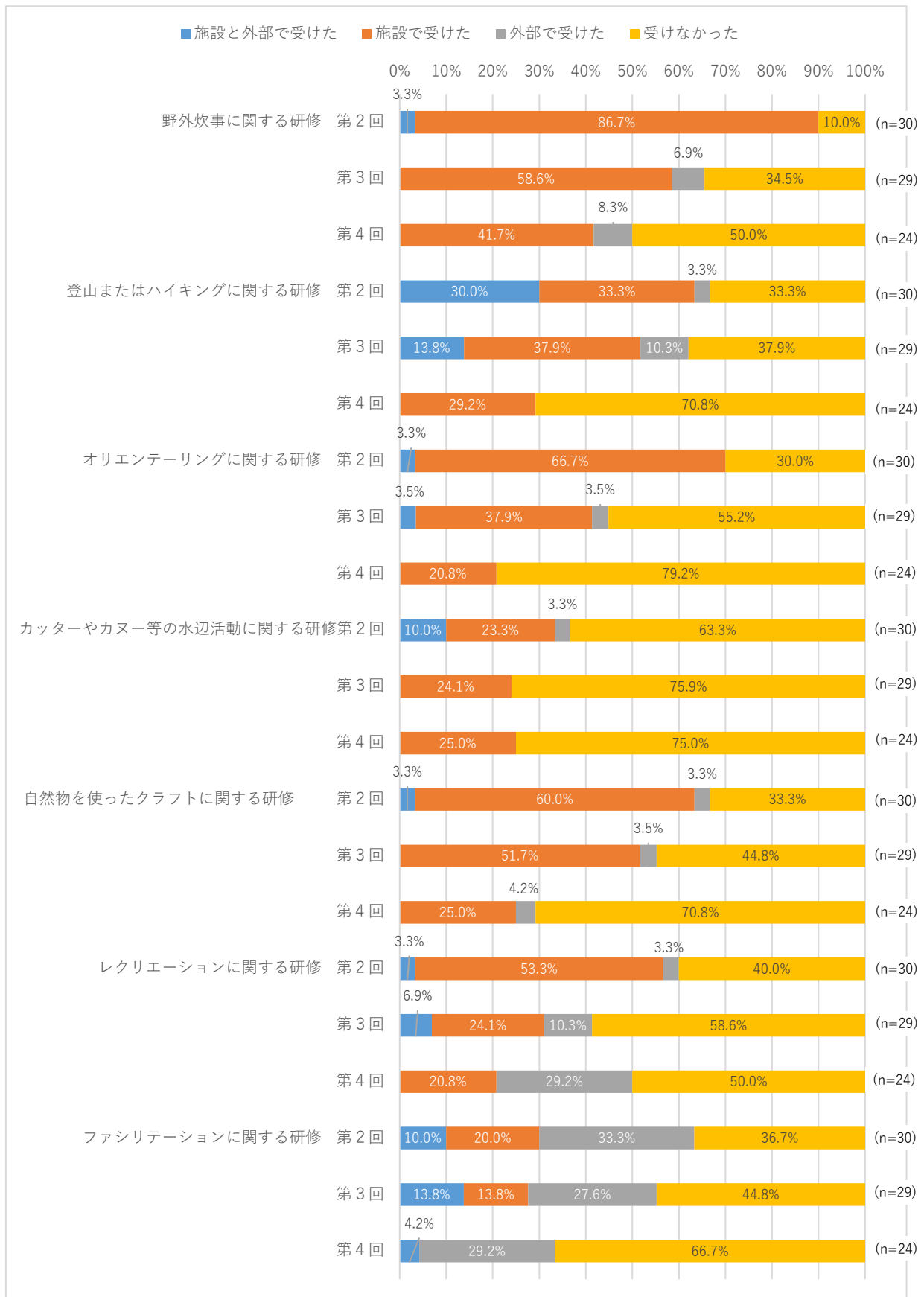


図 2-6 受講した研修 1

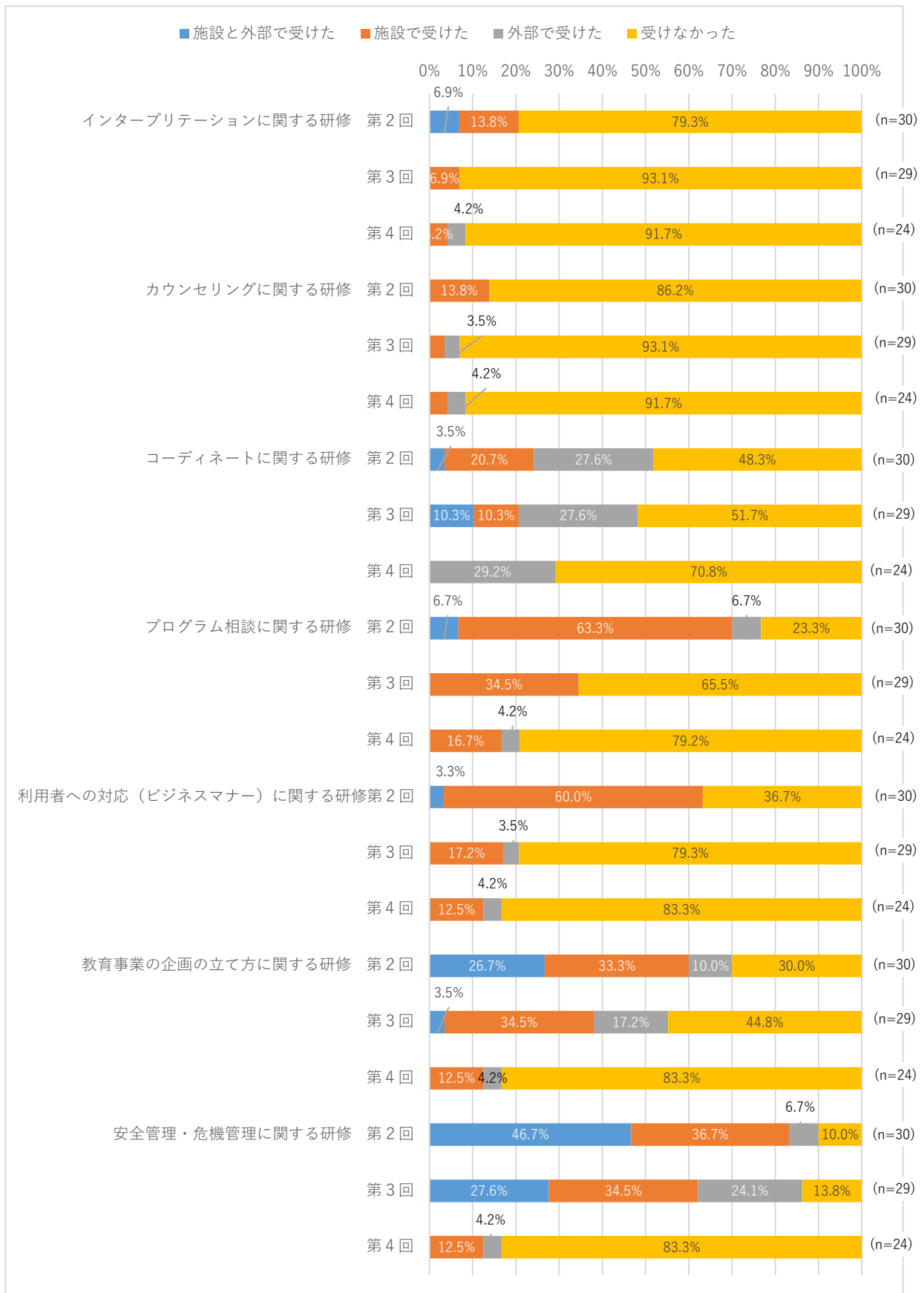


図 2-6 受講した研修 2

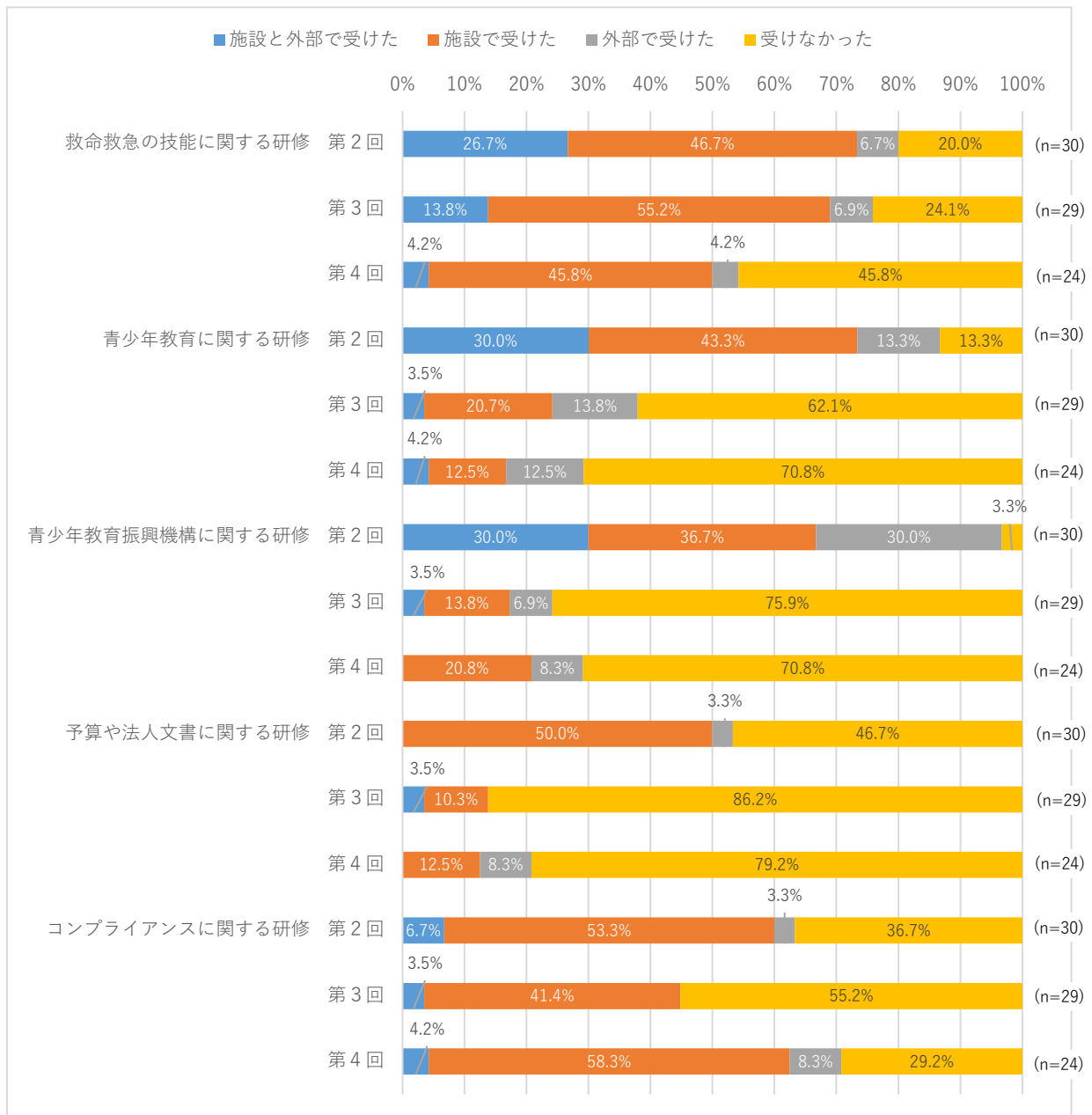


図 2-6 受講した研修 3

表 2-7 受講した研修 1

研修内容	実施回	度数		施設と外部の 両方で受けた	施設で 受けた	外部で 受けた	受けな かった	合計
		割合						
野外炊事に関する研修	第2回	度数	1	26	0	3	30	
		割合	3.3%	86.7%	0.0%	10.0%	100.0%	
	第3回	度数	0	17	2	10	29	
		割合	0.0%	58.6%	6.9%	34.5%	100.0%	
	第4回	度数	0	10	2	12	24	
		割合	0.0%	41.7%	8.3%	50.0%	100.0%	
登山やハイキングに関する研修	第2回	度数	9	10	1	10	30	
		割合	30.0%	33.3%	3.3%	33.3%	99.9%	
	第3回	度数	4	11	3	11	29	
		割合	13.8%	37.9%	10.3%	37.9%	99.9%	
	第4回	度数	0	7	0	17	24	
		割合	0.0%	29.2%	0.0%	70.8%	100.0%	
オリエンテーリングに関する研修	第2回	度数	1	20	0	9	30	
		割合	3.3%	66.7%	0.0%	30.0%	100.0%	
	第3回	度数	1	11	1	16	29	
		割合	3.5%	37.9%	3.5%	55.2%	100.1%	
	第4回	度数	0	5	0	19	24	
		割合	0.0%	20.8%	0.0%	79.2%	100.0%	
カッターやカヌー等の水辺活動に関する研修	第2回	度数	3	7	1	19	30	
		割合	10.0%	23.3%	3.3%	63.3%	100.1%	
	第3回	度数	0	7	0	22	29	
		割合	0.0%	24.1%	0.0%	75.9%	100.0%	
	第4回	度数	0	6	0	18	24	
		割合	0.0%	25.0%	0.0%	75.0%	100.0%	
自然物を使ったクラフトに関する研修	第2回	度数	1	18	1	10	30	
		割合	3.3%	60.0%	3.3%	33.3%	99.9%	
	第3回	度数	0	15	1	13	29	
		割合	0.0%	51.7%	3.5%	44.8%	100.0%	
	第4回	度数	0	6	1	17	24	
		割合	0.0%	25.0%	4.2%	70.8%	100.0%	
レクリエーションに関する研修	第2回	度数	1	16	1	12	30	
		割合	3.3%	53.3%	3.3%	40.0%	99.9%	
	第3回	度数	2	7	3	17	29	
		割合	6.9%	24.1%	10.3%	58.6%	99.9%	
	第4回	度数	0	5	7	12	24	
		割合	0.0%	20.8%	29.2%	50.0%	100.0%	
ファシリテーションに関する研修	第2回	度数	3	6	10	11	30	
		割合	10.0%	20.0%	33.3%	36.7%	100.0%	
	第3回	度数	4	4	8	13	29	
		割合	13.8%	13.8%	27.6%	44.8%	100.0%	
	第4回	度数	1	0	7	16	24	
		割合	4.2%	0.0%	29.2%	66.7%	100.1%	

表 2-7 受講した研修 2

研修内容	実施回	度数		施設と外部の 両方で受けた	施設で 受けた	外部で 受けた	受けな かった	合計
		割合						
インタープリテーションに関する研修	第2回	度数	2	4	0	23	29	
		割合	6.9%	13.8%	0.0%	79.3%	100.0%	
	第3回	度数	0	2	0	27	29	
		割合	0.0%	6.9%	0.0%	93.1%	100.0%	
	第4回	度数	0	1	1	22	24	
		割合	0.0%	4.2%	4.2%	91.7%	100.1%	
カウンセリングに関する研修	第2回	度数	0	4	0	25	29	
		割合	0.0%	13.8%	0.0%	86.2%	100.0%	
	第3回	度数	0	1	1	27	29	
		割合	0.0%	3.5%	3.5%	93.1%	100.1%	
	第4回	度数	0	1	1	22	24	
		割合	0.0%	4.2%	4.2%	91.7%	100.1%	
コーディネートに関する研修	第2回	度数	1	6	8	14	29	
		割合	3.5%	20.7%	27.6%	48.3%	100.1%	
	第3回	度数	3	3	8	15	29	
		割合	10.3%	10.3%	27.6%	51.7%	99.9	
	第4回	度数	0	0	7	17	24	
		割合	0.0%	0.0%	29.2%	70.8%	100.0%	
プログラム相談に関する研修	第2回	度数	2	19	2	7	30	
		割合	6.7%	63.3%	6.7%	23.3%	100.0%	
	第3回	度数	0	10	0	19	29	
		割合	0.0%	34.5%	0.0%	65.5%	100.0%	
	第4回	度数	0	4	1	19	24	
		割合	0.0%	16.7%	4.2%	79.2%	100.1%	
利用者への対応（ビジネスマナー）に関する研修	第2回	度数	1	18	0	11	30	
		割合	3.3%	60.0%	0.0%	36.7%	100.0%	
	第3回	度数	0	5	1	23	29	
		割合	0.0%	17.2%	3.5%	79.3%	100.0%	
	第4回	度数	0	3	1	20	24	
		割合	0.0%	12.5%	4.2%	83.3%	100.0%	
教育事業の企画の立て方に関する研修	第2回	度数	8	10	3	9	30	
		割合	26.7%	33.3%	10.0%	30.0%	100.0%	
	第3回	度数	1	10	5	13	29	
		割合	3.5%	34.5%	17.2%	44.8%	100.0%	
	第4回	度数	0	3	1	20	24	
		割合	0.0%	12.5%	4.2%	83.3%	100.0%	
安全管理・危機管理に関する研修	第2回	度数	14	11	2	3	30	
		割合	46.7%	36.7%	6.7%	10.0%	100.1%	
	第3回	度数	8	10	7	4	29	
		割合	27.6%	34.5%	24.1%	13.8%	100.0%	
	第4回	度数	0	9	2	13	24	
		割合	0.0%	37.5%	8.3%	54.2%	100.0%	

表 2-7 受講した研修 3

研修内容	実施回	度数	施設と外部の 両方で受けた	施設で 受けた	外部で 受けた	受けな かった	合計
		割合					
救命救急の技能に関する研修	第2回	度数	8	14	2	6	30
		割合	26.7%	46.7%	6.7%	20.0%	100.0%
	第3回	度数	4	16	2	7	29
		割合	13.8%	55.2%	6.9%	24.1%	100.0%
	第4回	度数	1	11	1	11	24
		割合	4.2%	45.8%	4.2%	45.8%	100.0%
青少年教育に関する研修	第2回	度数	9	13	4	4	30
		割合	30.0%	43.3%	13.3%	13.3%	99.9%
	第3回	度数	1	6	4	18	29
		割合	3.5%	20.7%	13.8%	62.1%	100.1%
	第4回	度数	1	3	3	17	24
		割合	4.2%	12.5%	12.5%	70.8%	100.0%
青少年教育振興機構に関する研修	第2回	度数	9	11	9	1	30
		割合	30.0%	36.7%	30.0%	3.3%	100.0%
	第3回	度数	1	4	2	22	29
		割合	3.5%	13.8%	6.9%	75.9%	100.1%
	第4回	度数	0	5	2	17	24
		割合	0.0%	20.8%	8.3%	70.8%	99.9%
予算や法人文書に関する研修	第2回	度数	0	15	1	14	30
		割合	0.0%	50.0%	3.3%	46.7%	100.0%
	第3回	度数	1	3	0	25	29
		割合	3.5%	10.3%	0.0%	86.2%	100.0%
	第4回	度数	0	3	2	19	24
		割合	0.0%	12.5%	8.3%	79.2%	100.0%
コンプライアンスに関する研修	第2回	度数	2	16	1	11	30
		割合	6.7%	53.3%	3.3%	36.7%	100.0%
	第3回	度数	1	12	0	16	29
		割合	3.5%	41.4%	0.0%	55.2%	100.1%
	第4回	度数	1	14	2	7	24
		割合	4.2%	58.3%	8.3%	29.2%	100.0%

## (2) オンデマンドまたはライブ配信で受講した研修（第3回）

新型コロナウイルス禍の令和4年4月～令和5年3月に、「オンデマンド配信」または「ライブ配信」で受講した研修の結果は図2-7、表2-8のとおりである。

なお、「オンデマンド配信」は研修の動画を自分の都合のよい時にPC等で視聴する場合とし、「ライブ配信」は研修が行われている時（リアルタイム）に、PC等で研修の動画を視聴する場合とした。

「オンデマンド配信」または「ライブ配信」で受講した主な研修は「コンプライアンス」が34.5%、「コーディネート」が17.2%、「教育事業の企画の立て方」が10.5%、「青少年教育振興機構」が10.5%、「ファシリテーション」が10.4%、「安全管理・危機管理」が10.4%、「青少年教育」が10.4%となっている。

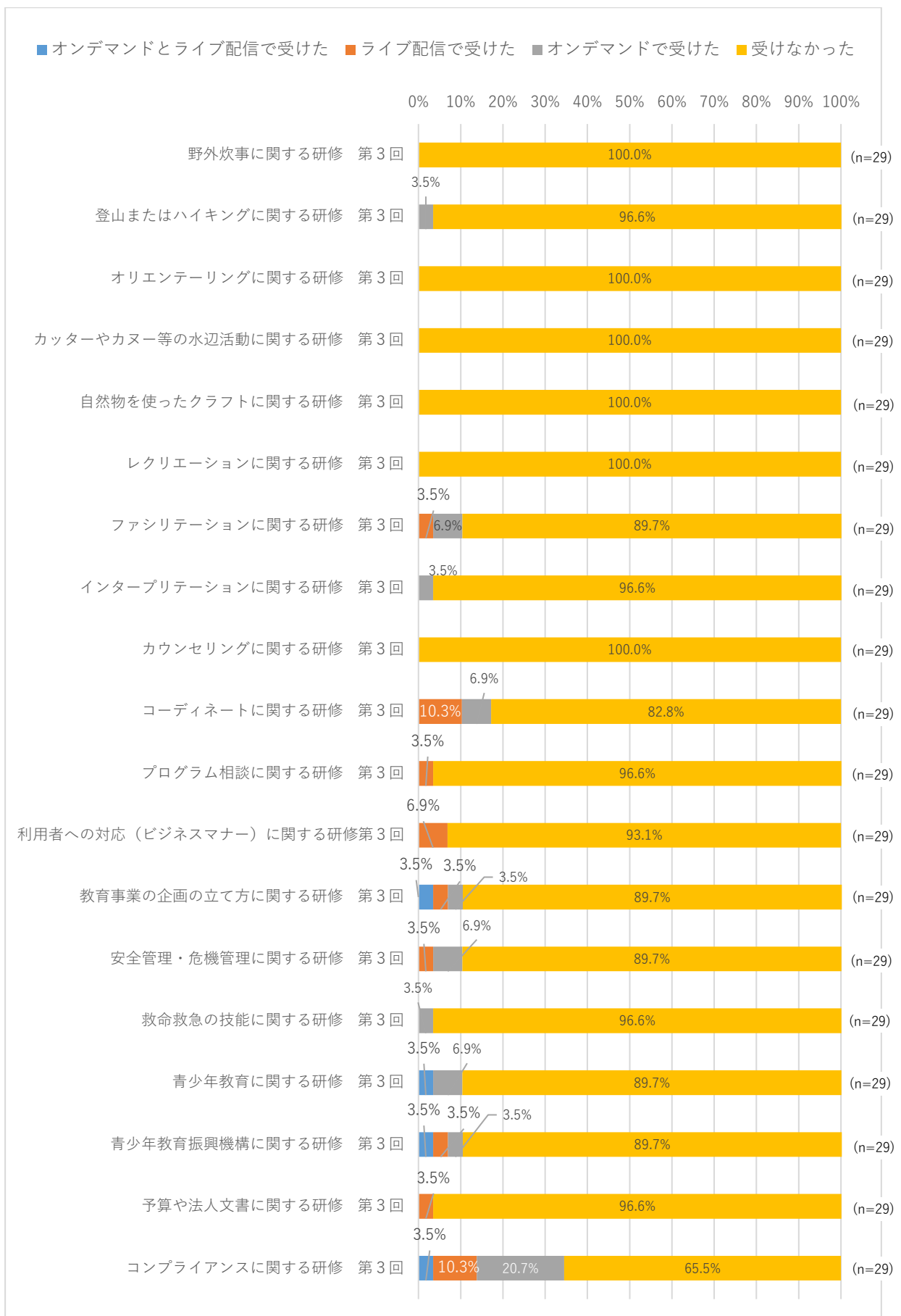


図 2-7 オンデマンドまたはライブ配信で受講した研修

表 2-8 オンデマンドまたはライブ配信で受講した研修

研修内容	実施回	度数	オンデマンド+ライブ 両方で受けた	ライブ 受けた	オンデマンド 受けた	受けな かった	合計
		割合					
野外炊事に関する研修	第3回	度数	0	0	0	29	29
		割合	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
登山やハイキングに関する研修	第3回	度数	0	0	1	28	29
		割合	0.0%	0.0%	3.5%	96.6%	100.1%
オリエンテーリングに関する研修	第3回	度数	0	0	0	29	29
		割合	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
カッターやカヌー等の水辺活動に関する研修	第3回	度数	0	0	0	29	29
		割合	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
自然物を使ったクラフトに関する研修	第3回	度数	0	0	0	29	29
		割合	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
レクリエーションに関する研修	第3回	度数	0	0	0	29	29
		割合	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
ファシリテーションに関する研修	第3回	度数	0	1	2	26	29
		割合	0.0%	3.5%	6.9%	89.7%	100.1%
インタープリテーションに関する研修	第3回	度数	0	0	1	28	29
		割合	0.0%	0.0%	3.5%	96.6%	100.1%
カウンセリングに関する研修	第3回	度数	0	0	0	29	29
		割合	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
コーディネートに関する研修	第3回	度数	0	3	2	24	29
		割合	0.0%	10.3%	6.9%	82.8%	100.0%
プログラム相談に関する研修	第3回	度数	0	1	0	28	29
		割合	0.0%	3.5%	0.0%	96.6%	100.1%
利用者への対応（ビジネスマナー）に関する研修	第3回	度数	0	2	0	27	29
		割合	0.0%	6.9%	0.0%	93.1%	100.0%
教育事業の企画の立て方に関する研修	第3回	度数	1	1	1	26	29
		割合	3.5%	3.5%	3.5%	89.7%	100.2%
安全管理・危機管理に関する研修	第3回	度数	0	1	2	26	29
		割合	0.0%	3.5%	6.9%	89.7%	100.1%
救命救急の技能に関する研修	第3回	度数	0	0	1	28	29
		割合	0.0%	0.0%	3.5%	96.6%	100.0%
青少年教育に関する研修	第3回	度数	1	0	2	26	29
		割合	3.5%	0.0%	6.9%	89.7%	100.1%
青少年教育振興機構に関する研修	第3回	度数	1	1	1	26	29
		割合	3.5%	3.5%	3.5%	89.7%	100.2%
予算や法人文書に関する研修	第3回	度数	0	1	0	28	29
		割合	0.0%	3.5%	0.0%	96.6%	100.1%
コンプライアンスに関する研修	第3回	度数	1	3	6	19	29
		割合	3.5%	10.3%	20.7%	65.5%	100.0%

### (3) 独立行政法人教職員支援機構が主催する研修の受講

独立行政法人教職員支援機構が主催する研修の受講を尋ねた結果は図 2-8、表 2-9 のとおりである。受講した割合は第 3 回が 72.4%で最も高く、次いで第 4 回が 70.8%，第 2 回が 56.7%となっている。

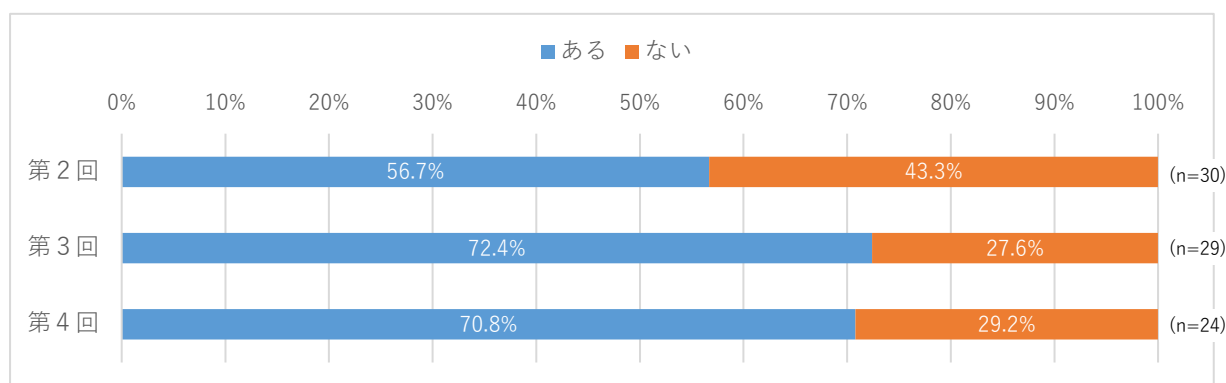


図 2-8 独立行政法人教職員支援機構が主催する研修の受講

表 2-9 独立行政法人教職員支援機構が主催する研修の受講

	第 2 回		第 3 回		第 4 回	
	度数	割合	度数	割合	度数	割合
ある	17	56.7%	21	72.4%	17	70.8%
ない	13	43.3%	8	27.6%	7	29.2%
合計	30	100.0%	29	100.0%	24	100.0%

### (4) 社会教育主事講習の受講（第 3 回・第 4 回）

社会教育主事講習の受講を尋ねた結果は図 2-9、表 2-10 のとおりである。受講した割合は第 3 回が 27.6%，第 4 回が 16.7%となっている。

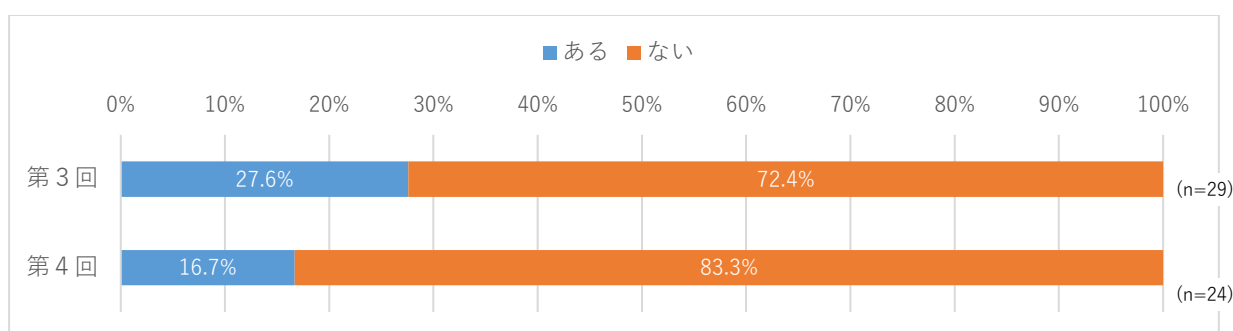


図 2-9 社会教育主事講習の受講

表 2-10 社会教育主事講習の受講

	第 3 回		第 4 回	
	度数	割合	度数	割合
ある	8	27.6%	4	16.7%
ない	21	72.4%	20	83.3%
合計	29	100.0%	24	100.0%

## 5 国立施設での勤務における満足度

国立施設での勤務における満足度を尋ねた結果は図 2-10, 表 2-11 のとおりである。

「満足」または「どちらかという満足」と回答した割合（以下、「満足度」）を見ると、「全体の満足度」は第 4 回の 83.3%が最も高く、次いで第 2 回の 80.0%, 第 3 回の 75.8%となっている。

業務に関する「教育事業の企画・運営」「教育事業の参加者への指導」「研修支援における活動プログラムの指導」「研修支援におけるプログラム相談への対応」の「満足度」は各回とも 70%を超えており、特に、「教育事業の参加者への指導」と「研修支援におけるプログラム相談への対応」の第 3 回は 90%程度と高い傾向が見られる。

勤務条件・環境に関する「勤務形態」の「満足度」は各回とも 60%程度だが、「給料」は第 2 回が 40.0%, 第 4 回が 54.2%と低い傾向が見られる。

運営方針に関する「勤務している施設の方針」の「満足度」は各回とも 70%以上だが、「機構全体の方針」は第 3 回が 51.8%, 第 4 回が 33.3%と低い傾向が見られる。

人間関係に関する「所長」「次長」「同僚（所長・次長を除く職員）」の「満足度」は各回とも 70%を超えおり、「次長」と「同僚」の場合は 80%を超えている。とりわけ、「同僚との関係」の第 3 回が 96.5%で全項目の中で最も高い。

研修に関する「施設が実施した研修」と「施設外が実施した研修」の「満足度」は各回とも 80%程度となっている。

第 2 回と第 4 回の「満足度」を比較し、第 4 回の方が高い項目は、「教育事業の企画・運営」「研修支援における活動プログラムの指導」「給料」「勤務形態（勤務時間や休日、宿直等）」「同僚との関係（所長・次長を除く職員）」「全体の満足度」の 6 項目であり、低い項目は「教育事業の参加者への指導」「研修支援におけるプログラム相談の対応」「勤務している施設の方針等」「機構全体の方針等」（第 2 回の調査項目にはないので、第 3 回と比較）「所長との関係」「次長との関係」の 6 項目となっている。

また、第 3 回の「満足度」がその他の回よりも高い項目は、「教育事業の参加者への指導」「研修支援におけるプログラム相談への対応」「勤務形態（勤務時間や休日、宿直等）」「次長との関係」「同僚との関係（所長・次長を除く職員）」「施設が実施した研修」「施設以外が実施した研修」の 6 項目となっている。

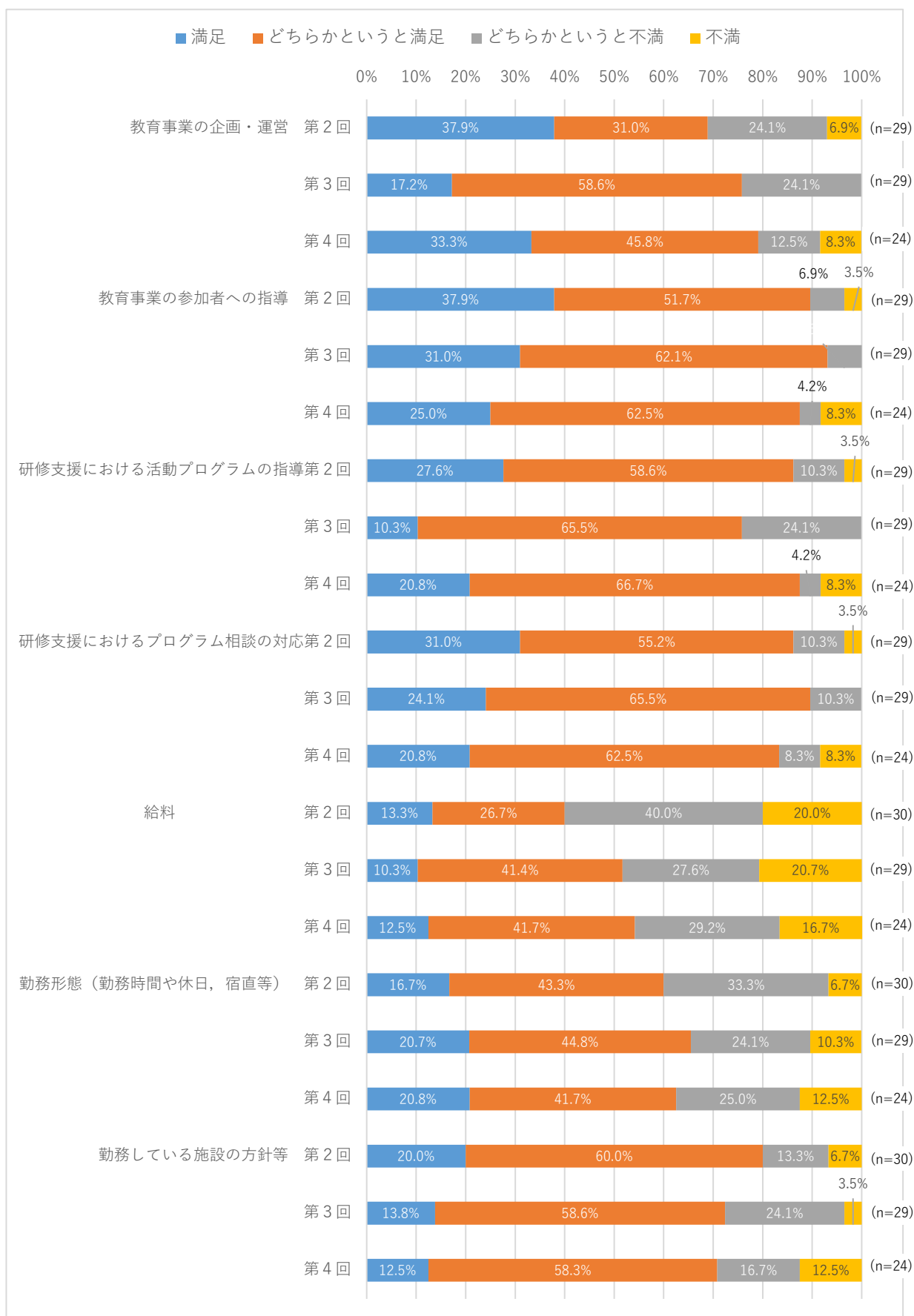


図 2-10 国立施設での勤務における満足度 1

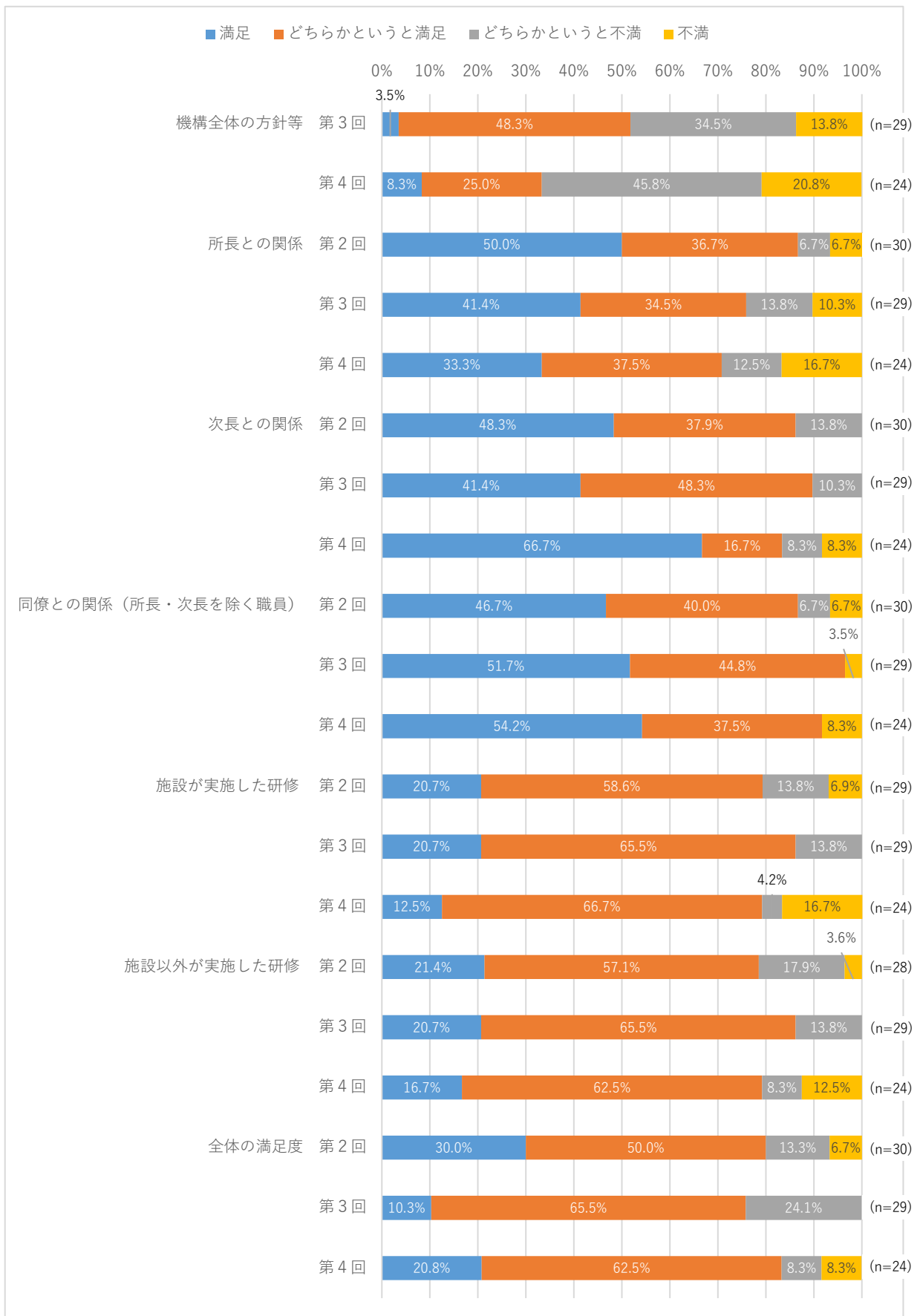


図 2-10 国立施設での勤務における満足度 2

表 2-11 国立施設での勤務における満足度 1

項目	実施回	度数 割合	満足	どちらか というと満足	どちらか というと不満	不満	合計
教育事業の企画・運営	第2回	度数	11	9	7	2	29
		割合	37.9%	31.0%	24.1%	6.9%	99.9%
	第3回	度数	5	17	7	0	29
		割合	17.2%	58.6%	24.1%	0.0%	99.9%
	第4回	度数	8	11	3	2	24
		割合	33.3%	45.8%	12.5%	8.3%	99.9%
教育事業の参加者への指導	第2回	度数	11	15	2	1	29
		割合	37.9%	51.7%	6.9%	3.5%	100.0%
	第3回	度数	9	18	2	0	29
		割合	31.0	62.1	6.9	0.0	100.0
	第4回	度数	6	15	1	2	24
		割合	25.0%	62.5%	4.2%	8.3%	100.0%
研修支援における活動プログラムの指導	第2回	度数	8	17	3	1	29
		割合	27.6%	58.6%	10.3%	3.5%	100.0%
	第3回	度数	3	19	7	0	29
		割合	10.3%	65.5%	24.1%	0.0%	99.9%
	第4回	度数	5	16	1	2	24
		割合	20.8%	66.7%	4.2%	8.3%	100.0%
研修支援におけるプログラム相談の対応	第2回	度数	9	16	3	1	29
		割合	31.0%	55.2%	10.3%	3.5%	100.0%
	第3回	度数	7	19	3	0	29
		割合	24.1%	65.5%	10.3%	0.0%	99.9%
	第4回	度数	5	15	2	2	24
		割合	20.8%	62.5%	8.3%	8.3%	99.9%
給料	第2回	度数	4	8	12	6	30
		割合	13.3%	26.7%	40.0%	20.0%	100.0%
	第3回	度数	3	12	8	6	29
		割合	10.3%	41.4%	27.6%	20.7%	100.0%
	第4回	度数	3	10	7	4	24
		割合	12.5%	41.7%	29.2%	16.7%	100.1%
勤務形態（勤務時間や休日、宿直等）	第2回	度数	5	13	10	2	30
		割合	16.7%	43.3%	33.3%	6.7%	100.0%
	第3回	度数	6	13	7	3	29
		割合	20.7%	44.8%	24.1%	10.3%	99.9%
	第4回	度数	5	10	6	3	24
		割合	20.8%	41.7%	25.0%	12.5%	100.0%
勤務している施設の方針等	第2回	度数	6	18	4	2	30
		割合	20.0%	60.0%	13.3%	6.7%	100.0%
	第3回	度数	4	17	7	1	29
		割合	13.8%	58.6%	24.1%	3.5%	100.0%
	第4回	度数	3	14	4	3	24
		割合	12.5%	58.3%	16.7%	12.5%	100.0%
機構全体の方針等※	第3回	度数	1	14	10	4	29
		割合	3.5%	48.3%	34.5%	13.8%	100.1%
	第4回	度数	2	6	11	5	24
		割合	8.3%	25.0%	45.8%	20.8%	99.9%
所長との関係	第2回	度数	15	11	2	2	30
		割合	50.0%	36.7%	6.7%	6.7%	100.0%
	第3回	度数	12	10	4	3	29
		割合	41.4%	34.5%	13.8%	10.3%	100.0%
	第4回	度数	8	9	3	4	24
		割合	33.3%	37.5%	12.5%	16.7%	100.0%

※「機構全体の方針等」は、第2回では調査項目に含まれていなかった。

表 2-11 国立施設での勤務における満足度 2

項目	実施回	度数 割合	満足	どちらか というと満足	どちらか というと不満	不満	合計
次長との関係	第2回	度数	14	11	4	0	30
		割合	48.3%	37.9%	13.8%	0.0%	100.0%
	第3回	度数	12	14	3	0	29
		割合	41.4%	48.3%	10.3%	0.0%	100.0%
	第4回	度数	16	4	2	2	24
		割合	66.7%	16.7%	8.3%	8.3%	100.0%
	第2回	度数	14	12	2	2	30
同僚との関係（所長・次長を除く職員）		割合	46.7%	40.0%	6.7%	6.7%	100.1%
	第3回	度数	15	13	0	1	29
		割合	51.7%	44.8%	0.0%	3.5%	100.0%
	第4回	度数	13	9	0	2	24
		割合	54.2%	37.5%	0.0%	8.3%	100.0%
	施設が実施した研修	第2回	度数	6	17	4	2
割合			20.7%	58.6%	13.8%	6.9%	100.0%
第3回		度数	6	19	4	0	29
	割合	20.7%	65.5%	13.8%	0.0%	100.0%	
	第4回	度数	3	16	1	4	24
		割合	12.5%	66.7%	4.2%	16.7%	100.0%
	施設以外が実施した研修	第2回	度数	6	16	5	1
割合			21.4%	57.1%	17.9%	3.6%	100.0%
第3回		度数	6	19	4	0	29
	割合	20.7%	65.5%	13.8%	0.0%	100.0%	
	第4回	度数	4	15	2	3	24
		割合	16.7%	62.5%	8.3%	12.5%	100.0%
	全体の満足度	第2回	度数	9	15	4	2
割合			30.0%	50.0%	13.3%	6.7%	100.0%
第3回		度数	3	19	7	0	29
	割合	10.3%	65.5%	24.1%	0.0%	99.9%	
第4回	度数	5	15	2	2	24	
	割合	20.8%	62.5%	8.3%	8.3%	99.9%	

## 6 国立施設での勤務における教員のときの経験等の活用

国立施設での勤務に、教員の経験や学校教育に関する知識・技能は活かされているかを尋ねた結果は図 2-11、表 2-12 のとおりである。

「思う」または「どちらかというと思う」と回答した割合は、各回とも 70%を超えている。

「思う」と回答した割合は、第 2 回が 56.7%，第 3 回が 48.3%，第 4 回が 41.7%と段々と低くなっている。

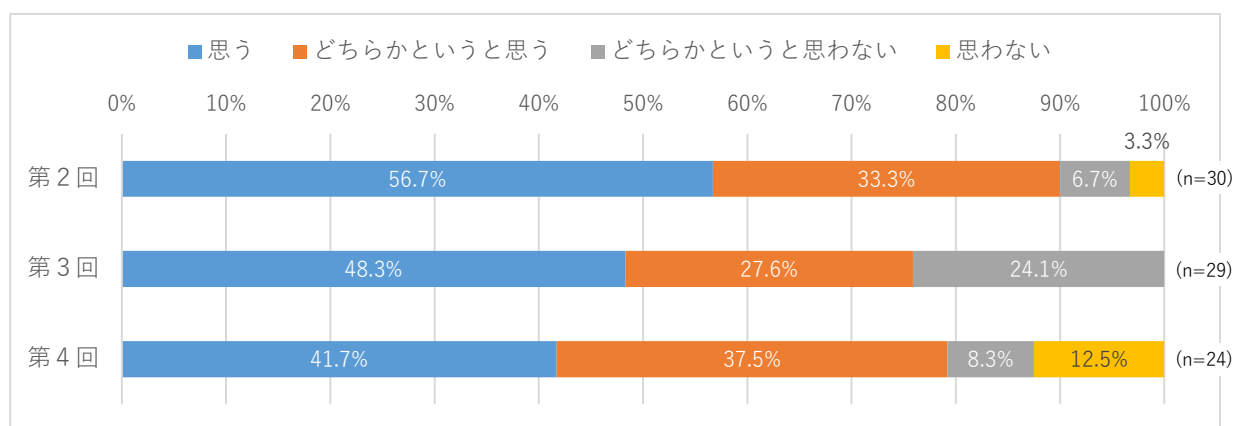


図 2-11 国立施設での勤務における教員の時の経験等の活用

表 2-12 国立施設での勤務における教員の時の経験等の活用

	第2回		第3回		第4回	
	度数	割合	度数	割合	度数	割合
思う	17	56.7%	14	48.3%	10	41.7%
どちらかと思う	10	33.3%	8	27.6%	9	37.5%
どちらかと思わない	2	6.7%	7	24.1%	2	8.3%
思わない	1	3.3%	0	0.0%	3	12.5%
合計	30	100.0%	29	100.0%	24	100.0%

## 7 国立施設における勤務経験の学校での活用

国立施設での勤務経験は学校に戻った際に活かされるかを尋ねた結果は図 2-12、表 2-13 のとおりである。

「思う」または「どちらかと思う」と回答した割合は、各回とも 80% を超えており、特に、第 2 回は 96.6% と高い傾向が見られる。しかしながら、第 3 回が 82.7%、第 4 回が 83.7% と低くなっている。

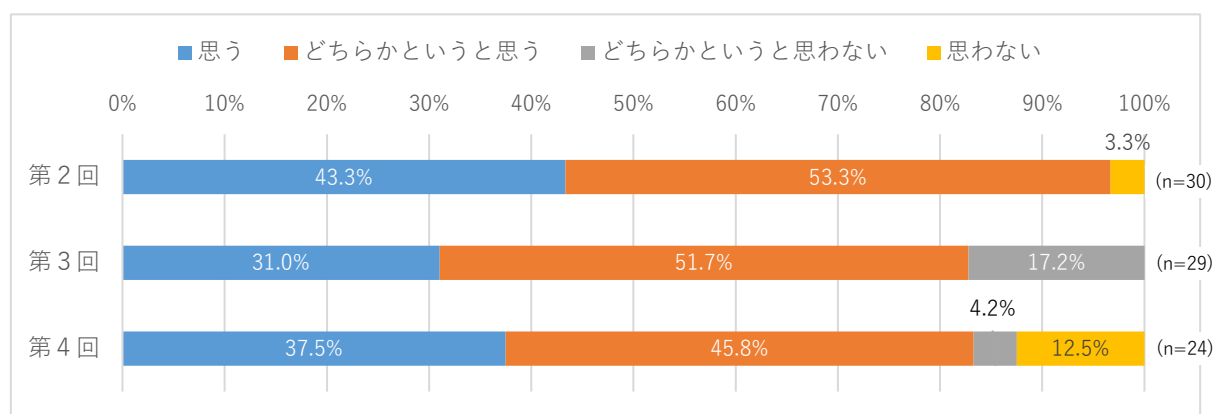


図 2-12 国立施設での勤務経験の学校での活用

表 2-13 国立施設での勤務経験の学校での活用

	第2回		第3回		第4回	
	度数	割合	度数	割合	度数	割合
思う	13	43.3%	9	31.0%	9	37.5%
どちらかと思う	16	53.3%	15	51.7%	11	45.8%
どちらかと思わない	0	0.0%	5	17.2%	1	4.2%
思わない	1	3.3%	0	0.0%	3	12.5%
合計	30	99.9%	29	99.9%	24	100.0%

## 8 国立施設に勤務することへの意欲の変化（第3回・第4回）

### (1) 意欲の変化

国立施設に勤務することへの意欲が「1年目の4月」と「現在」を比較して変わったかを尋ねた結果は図 2-13、表 2-14 のとおりである。

「高くなった」と回答した割合は、第 3 が 37.9%、第 4 回が 54.2% となっている。一方、「低くなった」と回答した割合は、第 3 回が 13.8%、第 4 回が 12.5% となっている。

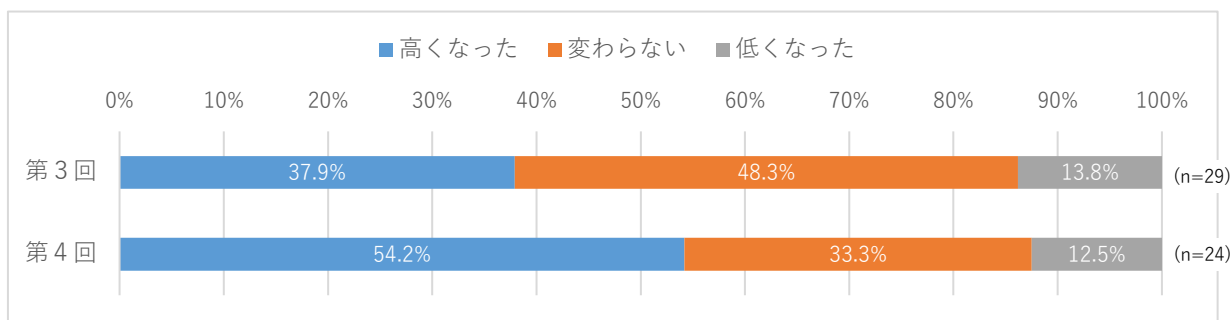


図 2-13 国立施設に勤務することへの意欲の変化

表 2-14 国立施設に勤務することへの意欲の変化

	第3回		第4回	
	度数	割合	度数	割合
低くなった	4	13.8%	3	12.5%
高くなった	11	37.9%	13	54.2%
変わらない	14	48.3%	8	33.3%
合計	29	100.0%	24	100.0%

## (2) 意欲が変化した理由・きっかけ・時期

### 1) 第3回調査

「高くなった」または「低くなった」と回答した者に、意欲が変わったのはいつ頃、どのような理由かを自由記述で最大3件まで回答を求めた。

回答は17人から29件あり、筆者が回答を分類した結果は、表2-15のとおりである。なお、1件の回答に複数の事項が記入されていた場合は、それぞれ別の項目とした。

表 2-15 国立施設に勤務することへの意欲が変化した理由・時期

分類	回答
<b>高くなった</b>	
事業効果に関する こと	①短い期間であったとしても、体験をとおして変容していく参加者を目の当たりにして、体験活動の大切さを改めて感じる事ができた。 ②教育事業の活動中や終了時、参加者の姿が変容（成長）したため。
事業運営に関する こと	①専門家や地域の指導者と意見を交換して、つながりを持つことがきたとき。 ②1年目の中頃で、地域の方と協力する機会を作れたから。 ③学校現場では関わる人が少ない人と関わりを持つことができ意欲につながった。 ④勤務をする上で青少年教育施設への理解が深まったから。
教育事業に関する こと	①泊を伴う教育事業の企画・立案は、学校現場に戻ったらいけないから。今しかできないから。 ②教育事業の企画・立案等や団体への指導を重ねるごとに、団体への指導に対する安全管理や危機管理意識は、とても高くなったと思う。 ③事業等において参加者から意見をいただき、目的に沿った回答を得られたとき。

	<p>④主担当として、教育事業を企画立案し実施する過程が、自分の特性に合っていると感じたため。</p> <p>⑤1月頃、国の施策に応じた事業を立案できるため。</p>
業務に関すること	<p>①勤務の形態や内容に慣れてきたため、見通しをもって仕事ができるようになった。2年目後半くらいからです。</p> <p>②2年目になり見通しを持った仕事ができるようになったことで、教育施設の考え方や目標に対する理解を深めることができたため。</p> <p>③2年目あたりから。少しずつ仕組みを理解でき、やってみたいことができた。</p> <p>④業務内容が全体的に把握でき、見通しをもつことができたため。多くの研修に参加し、自分にとってまたは施設にとっての最善を考えられるようになった。</p>
勤務形態に関すること	<p>①教員から離れてみて、教職の仕事のハードさを改めて感じる事ができた。</p> <p>②休憩時間が確保されていること。</p> <p>③担任は変わらないが指導等は変更できることが多いので、休む際の負担が少ない。</p> <p>④閑散期など、定時に帰れることがある。</p> <p>⑤平日に休める。</p>
自己成長・責任に関すること	<p>①指導に自信をもつことができたことを実感できたとき。</p> <p>②管理職との会話の時に、勤務姿勢について褒められたため。</p> <p>③少しずつ視野が広くなり、自分がどのように動くべきか考えられるようになった。</p> <p>④2年目は、1年目よりも業務が増え仕事量を多くこなさなければいけないため、令和4年の4月1日からは、より責任の重さを感じている。</p> <p>⑤主任企画指導専門職になったとき、使命感や責任感を感じたため。</p>
<b>低くなった</b>	
所の運営に関すること	<p>①学校では職員会議という合議形成の場があり、研修の機会も保障されている。機構では、事務連絡会のみで企画や運営方針について合意形成の場がない。本部が決定した方針がぎりぎりになって通達され、納得しないまま業務を遂行する場面が多くある。</p> <p>②新しい業務について指示もないので気が付いてしまった人が突然やらされる状態が続いている。</p> <p>③方針について合意形成がないので、働く意欲が低下している。</p> <p>④理想をもって出向してきたが、意見や考えを議論する場がない。</p> <p>⑤安全管理・リスクマネジメントよりも超過勤務削減ばかりを求められ、予想した通りエラーが起こった場合も、改善の話し合いもない。</p> <p>⑥指示命令系統、情報共有については課題が多いと感じている。</p> <p>⑦やる気がある、理解ある同僚のおかげでやる気を取り戻すが、組織としての体制をしっかり整える必要性を感じる。</p> <p>⑧学校に戻ったら、管理職として合意形成を大切にし、業務の分担について見通しをもって示すことを機構での反省材料としていかそうと考える。</p>

	⑨所長によって方針が変わりすぎる。機構としてももう少し統一感を持って運営をしてほしい。
業務・事業に関すること	①学校現場とは状況が違うというのは承知しているが、時期が進むにつれて文書処理や日程管理等ばかりで、教育をしているという実感がない。 ②学校現場とは状況が違うというのは承知しているが、教育事業も、その他の行わなければいけないことに追われて、じっくり向き合う暇がない。
給与に関すること	①4月。金銭的な待遇が教員時代よりも悪くなったため。

## 2) 第4回調査

第4回では11人から11件の回答があった。結果は表2-16のとおりである。

表2-16 国立施設に勤務することへの意欲が変化した理由・時期

回答	
<b>高くなった</b>	<p>①勤務時間が安定した。余暇の時間を持つことができる。</p> <p>②仕事の進め方が教員時代と全く違っていたので、慣れが必要であった。何度も失敗を繰り返すうちに次第に覚え、1.5年を過ぎたあたりから見通しがもてるようになった。 ※問1「3」については、どの立場で学校現場に戻るかによるが、担任として戻った場合は、教科指導や生徒指導から離れていてその機会も無いので、あまり経験を活かすことができないと思う（経験を活かす場が限定される）。 しかし、学校運営に関わる立場（主幹教諭や教頭）で戻った場合は、十分経験が生かされると思う。</p> <p>③学校を外から見た時、学校支援のやりがいを感じている。</p> <p>④2年目に主任企画指導専門職となり、機構のミッションを意識するようになった。</p> <p>⑤全体的にストレスがかかりにくい職場であった。 ・繁忙期、閑散期があることで、心と体に余裕が生まれた。 ・指導や打ち合わせの交代をお願いできるので、家庭の都合などで年休をいただきやすかった。 ・きちんと超過勤務手当がでること。</p> <p>⑥2年目の9月に、事業実施の流れを理解した上で主担当を務める教育事業を執り行うことができた。自分の強みを活かすことができたこと、地域の方々の協力をいただいて教育を行うこと、大きなものを作るために多くの人に関わることなどを感じることで、社会教育をもう少し学んでみたいと思った。</p> <p>⑦それまで魚を「嫌い」と言っていた子が、魚のつかみ取りをして、自分でさばいて、自分で焼いた魚を食べ、おかわりまでしたこと。その後に話をしたら「本当においしかった。これからは魚を食べられそう」と言っていたことで、子どもたちがたった一度の体験で大きく変化する姿を目の当たりにしたときに自然体験（青少年教育）の面白さを感じたから。</p> <p>⑧学校教育と社会教育について広い視野でとらえられるようになってきた。</p>

## 低くなった

- ①一年間を通して、徐々にモチベーションが下がってきた。(経済的な厳しさは理解しているものの) 実質、教育事業が縮小され、機構が生き残ることが一番の目的になっていることを肌身に感じてきたこと。また、教員のその経験や情報を十分に機構が活かす意欲が感じられないこと。
- ②所長によって運営方針が変わりすぎる。機構全体として基本的な所は統一してほしい。宿直、教育事業に対する考え方、地域との連携に対する考え方等。
- ③自然体験活動や安全管理などの研修が OJT に限られる上、(コロナ禍もありましたが) 研修機会が公平にないこと。業務についての希望は聴取しないこと。事業の満足度評価・児童生徒の学びの質・内容よりも、コストカット・勤務時間削減が優先されること。規定ありきで改善するつもりがない運営方針がころころ変わることで、突然知らされるタイトなスケジュール。方針が変わり、やり直し、繰り返しによる時間・費用の無駄と徒労感が大きいこと。

## 9 資質能力の習得

令和2年度の第二次調査で析出した国立施設に勤務したことにより身についた資質能力について、どの程度できると思うかを尋ねた結果は図 2-14～47、表 2-17 のとおりである。

### (1) 広い視野で考える

「とてもできる」または「できる」または「ややできる」と回答した割合(以下、「習得度」)は、各回とも 80% を超えている。第 1 回の 80.8% よりも第 4 回の 87.5% の方が高いものの、最も高い回は第 2 回の 89.7% となっている。

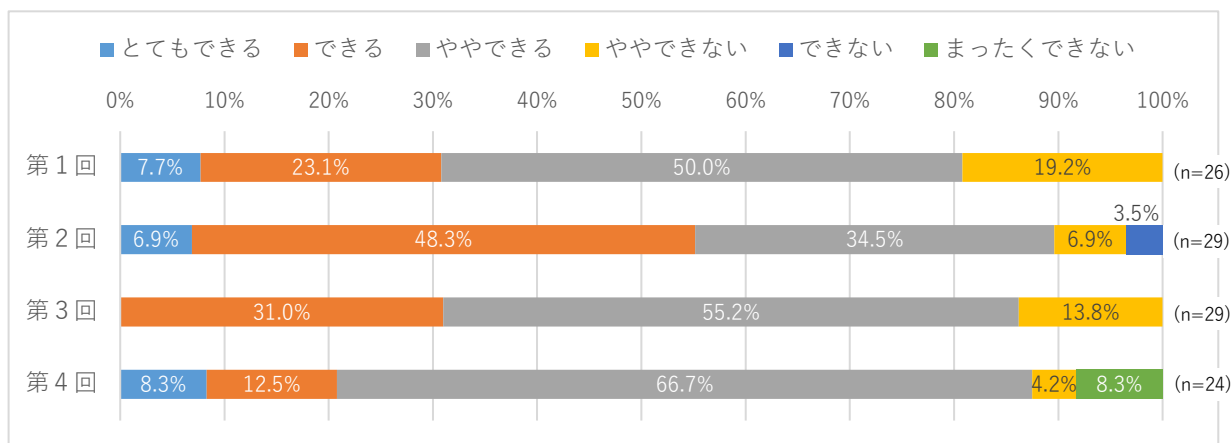


図 2-14 広い視野で考える

## (2) 学校の教育活動を俯瞰的な視点でみる

「習得度」は各回とも 88%を超えている。第 1 回の 88.4%よりも第 4 回の 91.7%の方が高い。最も高い回は第 3 回の 96.6%となっている。

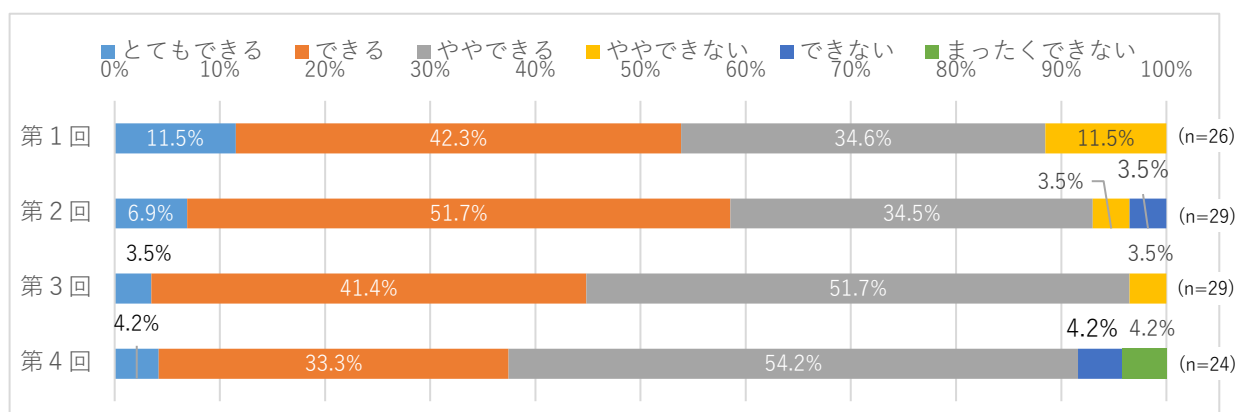


図 2-15 学校の教育活動を俯瞰的な視点でみる

## (3) 物事を計画的に進める

「習得度」は各回とも 75%を超えている。第 1 回の 76.9%よりも第 4 回の 75.0%の方が低い。最も高い回は第 2 回の 86.2%となっている。

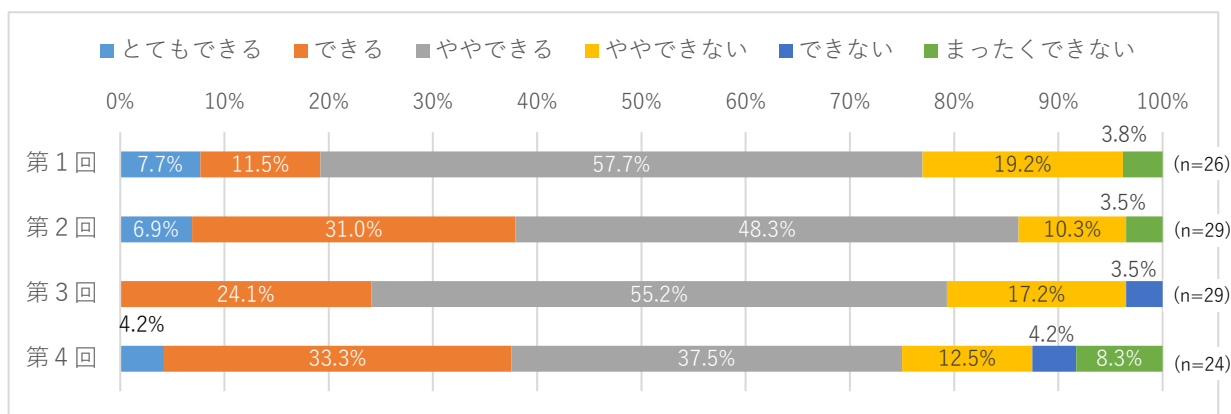


図 2-16 物事を計画的に進める

## (4) 物事を主体的に進める

「習得度」は各回とも 84%を超えている。第 1 回の 84.6%よりも第 4 回の 91.7%の方が高く、各回の中で最も高い。

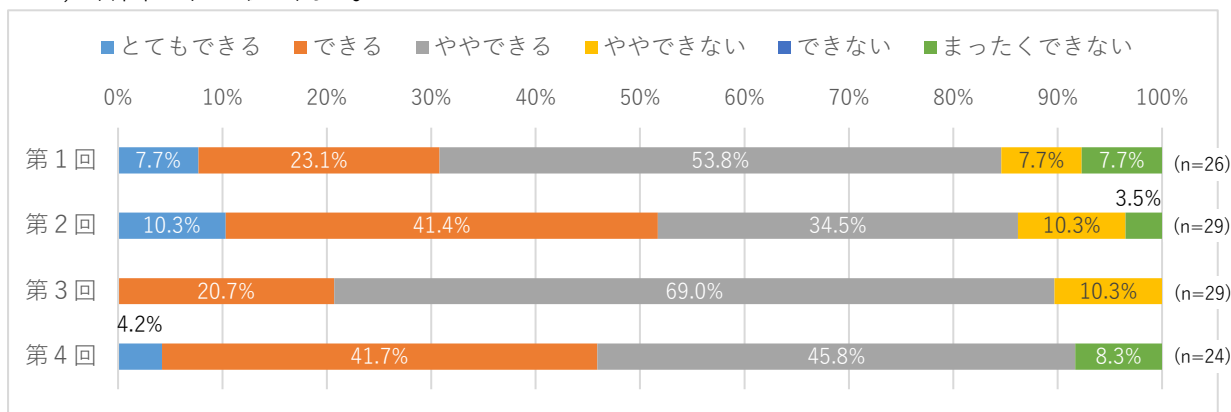


図 2-17 物事を主体的に進める

### (5) 物事に臨機応変に対応する

「習得度」は各回とも79%を超えている。第1回の80.7%よりも第4回の79.1%の方が低い。最も高い回は第3回の89.7%となっている。

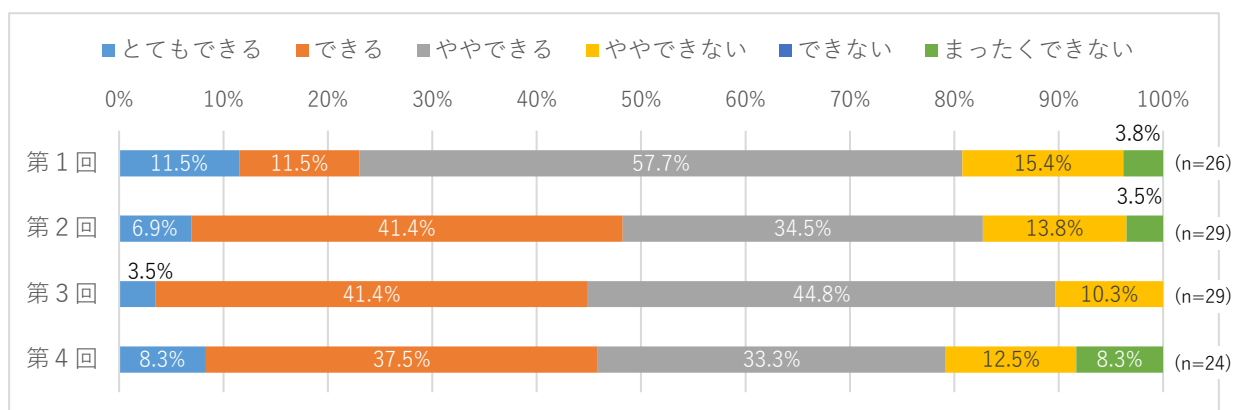


図 2-18 物事に臨機応変に対応する

### (6) 児童・生徒以外の多様な者と関係を築く

「習得度」は各回とも89%を超えている。第1回の96.2%が最も高く、第4回は91.7%と低くなっている。

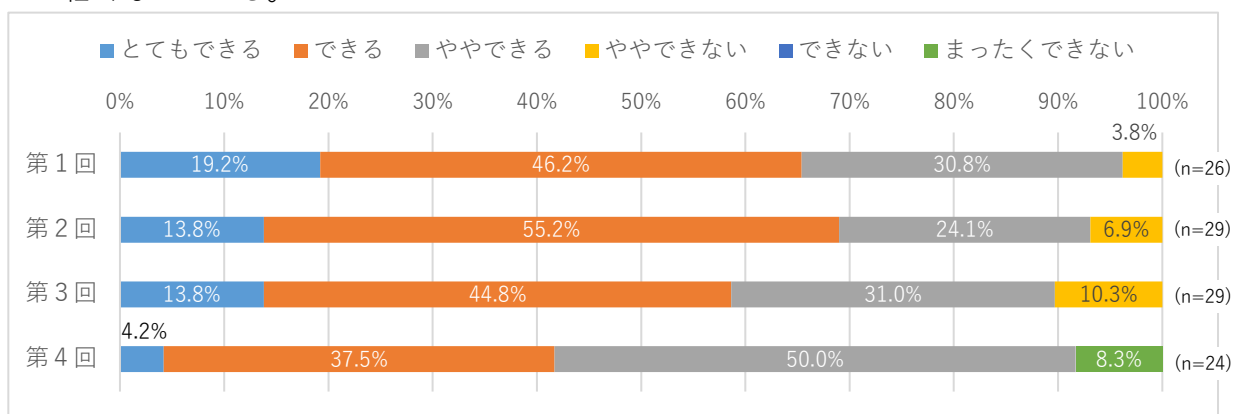


図 2-19 児童・生徒以外の多様な者と関係を築く

### (7) 相手の意思・感情を共感的に受け入れる

「習得度」は各回とも91%を超えている。第1回の100.0%が最も高く、第4回は91.7%と低くなっている。

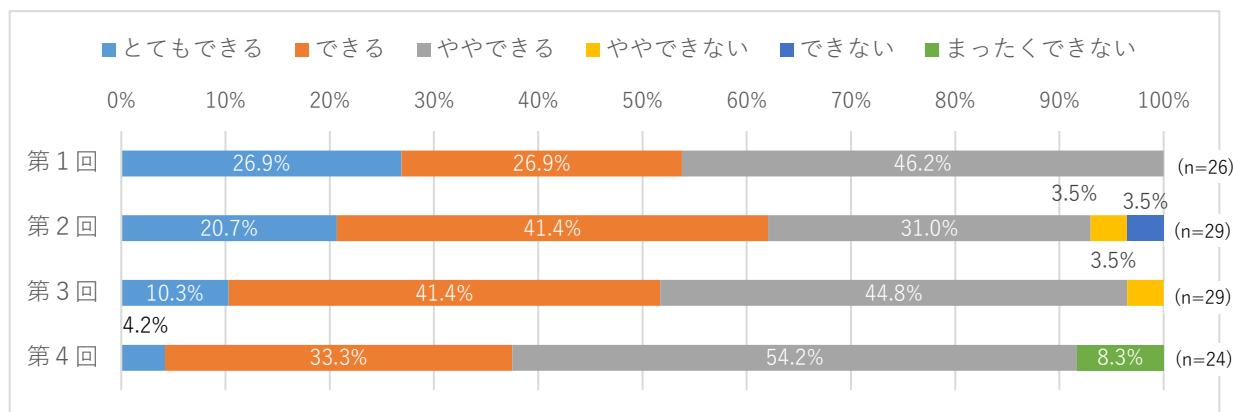


図 2-20 相手の意思・感情を共感的に受け入れる

### (8) 相手が理解できるように自分の意思を伝える

「習得度」は各回とも 83%を超えている。第 1 回の 84.6%よりも第 4 回の 83.4%の方が低くなっている。最も高い回は第 2 回の 93.1%となっている。

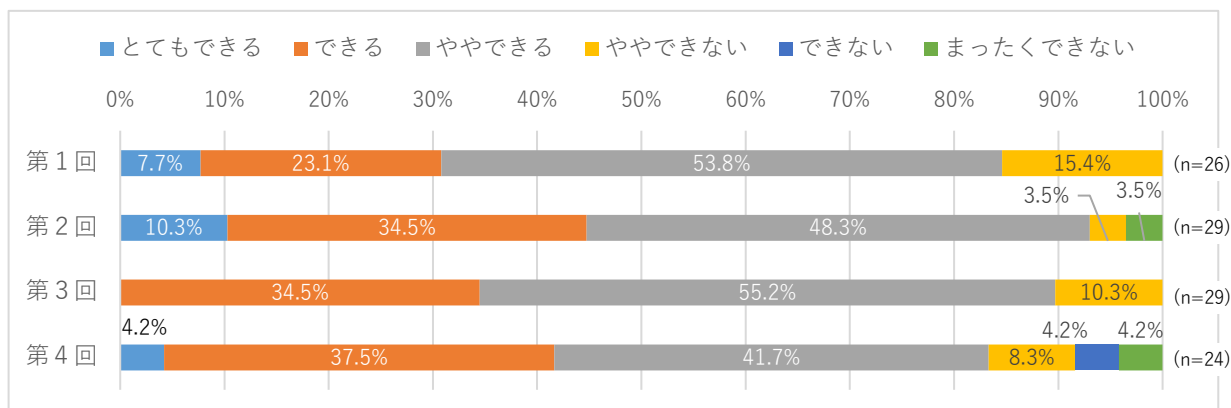


図 2-21 相手が理解できるように自分の意思を伝える

### (9) 課題の解決または自己の能力向上のために学ぶ

「習得度」は各回とも 87%を超えている。第 1 回の 100.0%が最も高く、第 4 回は 87.5%と低くなっている。

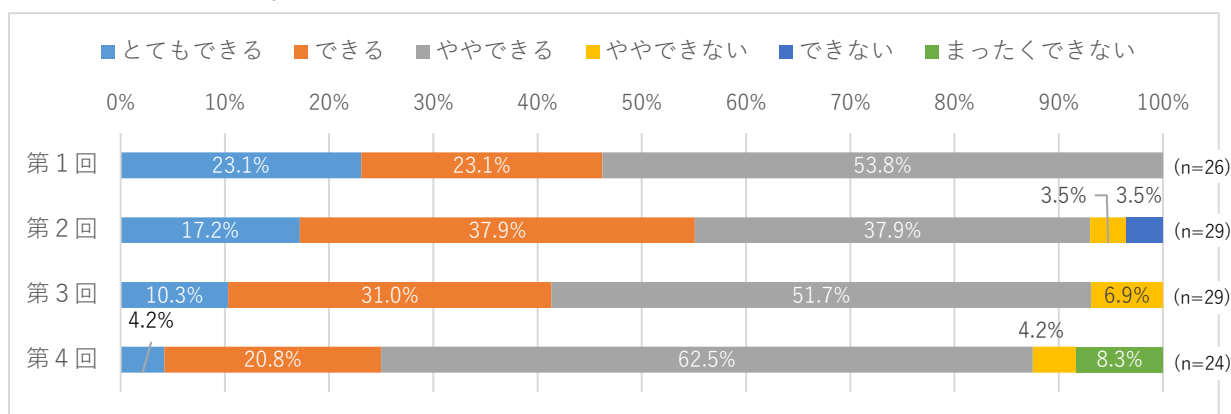


図 2-22 課題の解決または自己の能力向上のために学ぶ

### (10) 同僚または上司と報告・連絡・相談をしながら仕事を進める

「習得度」は各回とも 83%を超えている。第 1 回の 96.1%よりも第 4 回の 83.4%の方が低くなっている。最も高い回は第 3 回の 100.0%となっている。

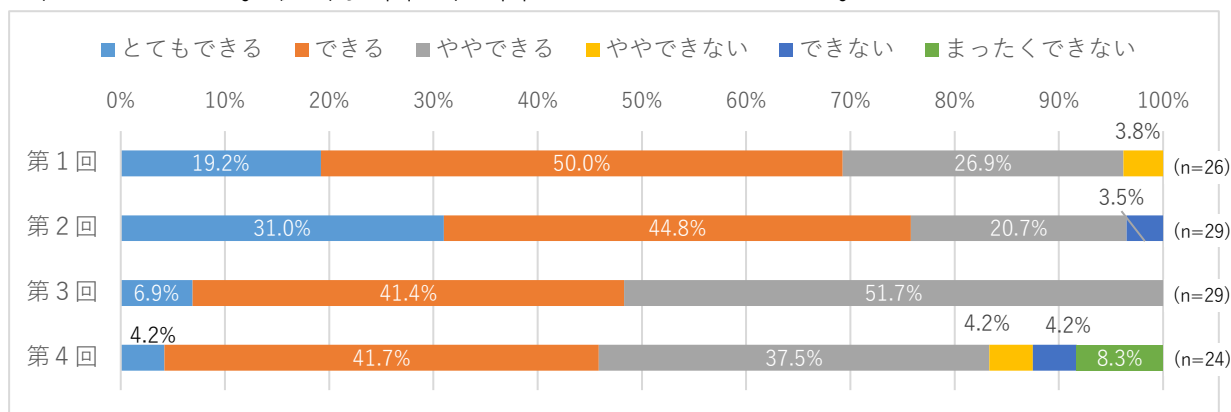


図 2-23 同僚または上司と報告・連絡・相談をしながら仕事を進める

### (11) 行政的な文書を作成する

「習得度」は各回とも72%を超えている。第1の73.1%が最も高く、「第4回は62.5%と低くなっている。

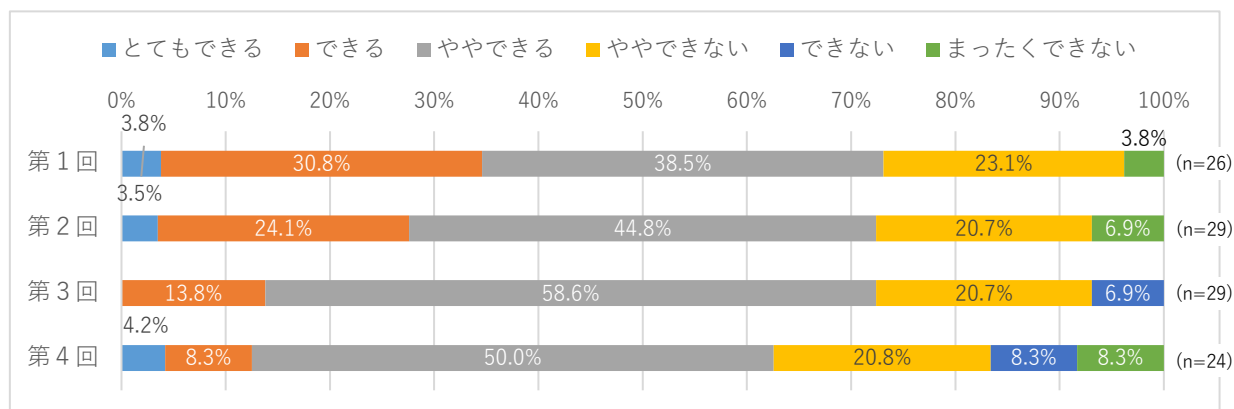


図 2-24 行政的な文書を作成する

### (12) 多くの人に事業成果等を伝える文書を作成する

「習得度」は各回とも79%を超えている。第1回の80.7%よりも第4回の79.2%の方が低くなっている。最も高い回は第3回の82.8%となっている。

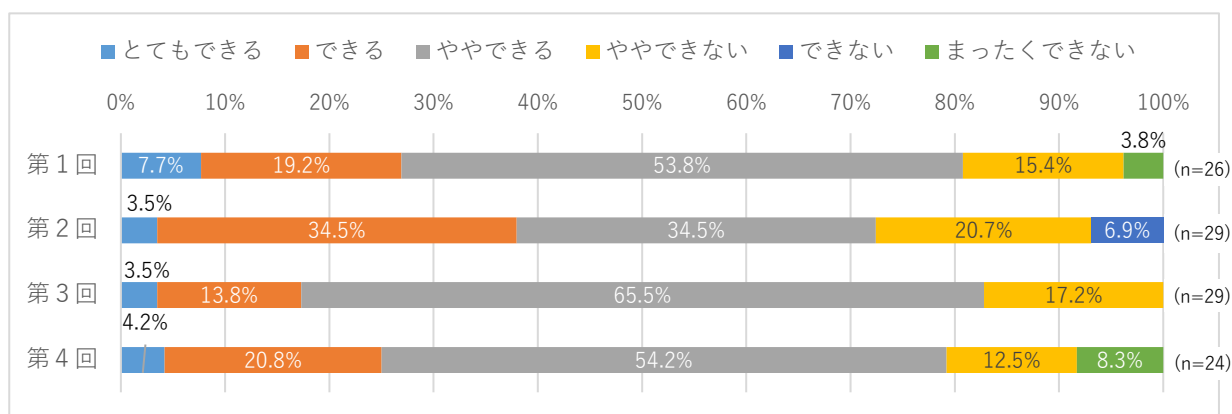


図 2-25 多くの人に事業成果等を伝える文書を作成する

### (13) 予算管理ができる

「習得度」は各回とも46%を超えている。第1回の46.1%よりも第4回の75.0%の方が高くなっており、各回の中で最も高い。

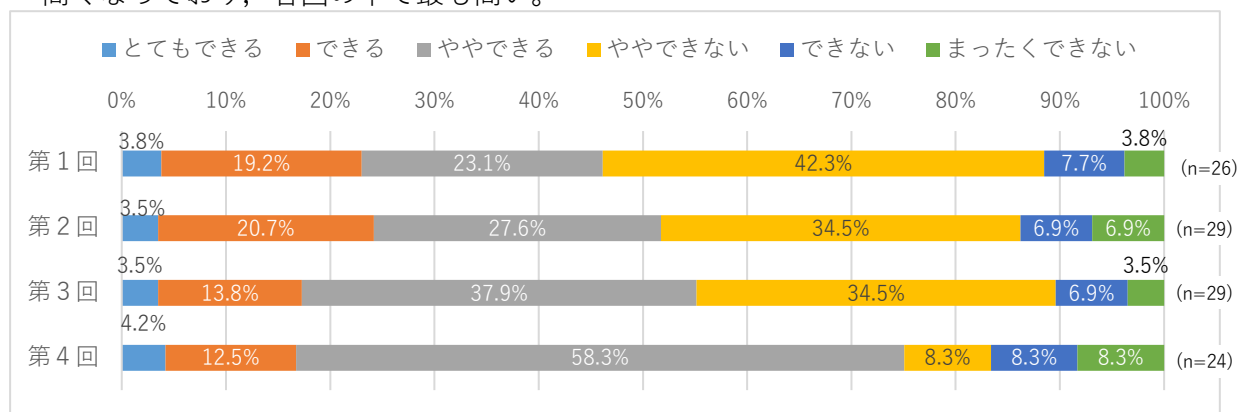


図 2-26 予算管理ができる

### (14) 教員としての自信を持つ

「習得度」は各回とも 79%を超えている。第 1 回の 84.7%よりも第 4 回の 83.4%の方が低くなっている。最も高い回は第 2 回の 89.7%となっている。

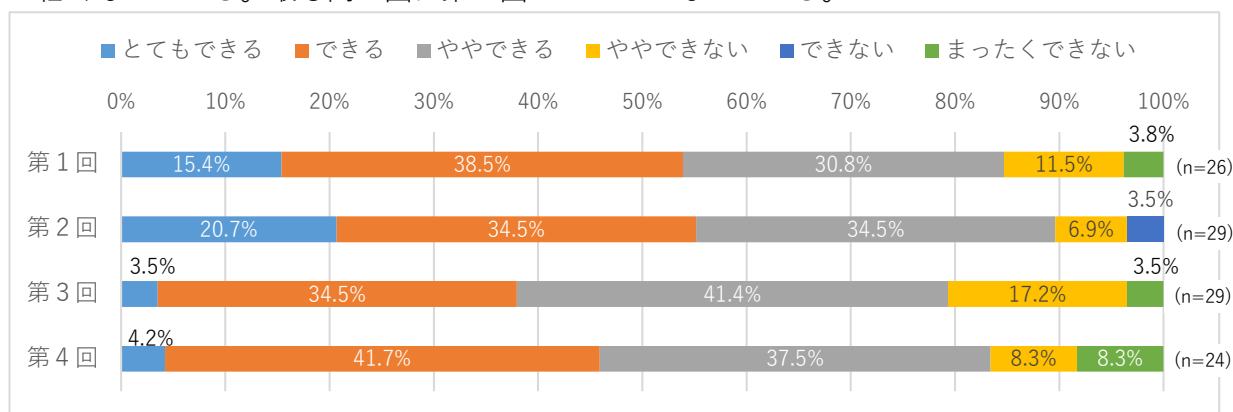


図 2-27 教員としての自信を持つ

### (15) 安全管理ができる

「習得度」は各回とも 79%を超えている。第 1 回の 88.4%よりも第 4 回の 79.2%の方が低くなっている。最も高い回は第 3 回の 100.0%となっている。

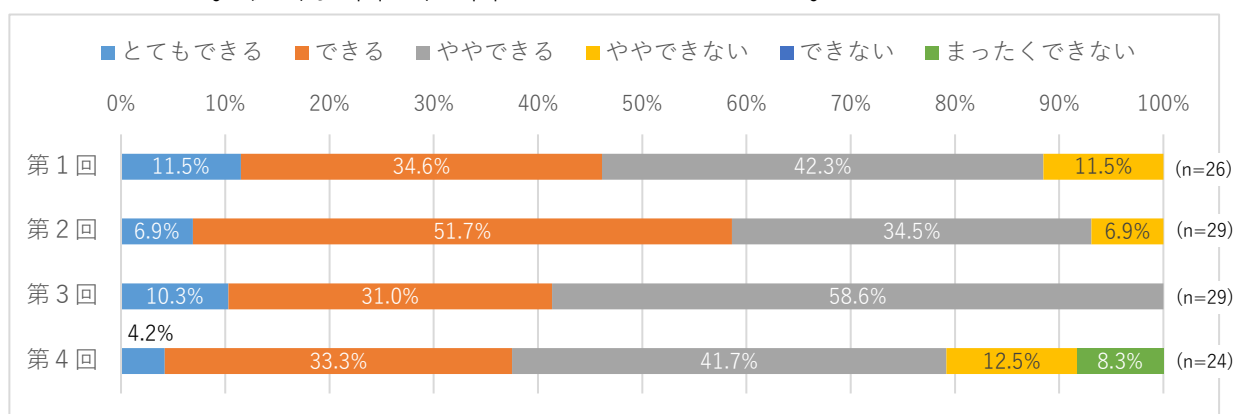


図 2-28 安全管理ができる

### (16) 体験活動に関する知識を理解する

「習得度」は各回とも 79%を超えている。第 1 回の 84.0%よりも第 4 回の方が 79.2%と低くなっている。最も高い回は第 3 回の 93.1%となっている。

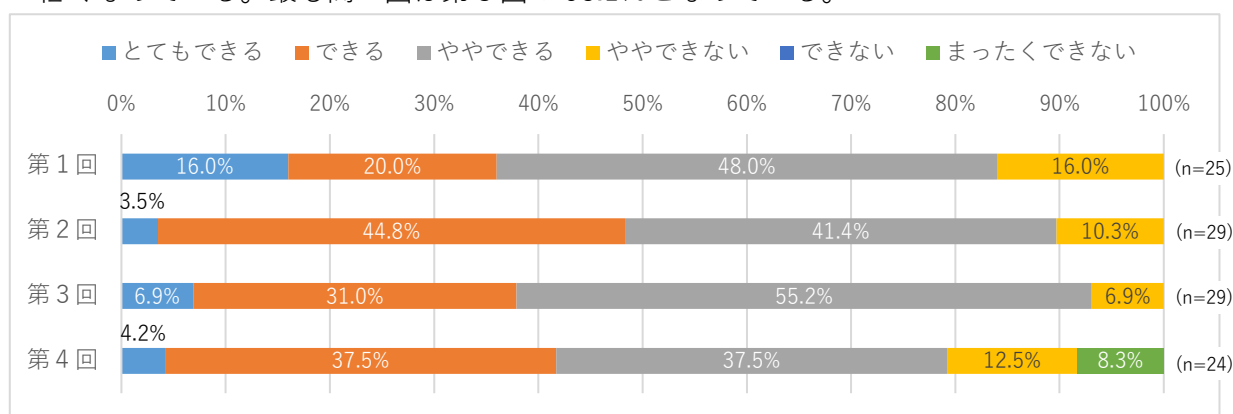


図 2-29 体験活動に関する知識を理解する

### (17) 自然体験活動を指導する

「習得度」は各回とも73%を超えている。第1回の73.1%よりも第4回の75.0%の方が高くなっている。最も高い回は第2回と第3回の93.1%となっている。

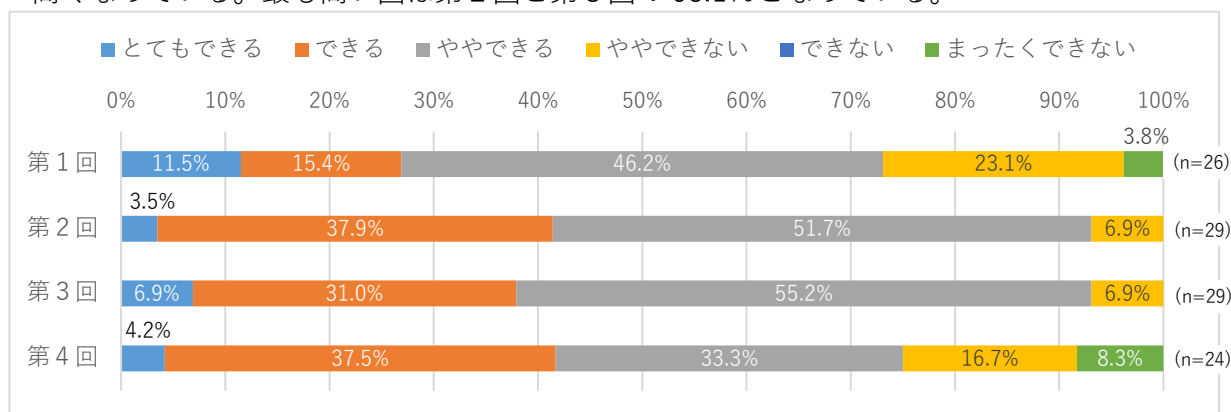


図 2-30 自然体験活動を指導する

### (18) 集団宿泊的行事を計画・運営する

「習得度」は各回とも80%を超えている。第1回の80.7%よりも第4回の91.6%の方が高くなっている。最も高い回は第3回の96.5%となっている。

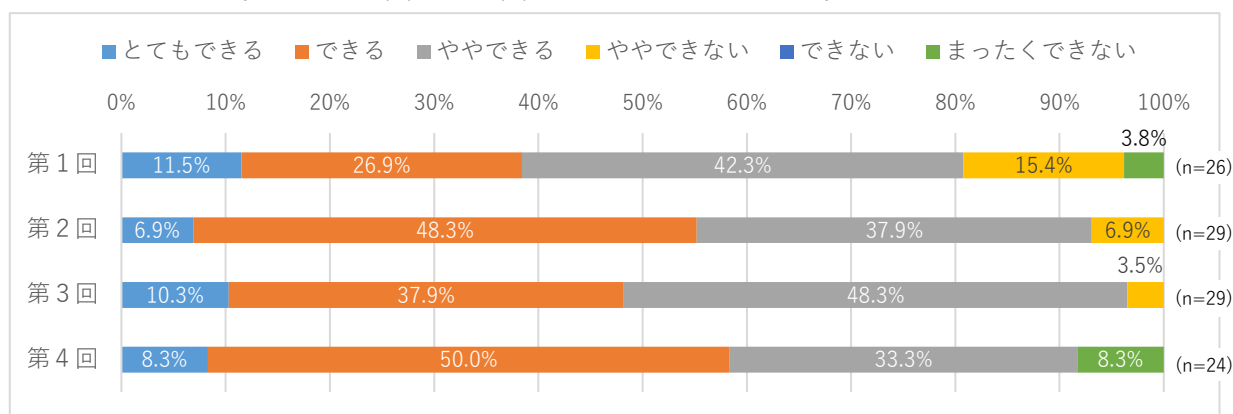


図 2-31 集団宿泊的行事を計画・運営する

### (19) 学校行事を計画・運営する（集団宿泊的行事を除く）

「習得度」は各回とも83%を超えている。第1回の88.5%よりも第4回の83.3%の方が低くなっている。最も高い回は第2回と第3回の93.0%となっている。

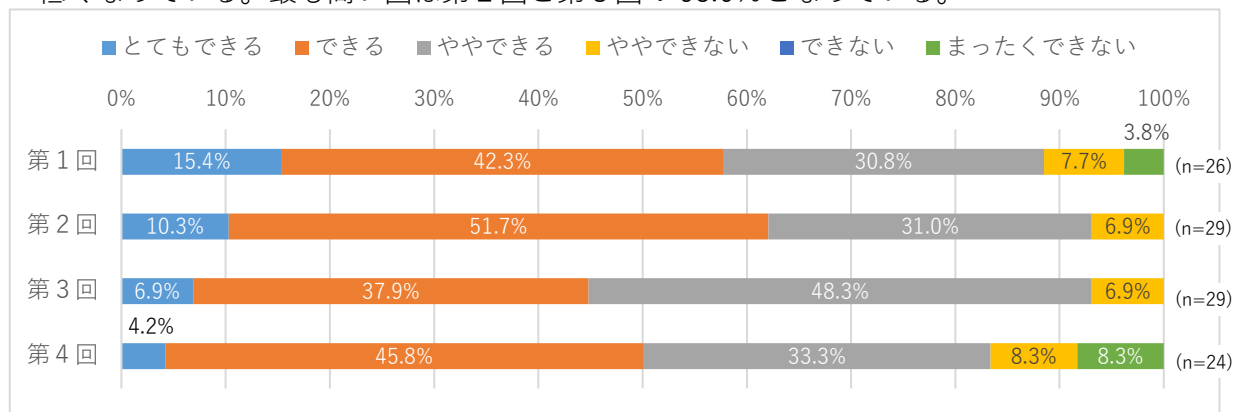


図 2-32 学校行事を計画・運営する（集団宿泊的行事を除く）

## (20) 教科等の授業計画を立案する

「習得度」は各回とも 84%を超えている。第 1 回の 84.6%よりも第 4 回の 87.5%の方が高くなっている。最も高い回は第 2 回の 93.1%となっている。

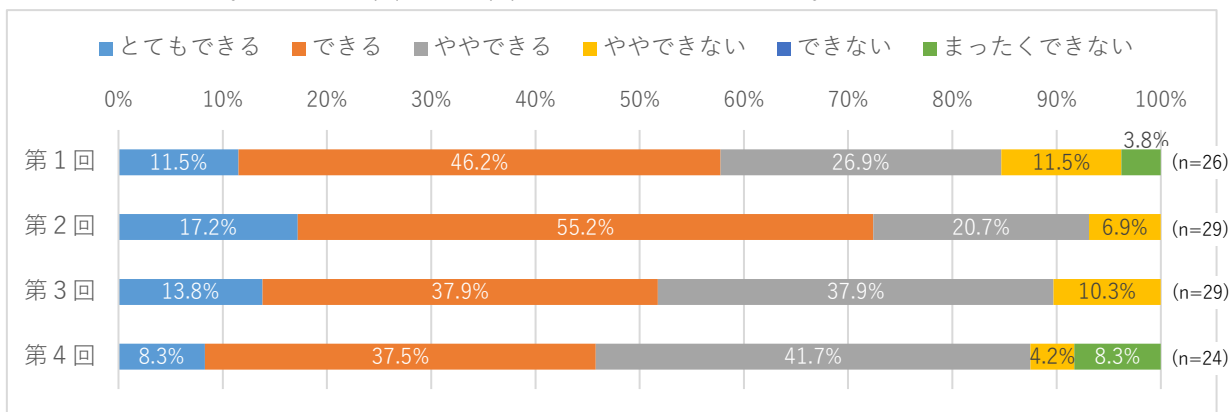


図 2-33 教科等の授業計画を立案する

## (21) 体験活動を取り入れた教育課程を編成する

「習得度」は各回とも 70%を超えている。第 1 回の 84.7%よりも第 4 回の 70.8%の方が低くなっている。最も高い回は第 2 回と第 3 回の 86.2%となっている。

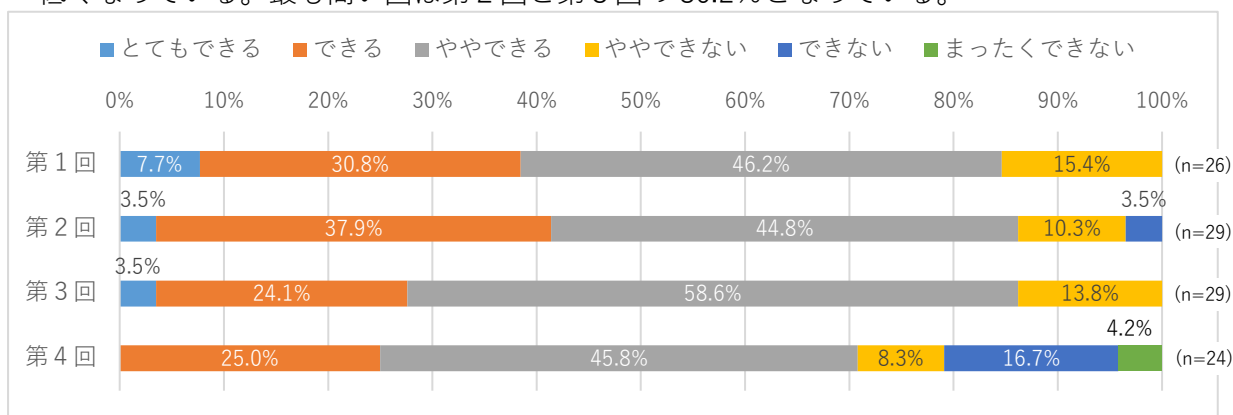


図 2-34 体験活動を取り入れた教育課程を編成する

## (22) 現代的な課題をテーマに、教科等横断的な視点で教育課程を編成する

「習得度」は各回とも 62%を超えている第 1 回」の 73.1%よりも第 4 回の 62.6%の方が低くなっている。最も高い回は第 2 回の 75.9%となっている。

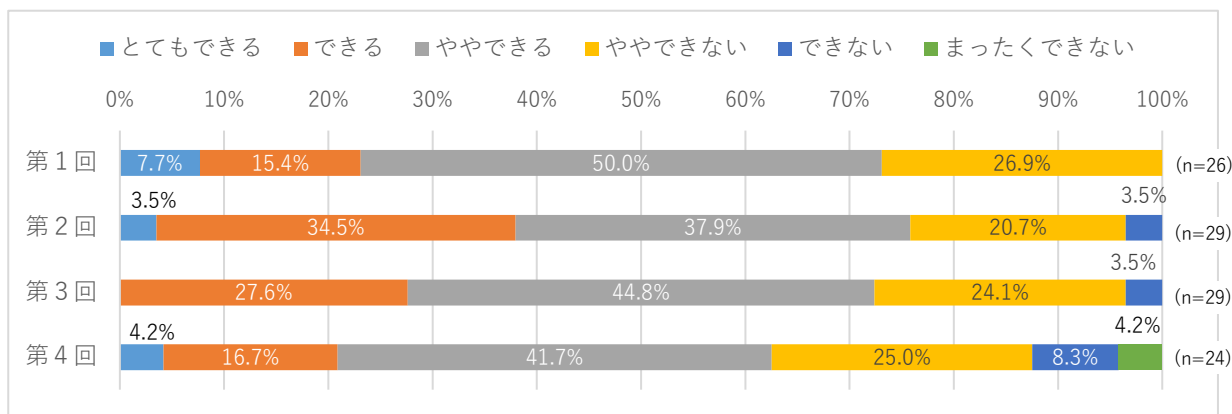


図 2-35 現代的な課題をテーマに、教科等横断的な視点で教育課程を編成する

### (23) 学習指導要領改訂の趣旨または学習指導要領の内容を理解して教育課程を編成する

「習得度」は各回とも 58%を超えている。第 1 回が 80.8%で最も高く、第 4 回は 58.3%と低くなっている。

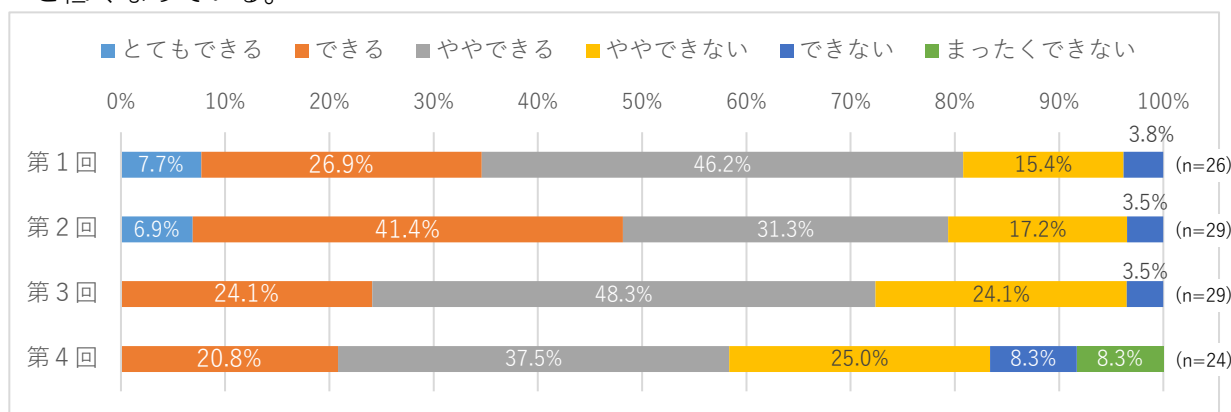


図 2-36 学習指導要領改訂の趣旨または学習指導要領の内容を理解して教育課程を編成する

### (24) 小学生や中学生といった発達段階に応じた心身の特徴を理解する

「習得度」は各回とも 87%を超えている。第 1 回が 100.0%で最も高く、第 4 回は 87.5%と低くなっている。

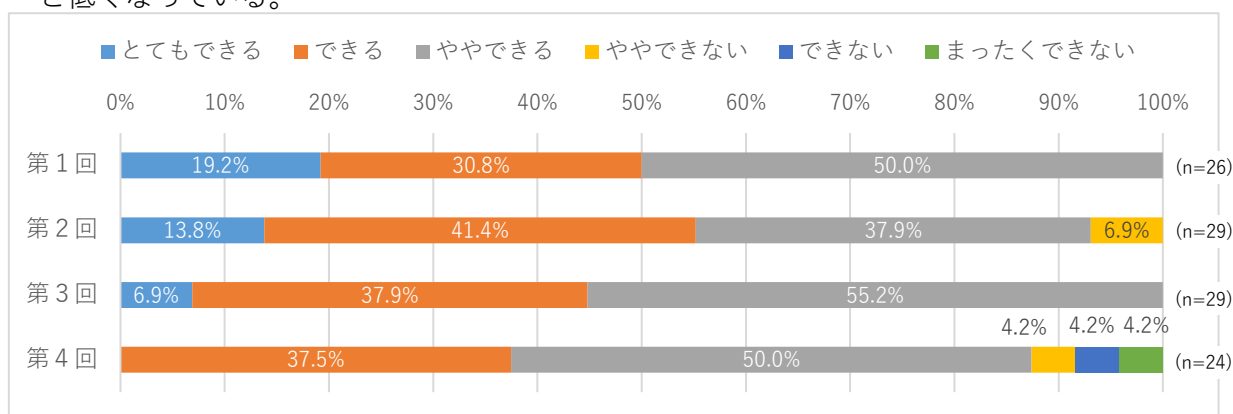


図 2-37 小学生や中学生といった発達段階に応じた心身の特徴を理解する

### (25) 児童・生徒の言動から内面的な心情を理解する

「習得度」は各回とも 91%を超えている。第 1 回が 100.0%で最も高く、第 4 回は 91.7%と低くなっている。

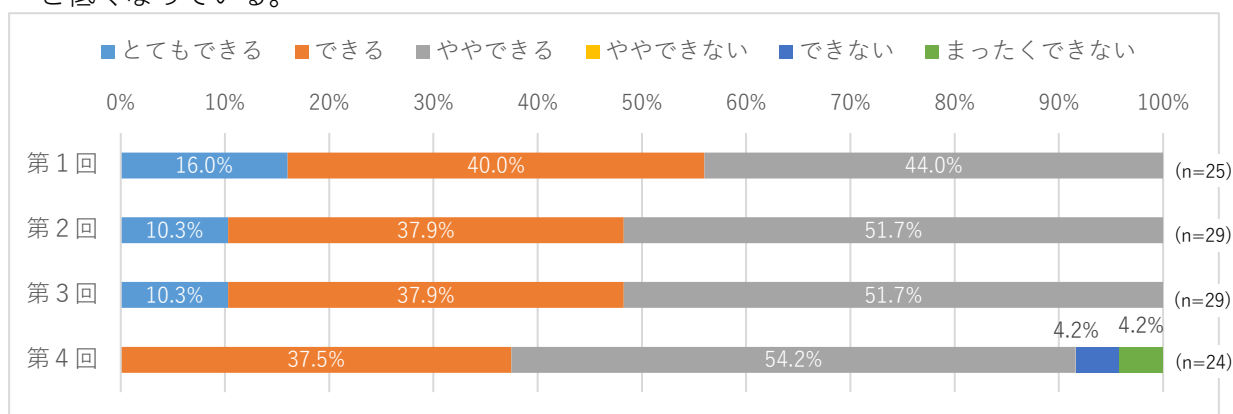


図 2-38 児童・生徒の言動から内面的な心情を理解する

## (26) 児童・生徒の成育歴等から特性を把握する

「習得度」は各回とも 79%を超えている。第 1 回の 96.1%よりも第 4 回の 79.1%の方が低くなっている。最も高い回は第 2 回の 96.5%となっている。

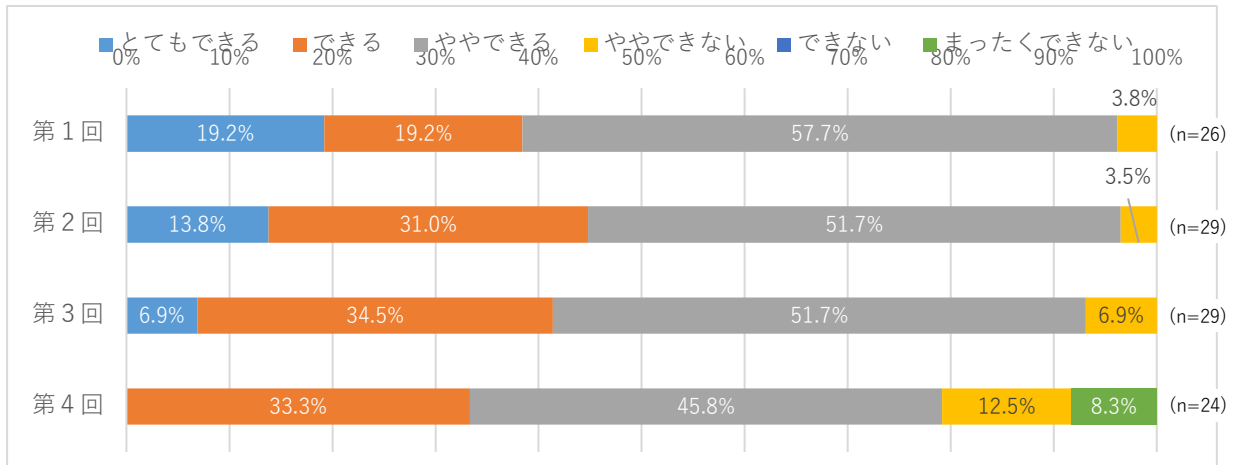


図 2-39 児童・生徒の成育歴等から特性を把握する

## (27) 様々な対象に応じた話し方をする

「習得度」は各回とも 87%を超えている。第 1 回が 100.0%で最も高く、第 4 回は 87.5%と低くなっている。

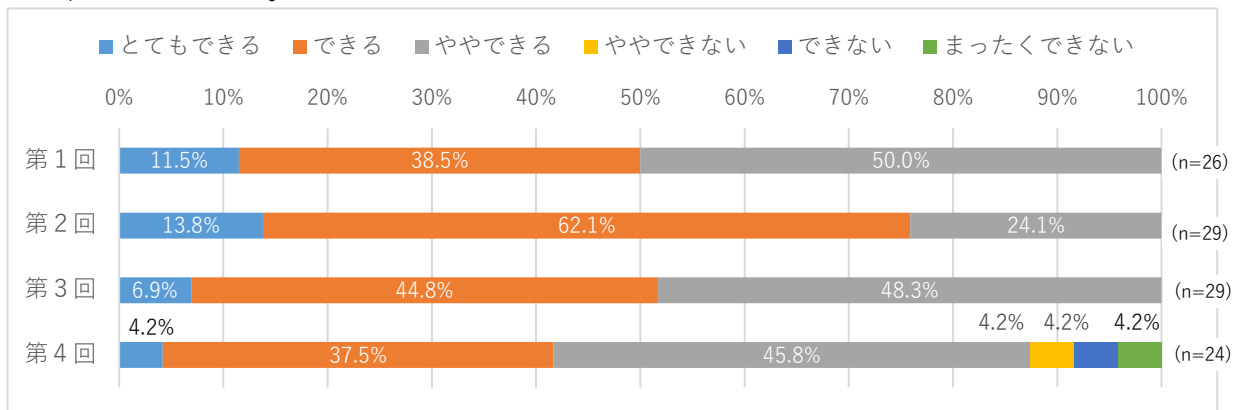


図 2-40 様々な対象に応じた話し方をする

## (28) 一人一人の児童・生徒の特性に応じて指導する

「習得度」は各回とも 87%を超えている。第 1 回が 100.0%で最も高く、第 4 回は 87.5%と低くなっている。

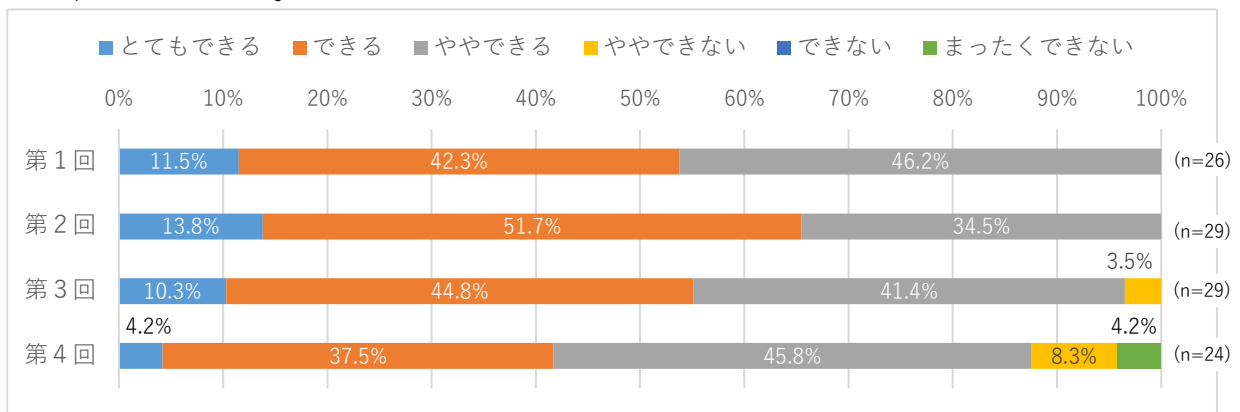


図 2-41 一人一人の児童・生徒の特性に応じて指導する

### (29) 人間関係づくりプログラムを指導する

「習得度」は各回とも 75%を超えている。第 1 回の 76.9%よりも第 4 回の 75.0%の方が低くなっている。最も高い回は第 2 回の 89.6%となっている。

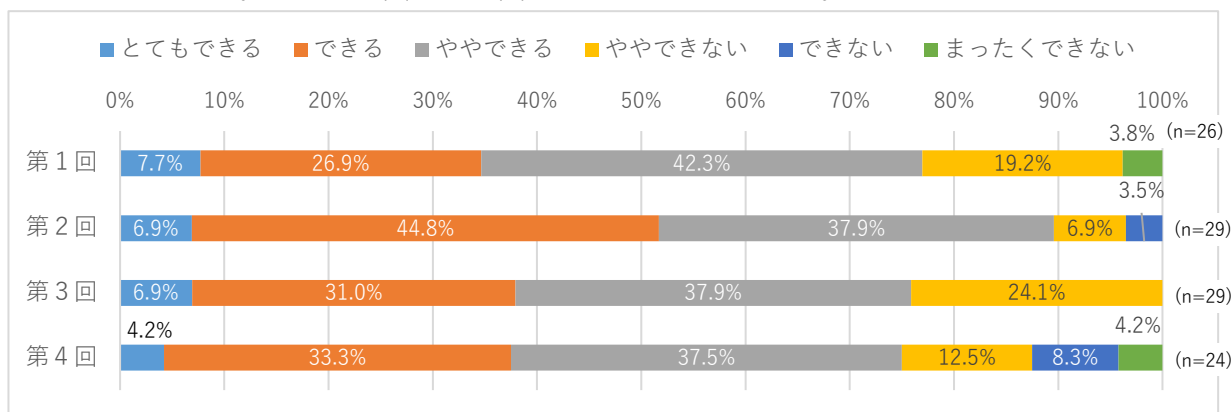


図 2-42 人間関係づくりプログラムを指導する

### (30) ファシリテーションの手法で指導する

「習得度」は各回とも 72%を超えている。第 1 回の 69.2%よりも第 4 回の 75.1%の方が高くなっている。最も高い回は第 2 回の 79.3%となっている。

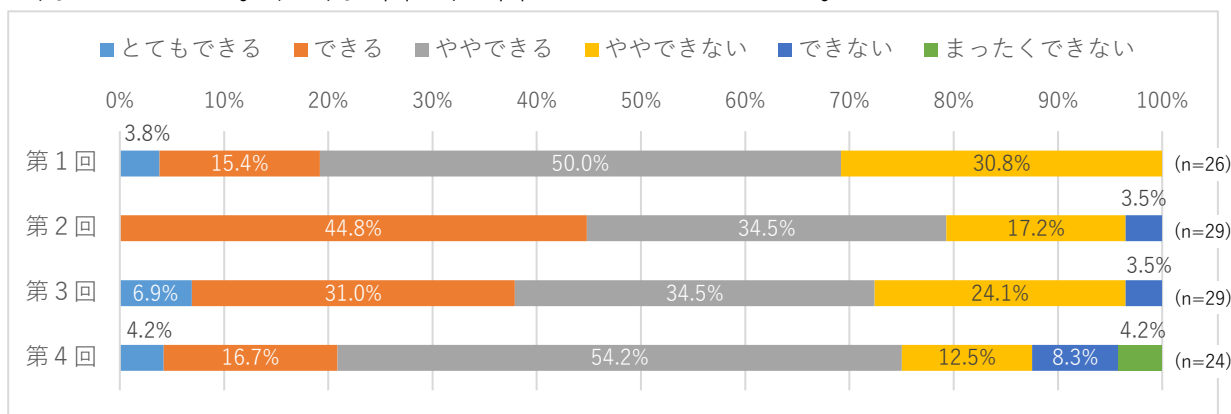


図 2-43 ファシリテーションの手法で指導する

### (31) 問題を話し合って解決するといった自治的な集団にする

「習得度」は各回とも 83%を超えている。第 1 回が 96.2%で最も高く、第 4 回は 83.3%と低くなっている。

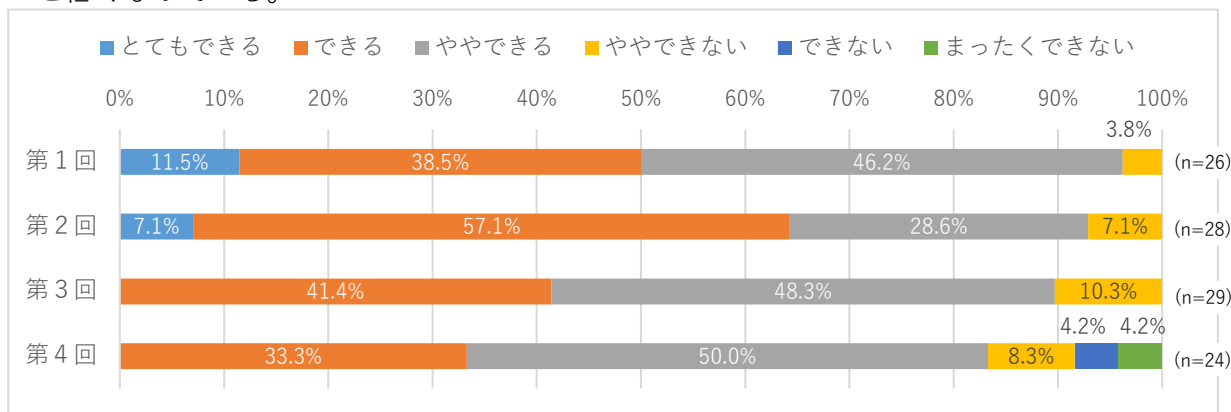


図 2-44 問題を話し合って解決するといった自治的な集団にする

### (32) 規律ある集団にする

「習得度」は各回とも 80%を超えている。第1の 80.8%よりも第4回の 87.5%の方が高くなっている。最も高い回は第2回の 96.6%となっている。

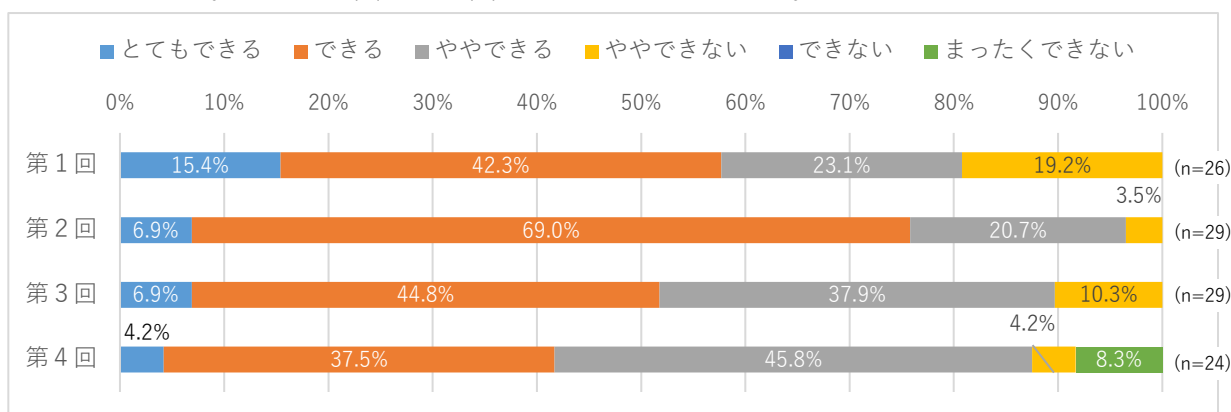


図 2-45 規律ある集団にする

### (33) 物事を進めるために、他の教職員に働きかけ巻き込む

「習得度」は各回とも 62%を超えている。第1回が 96.1%で最も高く、第4回は 62.5%と低くなっている。

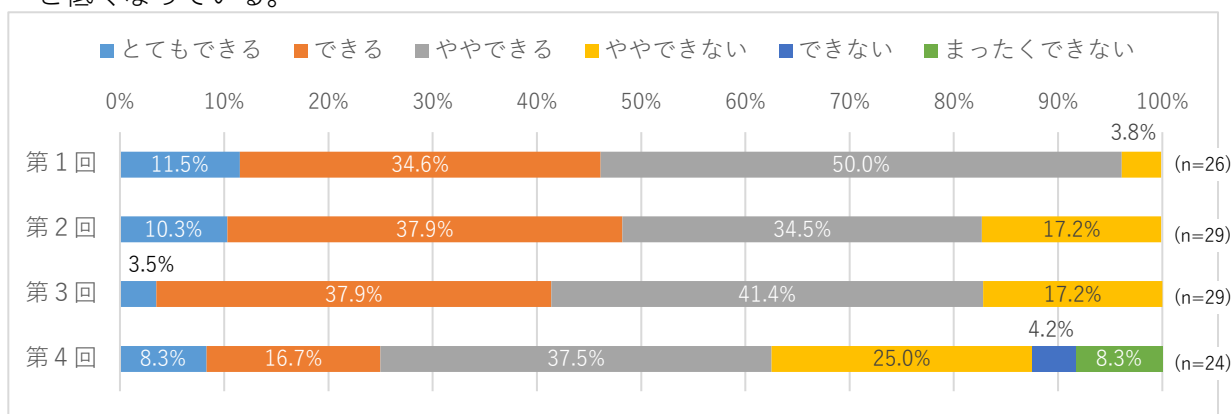


図 2-46 物事を進めるために、他の教職員に働きかけ巻き込む

### (34) 地域の関係者・団体等と連携する

「習得度」は各回とも 83%を超えている。第1回の 92.2%よりも第4回の 83.4%の方が低くなっている。最も高い回は第2回の 93.1%となっている。

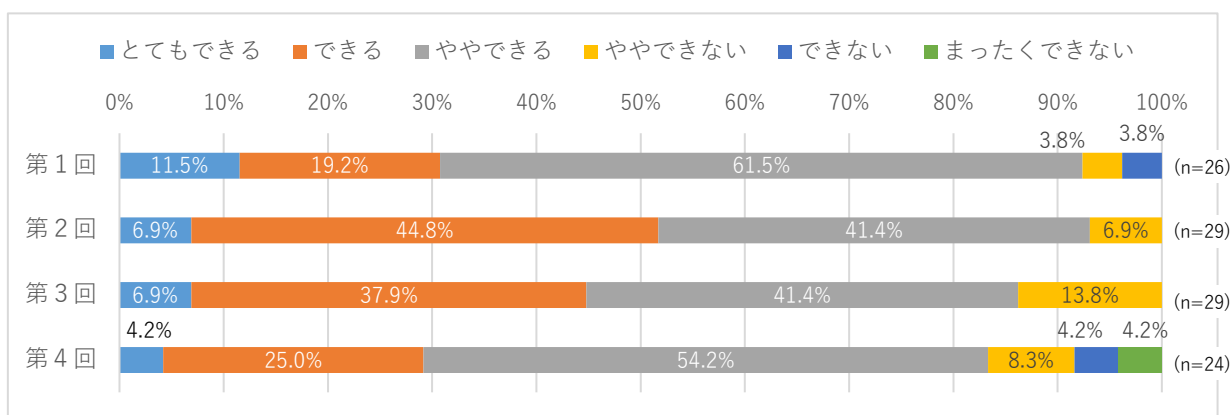


図 2-47 地域の関係者・団体等と連携する

表 2-17 資質・能力の習得 1

項目	実施回	度数	とても	できる	やや	やや	できない	まったく	合計
		割合	できる	できる	できる	できない	できない		
広い視野で考える	第1回	度数	2	6	13	5	0	0	26
		割合	7.7%	23.1%	50.0%	19.2%	0.0%	0.0%	100.0%
	第2回	度数	2	14	10	2	1	0	29
		割合	6.9%	48.3%	34.5%	6.9%	3.5%	0.0%	100.1%
	第3回	度数	0	9	16	4	0	0	29
		割合	0.0%	31.0%	55.2%	13.8%	0.0%	0.0%	100.0%
	第4回	度数	2	3	16	1	0	2	24
		割合	8.3%	12.5%	66.7%	4.2%	0.0%	8.3%	100.0%
学校の教育活動等を俯瞰的な視点でみる	第1回	度数	3	11	9	3	0	0	26
		割合	11.5%	42.3%	34.6%	11.5%	0.0%	0.0%	99.9%
	第2回	度数	2	15	10	1	1	0	29
		割合	6.9%	51.7%	34.5%	3.5%	3.5%	0.0%	100.1%
	第3回	度数	1	12	15	1	0	0	29
		割合	3.5%	41.4%	51.7%	3.5%	0.0%	0.0%	100.1%
	第4回	度数	1	8	13	0	1	1	24
		割合	4.2%	33.3%	54.2%	0.0%	4.2%	4.2%	100.0%
物事を計画的に進める	第1回	度数	2	3	15	5	0	1	26
		割合	7.7%	11.5%	57.7%	19.2%	0.0%	3.8%	100.1%
	第2回	度数	2	9	14	3	0	1	29
		割合	6.9%	31.0%	48.3%	10.3%	0.0%	3.5%	100.0%
	第3回	度数	0	7	16	5	1	0	29
		割合	0.0%	24.1%	55.2%	17.2%	3.5%	0.0%	100.0%
	第4回	度数	1	8	9	3	1	2	24
		割合	4.2%	33.3%	37.5%	12.5%	4.2%	8.3%	100.0%
物事主体的に進める	第1回	度数	2	6	14	2	0	2	26
		割合	7.7%	23.1%	53.8%	7.7%	0.0%	7.7%	100.1%
	第2回	度数	3	12	10	3	0	1	29
		割合	10.3%	41.4%	34.5%	10.3%	0.0%	3.5%	100.0%
	第3回	度数	0	6	20	3	0	0	29
		割合	0.0%	20.7%	69.0%	10.3%	0.0%	0.0%	100.0%
	第4回	度数	1	10	11	0	0	2	24
		割合	4.2%	41.7%	45.8%	0.0%	0.0%	8.3%	100.0%
物事に臨機応変に対応する	第1回	度数	3	3	15	4	0	1	26
		割合	11.5%	11.5%	57.7%	15.4%	0.0%	3.8%	100.0%
	第2回	度数	2	12	10	4	0	1	29
		割合	6.9%	41.4%	34.5%	13.8%	0.0%	3.5%	100.1%
	第3回	度数	1	12	13	3	0	0	29
		割合	3.5%	41.4%	44.8%	10.3%	0.0%	0.0%	100.0%
	第4回	度数	2	9	8	3	0	2	24
		割合	8.3%	37.5%	33.3%	12.5%	0.0%	8.3%	99.9%

表 2-17 資質・能力の習得 2

項目	実施回	度数	とても できる	できる	やや できる	やや できない	できない	まったく できない	合計
児童・生徒以外の多様な者と 関係を築く	第1回	度数	5	12	8	1	0	0	26
		割合	19.2%	46.2%	30.8%	3.8%	0.0%	0.0%	100.0%
	第2回	度数	4	16	7	2	0	0	29
		割合	13.8%	55.2%	24.1%	6.9%	0.0%	0.0%	100.0%
	第3回	度数	4	13	9	3	0	0	29
		割合	13.8%	44.8%	31.0%	10.3%	0.0%	0.0%	100.0%
	第4回	度数	1	9	12	0	0	2	24
		割合	4.2%	37.5%	50.0%	0.0%	0.0%	8.3%	100.0%
相手の意思・感情を共感的に 受け容れる	第1回	度数	7	7	12	0	0	0	26
		割合	26.9%	26.9%	46.2%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	第2回	度数	6	12	9	1	1	0	29
		割合	20.7%	41.4%	31.0%	3.5%	3.5%	0.0%	100.1%
	第3回	度数	3	12	13	1	0	0	29
		割合	10.3%	41.4%	44.8%	3.5%	0.0%	0.0%	100.0%
	第4回	度数	1	8	13	0	0	2	24
		割合	4.2%	33.3%	54.2%	0.0%	0.0%	8.3%	100.0%
相手が理解できるように自分 の意思を伝える	第1回	度数	2	6	14	4	0	0	26
		割合	7.7%	23.1%	53.8%	15.4%	0.0%	0.0%	100.0%
	第2回	度数	3	10	14	1	0	1	29
		割合	10.3%	34.5%	48.3%	3.5%	0.0%	3.5%	100.1%
	第3回	度数	0	10	16	3	0	0	29
		割合	0.0%	34.5%	55.2%	10.3%	0.0%	0.0%	100.0%
	第4回	度数	1	9	10	2	1	1	24
		割合	4.2%	37.5%	41.7%	8.3%	4.2%	4.2%	100.1%
課題の解決または自己の能力 向上のために学ぶ	第1回	度数	6	6	14	0	0	0	26
		割合	23.1%	23.1%	53.8%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	第2回	度数	5	11	11	1	1	0	29
		割合	17.2%	37.9%	37.9%	3.5%	3.5%	0.0%	100.0%
	第3回	度数	3	9	15	2	0	0	29
		割合	10.3%	31.0%	51.7%	6.9%	0.0%	0.0%	99.9%
	第4回	度数	1	5	15	1	0	2	24
		割合	4.2%	20.8%	62.5%	4.2%	0.0%	8.3%	100.0%
同僚または上司と報告・連 絡・相談をしながら仕事を進 める	第1回	度数	5	13	7	1	0	0	26
		割合	19.2%	50.0%	26.9%	3.8%	0.0%	0.0%	99.9%
	第2回	度数	9	13	6	0	1	0	29
		割合	31.0%	44.8%	20.7%	0.0%	3.5%	0.0%	100.0%
	第3回	度数	2	12	15	0	0	0	29
		割合	6.9%	41.4%	51.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	第4回	度数	1	10	9	1	1	2	24
		割合	4.2%	41.7%	37.5%	4.2%	4.2%	8.3%	100.1%

表 2-17 資質・能力の習得 3

項目	実施回	度数	とても できる	できる	やや できる	やや できない	できない	まったく できない	合計
行政的な文書を作成する	第1回	度数	1	8	10	6	0	1	26
		割合	3.8%	30.8%	38.5%	23.1%	0.0%	3.8%	100.0%
	第2回	度数	1	7	13	6	0	2	29
		割合	3.5%	24.1%	44.8%	20.7%	0.0%	6.9%	100.0%
	第3回	度数	0	4	17	6	2	0	29
		割合	0.0%	13.8%	58.6%	20.7%	6.9%	0.0%	100.0%
	第4回	度数	1	2	12	5	2	2	24
		割合	4.2%	8.3%	50.0%	20.8%	8.3%	8.3%	99.9%
多くの人に事業成果等を伝える 文書を作成する	第1回	度数	2	5	14	4	0	1	26
		割合	7.7%	19.2%	53.8%	15.4%	0.0%	3.8%	99.9%
	第2回	度数	1	10	10	6	2	0	29
		割合	3.5%	34.5%	34.5%	20.7%	6.9%	0.0%	100.1%
	第3回	度数	1	4	19	5	0	0	29
		割合	3.5%	13.8%	65.5%	17.2%	0.0%	0.0%	100.0%
	第4回	度数	1	5	13	3	0	2	24
		割合	4.2%	20.8%	54.2%	12.5%	0.0%	8.3%	100.0%
予算管理ができる	第1回	度数	1	5	6	11	2	1	26
		割合	3.8%	19.2%	23.1%	42.3%	7.7%	3.8%	99.9%
	第2回	度数	1	6	8	10	2	2	29
		割合	3.5%	20.7%	27.6%	34.5%	6.9%	6.9%	100.0%
	第3回	度数	1	4	11	10	2	1	29
		割合	3.5%	13.8%	37.9%	34.5%	6.9%	3.5%	100.1%
	第4回	度数	1	3	14	2	2	2	24
		割合	4.2%	12.5%	58.3%	8.3%	8.3%	8.3%	99.9%
教員としての自信を持つ	第1回	度数	4	10	8	3	0	1	26
		割合	15.4%	38.5%	30.8%	11.5%	0.0%	3.8%	100.0%
	第2回	度数	6	10	10	2	1	0	29
		割合	20.7%	34.5%	34.5%	6.9%	3.5%	0.0%	100.1%
	第3回	度数	1	10	12	5	0	1	29
		割合	3.5%	34.5%	41.4%	17.2%	0.0%	3.5%	100.1%
	第4回	度数	1	10	9	2	0	2	24
		割合	4.2%	41.7%	37.5%	8.3%	0.0%	8.3%	100.0%
安全管理・危機管理ができる	第1回	度数	3	9	11	3	0	0	26
		割合	11.5%	34.6%	42.3%	11.5%	0.0%	0.0%	99.9%
	第2回	度数	2	15	10	2	0	0	29
		割合	6.9%	51.7%	34.5%	6.9%	0.0%	0.0%	100.0%
	第3回	度数	3	9	17	0	0	0	29
		割合	10.3%	31.0%	58.6%	0.0%	0.0%	0.0%	99.9%
	第4回	度数	1	8	10	3	0	2	24
		割合	4.2%	33.3%	41.7%	12.5%	0.0%	8.3%	100.0%

表 2-17 資質・能力の習得 4

項目	実施回	度数	とても できる	できる	やや できる	やや できない	できない	まったく できない	合計
体験活動に関する知識を理解する	第1回	度数	4	5	12	4	0	0	25
		割合	16.0%	20.0%	48.0%	16.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	第2回	度数	1	13	12	3	0	0	29
		割合	3.5%	44.8%	41.4%	10.3%	0.0%	0.0%	100.0%
	第3回	度数	2	9	16	2	0	0	29
		割合	6.9%	31.0%	55.2%	6.9%	0.0%	0.0%	100.0%
	第4回	度数	1	9	9	3	0	2	24
		割合	4.2%	37.5%	37.5%	12.5%	0.0%	8.3%	100.0%
自然体験活動を指導する	第1回	度数	3	4	12	6	0	1	26
		割合	11.5%	15.4%	46.2%	23.1%	0.0%	3.8%	100.0%
	第2回	度数	1	11	15	2	0	0	29
		割合	3.5%	37.9%	51.7%	6.9%	0.0%	0.0%	100.0%
	第3回	度数	2	9	16	2	0	0	29
		割合	6.9%	31.0%	55.2%	6.9%	0.0%	0.0%	100.0%
	第4回	度数	1	9	8	4	0	2	24
		割合	4.2%	37.5%	33.3%	16.7%	0.0%	8.3%	100.0%
集団宿泊的行事を計画・運営する	第1回	度数	3	7	11	4	0	1	26
		割合	11.5%	26.9%	42.3%	15.4%	0.0%	3.8%	100.0%
	第2回	度数	2	14	11	2	0	0	29
		割合	6.9%	48.3%	37.9%	6.9%	0.0%	0.0%	100.0%
	第3回	度数	3	11	14	1	0	0	29
		割合	10.3%	37.9%	48.3%	3.5%	0.0%	0.0%	100.0%
	第4回	度数	2	12	8	0	0	2	24
		割合	8.3%	50.0%	33.3%	0.0%	0.0%	8.3%	99.9%
学校行事を計画・運営する (集団宿泊的行事を除く)	第1回	度数	4	11	8	2	0	1	26
		割合	15.4%	42.3%	30.8%	7.7%	0.0%	3.8%	100.0%
	第2回	度数	3	15	9	2	0	0	29
		割合	10.3%	51.7%	31.0%	6.9%	0.0%	0.0%	99.9%
	第3回	度数	2	11	14	2	0	0	29
		割合	6.9%	37.9%	48.3%	6.9%	0.0%	0.0%	100.0%
	第4回	度数	1	11	8	2	0	2	24
		割合	4.2%	45.8%	33.3%	8.3%	0.0%	8.3%	99.9%
教科等の授業計画を立案する	第1回	度数	3	12	7	3	0	1	26
		割合	11.5%	46.2%	26.9%	11.5%	0.0%	3.8%	100.0%
	第2回	度数	5	16	6	2	0	0	29
		割合	17.2%	55.2%	20.7%	6.9%	0.0%	0.0%	100.0%
	第3回	度数	4	11	11	3	0	0	29
		割合	13.8%	37.9%	37.9%	10.3%	0.0%	0.0%	99.9%
	第4回	度数	2	9	10	1	0	2	24
		割合	8.3%	37.5%	41.7%	4.2%	0.0%	8.3%	100.0%

表 2-17 資質・能力の習得 5

項目	実施回	度数	とても できる	できる	やや できる	やや できない	できない	まったく できない	合計
体験活動を取り入れた教育課程を編成する	第1回	度数	2	8	12	4	0	0	26
		割合	7.7%	30.8%	46.2%	15.4%	0.0%	0.0%	100.1%
	第2回	度数	1	11	13	3	1	0	29
		割合	3.5%	37.9%	44.8%	10.3%	3.5%	0.0%	100.0%
	第3回	度数	1	7	17	4	0	0	29
		割合	3.5%	24.1%	58.6%	13.8%	0.0%	0.0%	100.0%
	第4回	度数	0	6	11	2	4	1	24
		割合	0.0%	25.0%	45.8%	8.3%	16.7%	4.2%	100.0%
現代的な課題をテーマに，教科等横断的な視点で教育課程を編成する	第1回	度数	2	4	13	7	0	0	26
		割合	7.7%	15.4%	50.0%	26.9%	0.0%	0.0%	100.0%
	第2回	度数	1	10	11	6	1	0	29
		割合	3.5%	34.5%	37.9%	20.7%	3.5%	0.0%	100.1%
	第3回	度数	0	8	13	7	1	0	29
		割合	0.0%	27.6%	44.8%	24.1%	3.5%	0.0%	100.0%
	第4回	度数	1	4	10	6	2	1	24
		割合	4.2%	16.7%	41.7%	25.0%	8.3%	4.2%	100.1%
学習指導要領改訂の趣旨または学習指導要領の内容を理解して教育課程を編成する	第1回	度数	2	7	12	4	1	0	26
		割合	7.7%	26.9%	46.2%	15.4%	3.8%	0.0%	100.1%
	第2回	度数	2	12	9	5	1	0	29
		割合	6.9%	41.4%	31.3%	17.2%	3.5%	0.0%	100.0%
	第3回	度数	0	7	14	7	1	0	29
		割合	0.0%	24.1%	48.3%	24.1%	3.5%	0.0%	100.0%
	第4回	度数	0	5	9	6	2	2	24
		割合	0.0%	20.8%	37.5%	25.0%	8.3%	8.3%	99.9%
小学生や中学生といった発達段階に応じた心身の特徴を理解する	第1回	度数	5	8	13	0	0	0	26
		割合	19.2%	30.8%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	第2回	度数	4	12	11	2	0	0	29
		割合	13.8%	41.4%	37.9%	6.9%	0.0%	0.0%	100.0%
	第3回	度数	2	11	16	0	0	0	29
		割合	6.9%	37.9%	55.2%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	第4回	度数	0	9	12	1	1	1	24
		割合	0.0%	37.5%	50.0%	4.2%	4.2%	4.2%	100.1%
児童・生徒の言動から内面的な心情を理解する	第1回	度数	4	10	11	0	0	0	25
		割合	16.0%	40.0%	44.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	第2回	度数	3	11	15	0	0	0	29
		割合	10.3%	37.9%	51.7%	0.0%	0.0%	0.0%	99.9%
	第3回	度数	3	11	15	0	0	0	29
		割合	10.3%	37.9%	51.7%	0.0%	0.0%	0.0%	99.0%
	第4回	度数	0	9	13	0	1	1	24
		割合	0.0%	37.5%	54.2%	0.0%	4.2%	4.2%	100.1%

表 2-17 資質・能力の習得 6

項目	実施回	度数	とても できる	できる	やや できる	やや できない	できない	まったく できない	合計
児童・生徒の成育歴等から特性を把握する	第1回	度数	5	5	15	1	0	0	26
		割合	19.2%	19.2%	57.7%	3.8%	0.0%	0.0%	100.0%
	第2回	度数	4	9	15	1	0	0	29
		割合	13.8%	31.0%	51.7%	3.5%	0.0%	0.0%	100.0%
	第3回	度数	2	10	15	2	0	0	29
		割合	6.9%	34.5%	51.7%	6.9%	0.0%	0.0%	100.0%
	第4回	度数	0	8	11	3	0	2	24
		割合	0.0%	33.3%	45.8%	12.5%	0.0%	8.3%	99.9%
様々な対象に応じた話し方をする	第1回	度数	3	10	13	0	0	0	26
		割合	11.5%	38.5%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	第2回	度数	4	18	7	0	0	0	29
		割合	13.8%	62.1%	24.1%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	第3回	度数	2	13	14	0	0	0	29
		割合	6.9%	44.8%	48.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	第4回	度数	1	9	11	1	1	1	24
		割合	4.2%	37.5%	45.8%	4.2%	4.2%	4.2%	100.1%
一人一人の児童・生徒の特性に応じて指導する	第1回	度数	3	11	12	0	0	0	26
		割合	11.5%	42.3%	46.2%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	第2回	度数	4	15	10	0	0	0	29
		割合	13.8%	51.7%	34.5%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	第3回	度数	3	13	12	1	0	0	29
		割合	10.3%	44.8%	41.4%	3.5%	0.0%	0.0%	100.0%
	第4回	度数	1	9	11	2	0	1	24
		割合	4.2%	37.5%	45.8%	8.3%	0.0%	4.2%	100.1%
人間関係づくりプログラムを指導する	第1回	度数	2	7	11	5	0	1	26
		割合	7.7%	26.9%	42.3%	19.2%	0.0%	3.8%	99.9%
	第2回	度数	2	13	11	2	1	0	29
		割合	6.9%	44.8%	37.9%	6.9%	3.5%	0.0%	100.0%
	第3回	度数	2	9	11	7	0	0	29
		割合	6.9%	31.0%	37.9%	24.1%	0.0%	0.0%	99.9%
	第4回	度数	1	8	9	3	2	1	24
		割合	4.2%	33.3%	37.5%	12.5%	8.3%	4.2%	100.1%
ファシリテーションの手法で指導する	第1回	度数	1	4	13	8	0	0	26
		割合	3.8%	15.4%	50.0%	30.8%	0.0%	0.0%	100.1%
	第2回	度数	0	13	10	5	1	0	29
		割合	0.0%	44.8%	34.5%	17.2%	3.5%	0.0%	100.0%
	第3回	度数	2	9	10	7	1	0	29
		割合	6.9%	31.0%	34.5%	24.1%	3.5%	0.0%	100.0%
	第4回	度数	1	4	13	3	2	1	24
		割合	4.2%	16.7%	54.2%	12.5%	8.3%	4.2%	100.1%

表 2-17 資質・能力の習得 7

項目	実施回	度数	とても できる	できる	やや できる	やや できない	できない	まったく できない	合計
問題を話し合っ解決するとい った自治的な活動ができる 集団にする	第1回	度数	3	10	12	1	0	0	26
		割合	11.5%	38.5%	46.2%	3.8%	0.0%	0.0%	100.1%
	第2回	度数	2	16	8	2	0	0	28
		割合	7.1%	57.1%	28.6%	7.1%	0.0%	0.0%	99.9%
	第3回	度数	0	12	14	3	0	0	29
		割合	0.0%	41.4%	48.3%	10.3%	0.0%	0.0%	100.0%
	第4回	度数	0	8	12	2	1	1	24
		割合	0.0%	33.3%	50.0%	8.3%	4.2%	4.2%	100.1%
規律ある集団にする	第1回	度数	4	11	6	5	0	0	26
		割合	15.4%	42.3%	23.1%	19.2%	0.0%	0.0%	100.0%
	第2回	度数	2	20	6	1	0	0	29
		割合	6.9%	69.0%	20.7%	3.5%	0.0%	0.0%	100.1%
	第3回	度数	2	13	11	3	0	0	29
		割合	6.9%	44.8%	37.9%	10.3%	0.0%	0.0%	99.9%
	第4回	度数	1	9	11	1	0	2	24
		割合	4.2%	37.5%	45.8%	4.2%	0.0%	8.3%	100.0%
物事を進めるために、他の教 職員に働きかけ巻き込む	第1回	度数	3	9	13	1	0	0	26
		割合	11.5%	34.6%	50.0%	3.8%	0.0%	0.0%	99.9%
	第2回	度数	3	11	10	5	0	0	29
		割合	10.3%	37.9%	34.5%	17.2%	0.0%	0.0%	99.9%
	第3回	度数	1	11	12	5	0	0	29
		割合	3.5%	37.9%	41.4%	17.2%	0.0%	0.0%	100.0%
	第4回	度数	2	4	9	6	1	2	24
		割合	8.3%	16.7%	37.5%	25.0%	4.2%	8.3%	100.0%
地域の関係者・団体等と連携 する	第1回	度数	3	5	16	1	1	0	26
		割合	11.5%	19.2%	61.5%	3.8%	3.8%	0.0%	99.8%
	第2回	度数	2	13	12	2	0	0	29
		割合	6.9%	44.8%	41.4%	6.9%	0.0%	0.0%	100.0%
	第3回	度数	2	11	12	4	0	0	29
		割合	6.9%	37.9%	41.4%	13.8%	0.0%	0.0%	100.0%
	第4回	度数	1	6	13	2	1	1	24
		割合	4.2%	25.0%	54.2%	8.3%	4.2%	4.2%	100.1%

## 10 見方・考え方についての意識

令和2年度の第二次調査で析出した国立施設に勤務したことにより醸成された見方・考え方について、どの程度意識しているかを尋ねた結果は図2-48～60、表2-18のとおりである。

### (1) 児童・生徒に考えさせたり、挑戦させたりする

「とても意識している」または「意識している」または「やや意識している」と回答した割合（以下、「意識度」）は各回とも91%を超えている。第1回と第2回と第3回の100.0%が最も高く、第4回は91.7%とやや低くなっている。

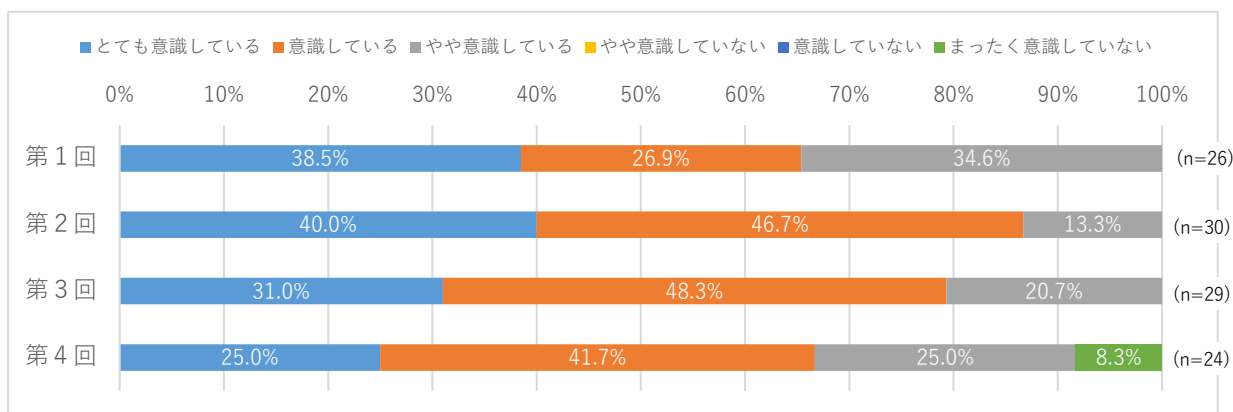


図2-48 児童・生徒に考えさせたり、挑戦させたりする

### (2) 児童・生徒が試行錯誤できるよう時間的なゆとりを持つ

「意識度」は各回とも83%を超えている。第1回の96.2%よりも第4回の83.4%の方が低くなっている。最も高い回は第2回と第3回の100.0%となっている。

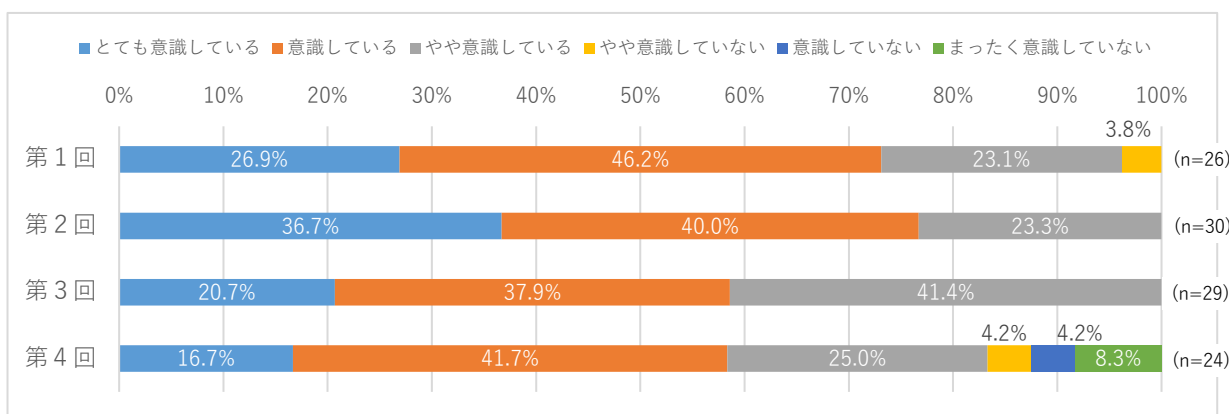


図2-49 児童・生徒が試行錯誤できるよう時間的なゆとりを持つ

### (3) 児童・生徒一人一人のよいところを伸ばす

「意識度」は各回とも 87%を超えている。第 1 回の 100.0%が最も高く第 4 回は 87.5%と低くなっている。

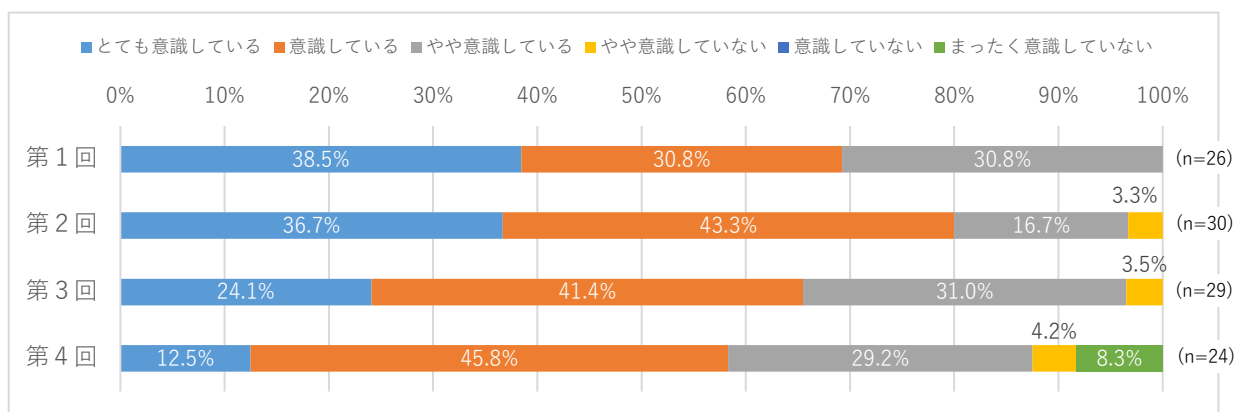


図 2-50 児童・生徒一人一人のよいところを伸ばす

### (4) 児童・生徒がどのように学ぶかといった学習過程を重視する

「意識度」は各回とも 87%を超えている。第 1 回と第 2 回の 100.0%が最も高く、第 4 回は 87.5%と低くなっている。

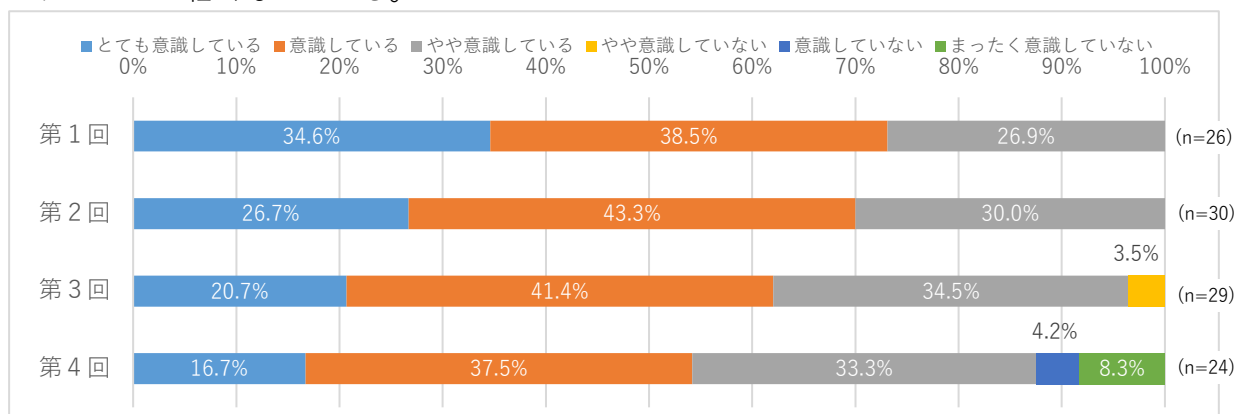


図 2-51 児童・生徒がどのように学ぶかといった学習過程を重視する

### (5) 国の教育政策を理解する

「意識度」は各回とも 70%を超えている。第 1 回の 80.8%が最も高く、第 4 回は 70.8%と低くなっている。

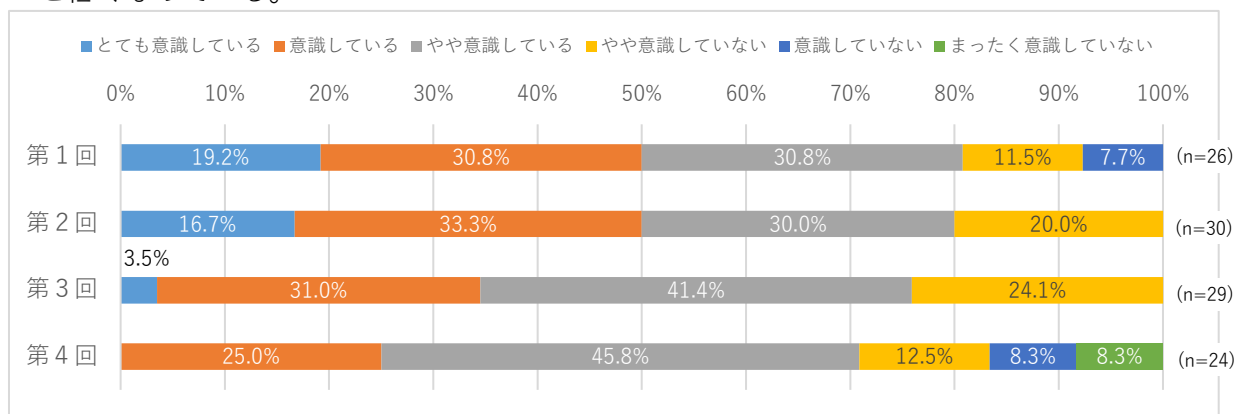


図 2-52 国の教育政策を理解する

## (6) コスト意識を持つ

「意識度」は各回とも74%を超えている。第1回の80.8%よりも第4回の74.9%の方が低くなっている。最も高い回は第3回の86.2%となっている。

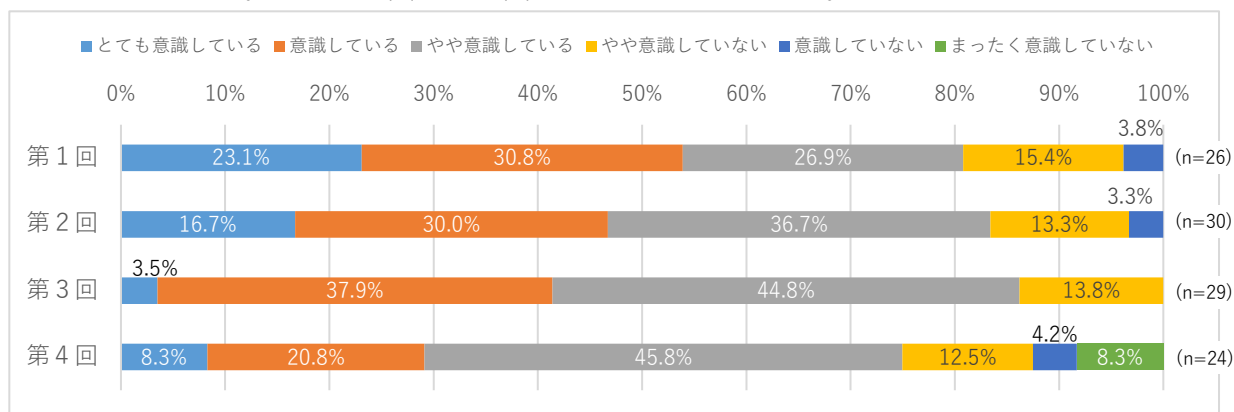


図 2-53 コスト意識を持つ

## (7) 余暇を有意義に過ごす

「意識度」は各回とも75%を超えている。第1回の92.3%が最も高く、第4回は75.0%と低くなっている。

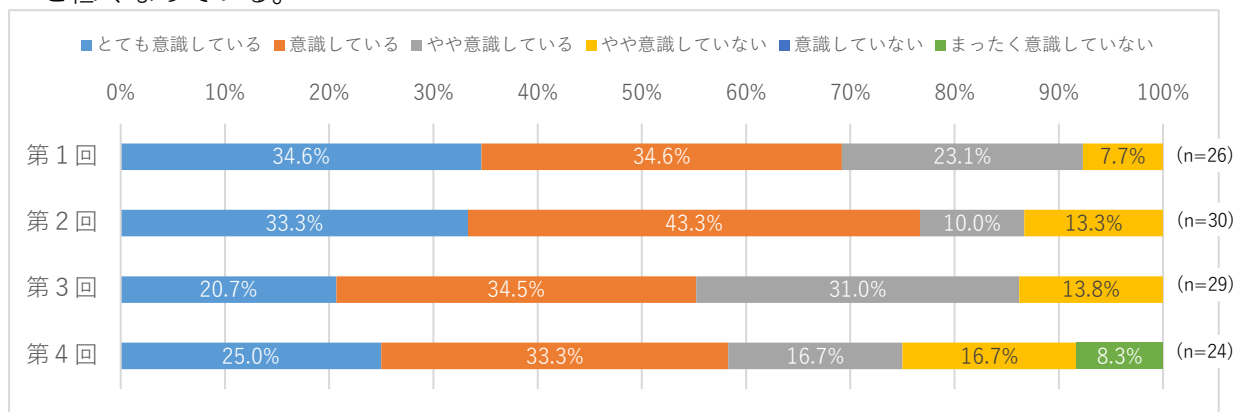


図 2-54 余暇を有意義に過ごす

## (8) 勤務時間内に仕事を終えるようにする

「意識度」は各回とも66%を超えている。第1回の80.0%よりも第4回の66.7%の方が低くなっている。最も高い回は第2回の83.4%となっている。

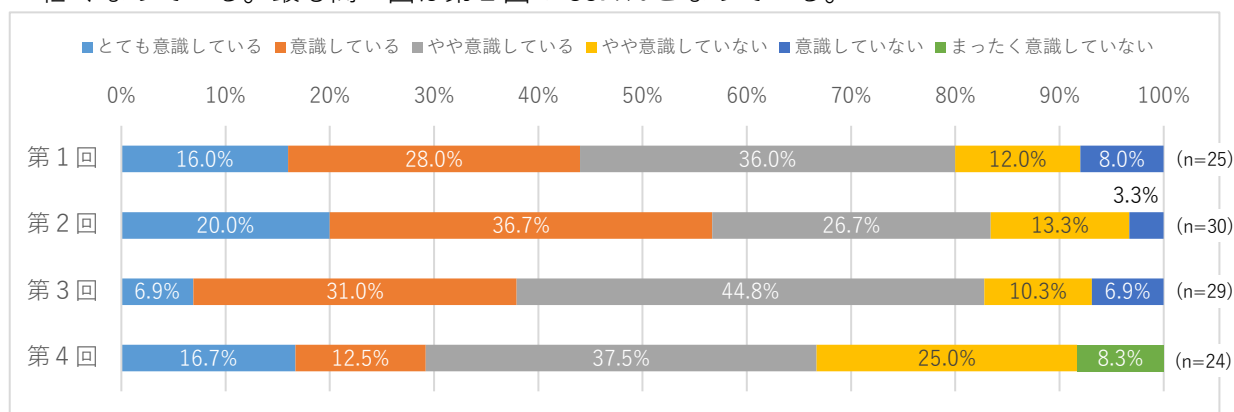


図 2-55 勤務時間内に仕事を終えるようにする

### (9) 安全管理・危機管理体制を整備する

「意識度」は各回とも 87%を超えている。第 1 回の 88.4%よりも第 4 回の 87.5%の方が低くなっている。最も高い回は第 2 回の 100.0%となっている。

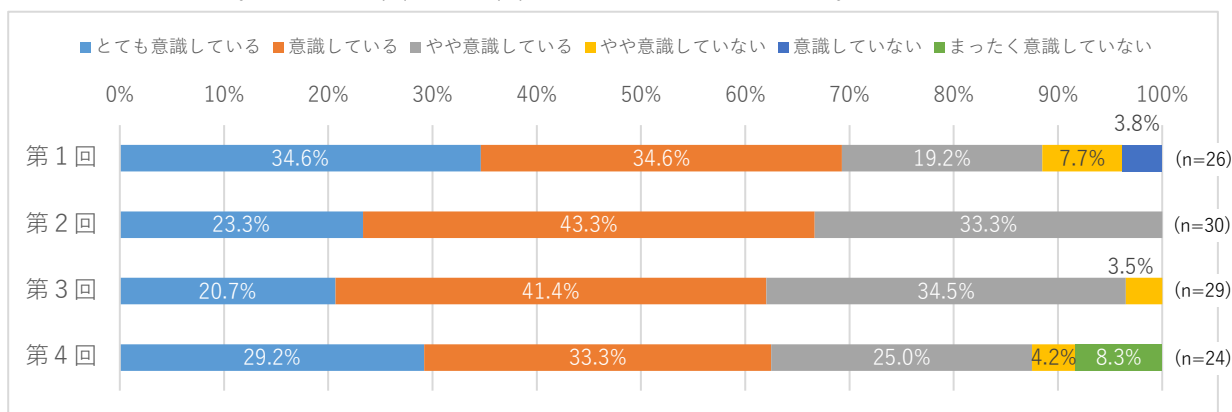


図 2-56 安全管理・危機管理体制を整備する

### (10) 児童・生徒に関わる者が連携・協力しながら物事を進める

「意識度」は、各回とも 87%を超えている。第 1 回と第 2 回の 100.0%が最も高く、第 4 回は 87.5%と低くなっている。

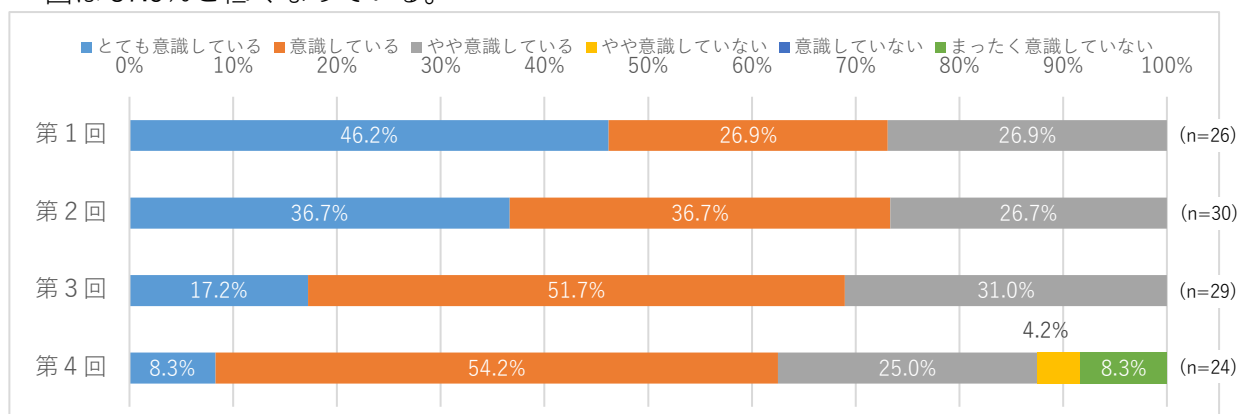


図 2-57 児童・生徒に関わる者が連携・協力しながら物事を進める

### (11) 学校の一員として自らの役割を果たす

「意識度」は、各回とも 87%を超えている。第 1 回と第 3 回の 100.0%が最も高く、第 4 回は 87.5%と低くなっている。

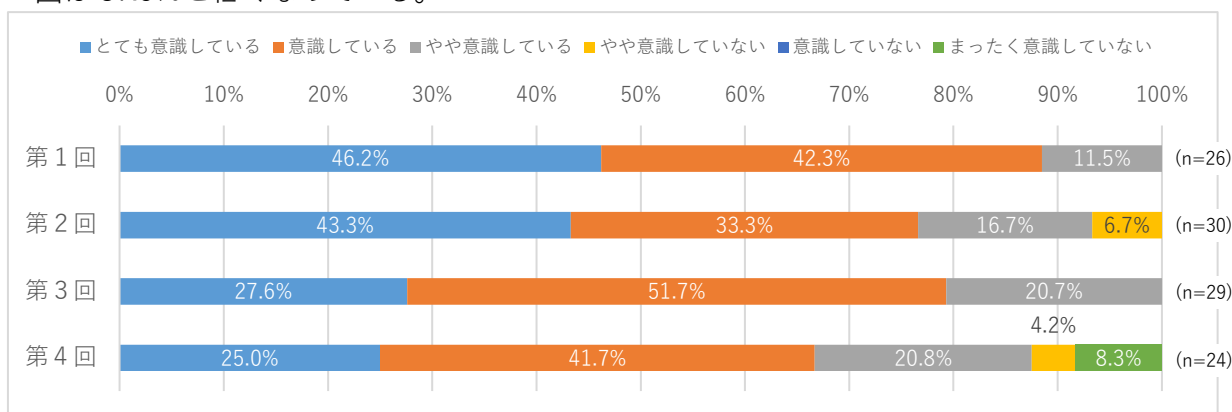


図 2-58 学校の一員として自らの役割を果たす

## (12) 学校の教育活動に、地域の人材や自然といった教育資源を活かす

「意識度」は、各回とも 79%を超えている。第 1 回の 92.3%よりも第 4 回の 79.2%の方が低くなっている。最も高い回は第 2 回の 100.0%となっている。

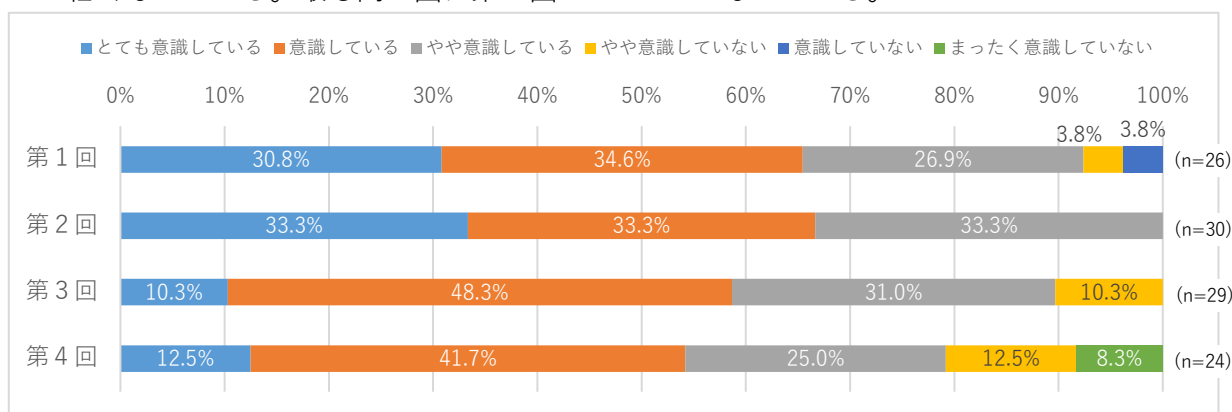


図 2-59 学校の教育活動に、地域の人材や自然といった教育資源を活かす

## (13) 地域づくりに学校が貢献する

「意識度」は、各回とも 75%を超えている。第 1 回の 92.3%よりも第 4 回の 75.0%の方が低くなっている。最も高い回は第 2 回の 93.3%となっている。

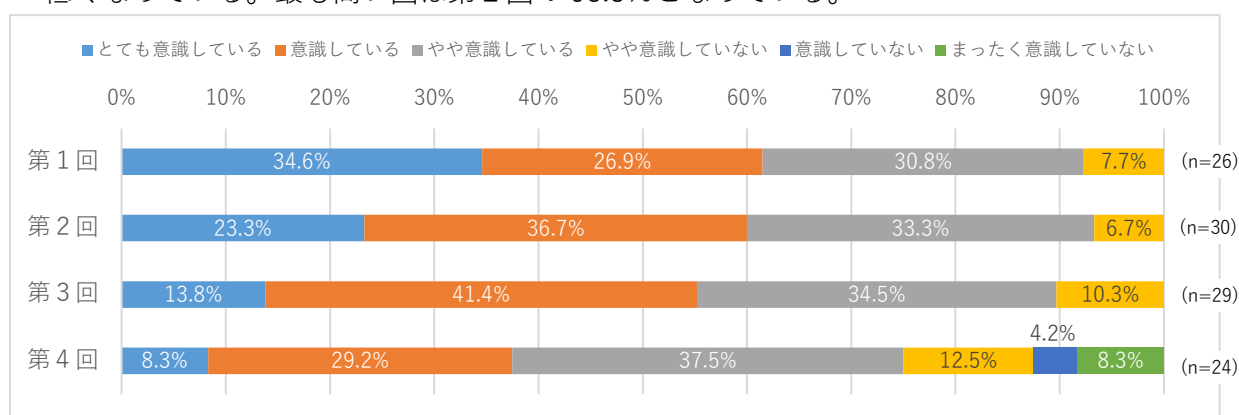


図 2-60 地域づくりに学校が貢献する

表 2-18 見方・考え方についての意識 1

項目	実施回	度数	とても意識している	意識している	やや意識している	やや意識していない	意識していない	まったく意識していない	合計
		割合							
児童・生徒に考えさせたり、挑戦させたりする	第1回	度数	10	7	9	0	0	0	26
		割合	38.5%	26.9%	34.6%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	第2回	度数	12	14	4	0	0	0	30
		割合	40.0%	46.7%	13.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	第3回	度数	9	14	6	0	0	0	29
		割合	31.0%	48.3%	20.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	第4回	度数	6	10	6	0	0	2	24
		割合	25.0%	41.7%	25.0%	0.0%	0.0%	8.3%	100.0%
児童・生徒が試行錯誤できる よう時間的なゆとりを持つ	第1回	度数	7	12	6	1	0	0	26
		割合	26.9%	46.2%	23.1%	3.8%	0.0%	0.0%	100.1%
	第2回	度数	11	12	7	0	0	0	30
		割合	36.7%	40.0%	23.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	第3回	度数	6	11	12	0	0	0	29
		割合	20.7%	37.9%	41.4%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	第4回	度数	4	10	6	1	1	2	24
		割合	16.7%	41.7%	25.0%	4.2%	4.2%	8.3%	100.1%
児童・生徒一人一人のよいところを伸ばす	第1回	度数	10	8	8	0	0	0	26
		割合	38.5%	30.8%	30.8%	0.0%	0.0%	0.0%	100.1%
	第2回	度数	11	13	5	1	0	0	30
		割合	36.7%	43.3%	16.7%	3.3%	0.0%	0.0%	100.0%
	第3回	度数	7	12	9	1	0	0	29
		割合	24.1%	41.4%	31.0%	3.5%	0.0%	0.0%	100.0%
	第4回	度数	3	11	7	1	0	2	24
		割合	12.5%	45.8%	29.2%	4.2%	0.0%	8.3%	100.0%
児童・生徒がどのように学ぶか といった学習過程を重視する	第1回	度数	9	10	7	0	0	0	26
		割合	34.6%	38.5%	26.9%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	第2回	度数	8	13	9	0	0	0	30
		割合	26.7%	43.3%	30.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	第3回	度数	6	12	10	1	0	0	29
		割合	20.7%	41.4%	34.5%	3.5%	0.0%	0.0%	100.1%
	第4回	度数	4	9	8	0	1	2	24
		割合	16.7%	37.5%	33.3%	0.0%	4.2%	8.3%	100.0%
国の教育政策を理解する	第1回	度数	5	8	8	3	2	0	26
		割合	19.2%	30.8%	30.8%	11.5%	7.7%	0.0%	100.0%
	第2回	度数	5	10	9	6	0	0	30
		割合	16.7%	33.3%	30.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	第3回	度数	1	9	12	7	0	0	29
		割合	3.5%	31.0%	41.4%	24.1%	0.0%	0.0%	100.0%
	第4回	度数	0	6	11	3	2	2	24
		割合	0.0%	25.0%	45.8%	12.5%	8.3%	8.3%	99.9%

表 2-18 見方・考え方についての意識 2

項目	実施回	意識		やや意識 している	やや意識 していない	意識し ていない	まったく意識 していない	合計	
		度数	割合						
コスト意識を持つ	第1回	度数	6	8	7	4	1	0	26
		割合	23.1%	30.8%	26.9%	15.4%	3.8%	0.0%	100.0%
	第2回	度数	5	9	11	4	1	0	30
		割合	16.7%	30.0%	36.7%	13.3%	3.3%	0.0%	100.0%
	第3回	度数	1	11	13	4	0	0	29
		割合	3.5%	37.9%	44.8%	13.8%	0.0%	0.0%	100.0%
	第4回	度数	2	5	11	3	1	2	24
		割合	8.3%	20.8%	45.8%	12.5%	4.2%	8.3%	99.9%
余暇を有意義に過ごす	第1回	度数	9	9	6	2	0	0	26
		割合	34.6%	34.6%	23.1%	7.7%	0.0%	0.0%	100.0%
	第2回	度数	10	13	3	4	0	0	30
		割合	33.3%	43.3%	10.0%	13.3%	0.0%	0.0%	99.9%
	第3回	度数	6	10	9	4	0	0	29
		割合	20.7%	34.5%	31.0%	13.8%	0.0%	0.0%	100.0%
	第4回	度数	6	8	4	4	0	2	24
		割合	25.0%	33.3%	16.7%	16.7%	0.0%	8.3%	100.0%
勤務時間内に仕事を終えるよ うにする	第1回	度数	4	7	9	3	2	0	25
		割合	16.0%	28.0%	36.0%	12.0%	8.0%	0.0%	100.0%
	第2回	度数	6	11	8	4	1	0	30
		割合	20.0%	36.7%	26.7%	13.3%	3.3%	0.0%	100.0%
	第3回	度数	2	9	13	3	2	0	29
		割合	6.9%	31.0%	44.8%	10.3%	6.9%	0.0%	99.9%
	第4回	度数	4	3	9	6	0	2	24
		割合	16.7%	12.5%	37.5%	25.0%	0.0%	8.3%	100.0%
安全管理・危機管理体制を整 備する	第1回	度数	9	9	5	2	1	0	26
		割合	34.6%	34.6%	19.2%	7.7%	3.8%	0.0%	99.9%
	第2回	度数	7	13	10	0	0	0	30
		割合	23.3%	43.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	99.9%
	第3回	度数	6	12	10	1	0	0	29
		割合	20.7%	41.4%	34.5%	3.5%	0.0%	0.0%	100.1%
	第4回	度数	7	8	6	1	0	2	24
		割合	29.2%	33.3%	25.0%	4.2%	0.0%	8.3%	100.0%
児童・生徒に関わる者が連 携・協力しながら物事を進め る	第1回	度数	12	7	7	0	0	0	26
		割合	46.2%	26.9%	26.9%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	第2回	度数	11	11	8	0	0	0	30
		割合	36.7%	36.7%	26.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.1%
	第3回	度数	5	15	9	0	0	0	29
		割合	17.2%	51.7%	31.0%	0.0%	0.0%	0.0%	99.9%
	第4回	度数	2	13	6	1	0	2	24
		割合	8.3%	54.2%	25.0%	4.2%	0.0%	8.3%	100.0%

表 2-18 見方・考え方についての意識 3

項目	実施回	度数	とても意識	意識し	やや意識	やや意識	意識し	まったく意識	合計
		割合	している	ている	している	していない	ていない	していない	
学校の一員として自らの役割を果たす	第1回	度数	12	11	3	0	0	0	26
		割合	46.2%	42.3%	11.5%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	第2回	度数	13	10	5	2	0	0	30
		割合	43.3%	33.3%	16.7%	6.7%	0.0%	0.0%	100.0%
	第3回	度数	8	15	6	0	0	0	29
		割合	27.6%	51.7%	20.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	第4回	度数	6	10	5	1	0	2	24
		割合	25.0%	41.7%	20.8%	4.2%	0.0%	8.3%	100.0%
学校の教育活動に、地域の人材や自然といった教育資源を活かす	第1回	度数	8	9	7	1	1	0	26
		割合	30.8%	34.6%	26.9%	3.8%	3.8%	0.0%	100.1%
	第2回	度数	10	10	10	0	0	0	30
		割合	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	99.9%
	第3回	度数	3	14	9	3	0	0	29
		割合	10.3%	48.3%	31.0%	10.3%	0.0%	0.0%	99.9%
	第4回	度数	3	10	6	3	0	2	24
		割合	12.5%	41.7%	25.0%	12.5%	0.0%	8.3%	100.0%
地域づくりに学校が貢献する	第1回	度数	9	7	8	2	0	0	26
		割合	34.6%	26.9%	30.8%	7.7%	0.0%	0.0%	100.0%
	第2回	度数	7	11	10	2	0	0	30
		割合	23.3%	36.7%	33.3%	6.7%	0.0%	0.0%	100.0%
	第3回	度数	4	12	10	3	0	0	29
		割合	13.8%	41.4%	34.5%	10.3%	0.0%	0.0%	100.0%
	第4回	度数	2	7	9	3	1	2	24
		割合	8.3%	29.2%	37.5%	12.5%	4.2%	8.3%	100.0%

## 11 国立施設での業務等に対する有用感（第4回）

国立施設での業務等が、今後の教育活動にどの程度役立つかを尋ねた結果は図 2-61、表 2-19 の通りである。

「思う」または「どちらかと思う」と回答した割合を見ると、全項目が 70%以上となっている。最も高い割合は「研修支援において、様々な利用者と窓口や電話で対応したこと」が 87.5%，次いで「教育事業を運営したこと」「教育事業の参加者を指導したこと」「教育事業または研修支援において、安全管理・危機管理を行ったこと」「国立大学から派遣された職員や機構採用職員と仕事をしたこと」が 83.3%となっている。最も低い割合は、「他県等教育委員会から派遣された企画指導専門職等と仕事をしたこと」が 70.8%，次いで「利用促進等の広報活動」が 75.0%となっている。

教育事業に関する 3つの事項を見ると、「教育事業を運営したこと」と「教育事業の参加者を指導したこと」が 83.3%，「教育事業を企画したこと」が 79.2%となっている。

一方、研修支援に関する 3つの事項は「研修支援において、様々な利用者と窓口や電話で対応したこと」が 87.5%，「研修支援において、学校の集団宿泊活動をサポートしたこと」が 79.1%，「研修支援において、利用団体に体験活動プログラムを指導したこと」が 75.0%となっている。

仕事で交流した対象を見ると、「国立大学から派遣された職員や機構採用職員と仕事をしたこと」が 83.3%，「ボランティアや地域の団体といった様々な者と交流したこと」が 79.1%，「他県等から派遣された企画指導専門職等」が 70.8%となっている。

また、「その他に役立ったことがあればご記入ください」という質問に対して、以下の 3件の回答があった。

- ①多様な人との出会い。特に、地域や大学など他の関係機関や講師の方との関わりやコネクション。また、プロパーの方々の経験やアイデアから学校教育という狭い枠では出てこないものが創れたこと。国立ということで、非常に縛りがきつく、結果学校教育以上に官僚的でトップダウン型の組織ではあるものの、社会教育という世界の一端を経験し、みることで学びは広く深かったと感じている。
- ②地域連携の考え方や広報のやり方
- ③労働環境について意識するようになったこと

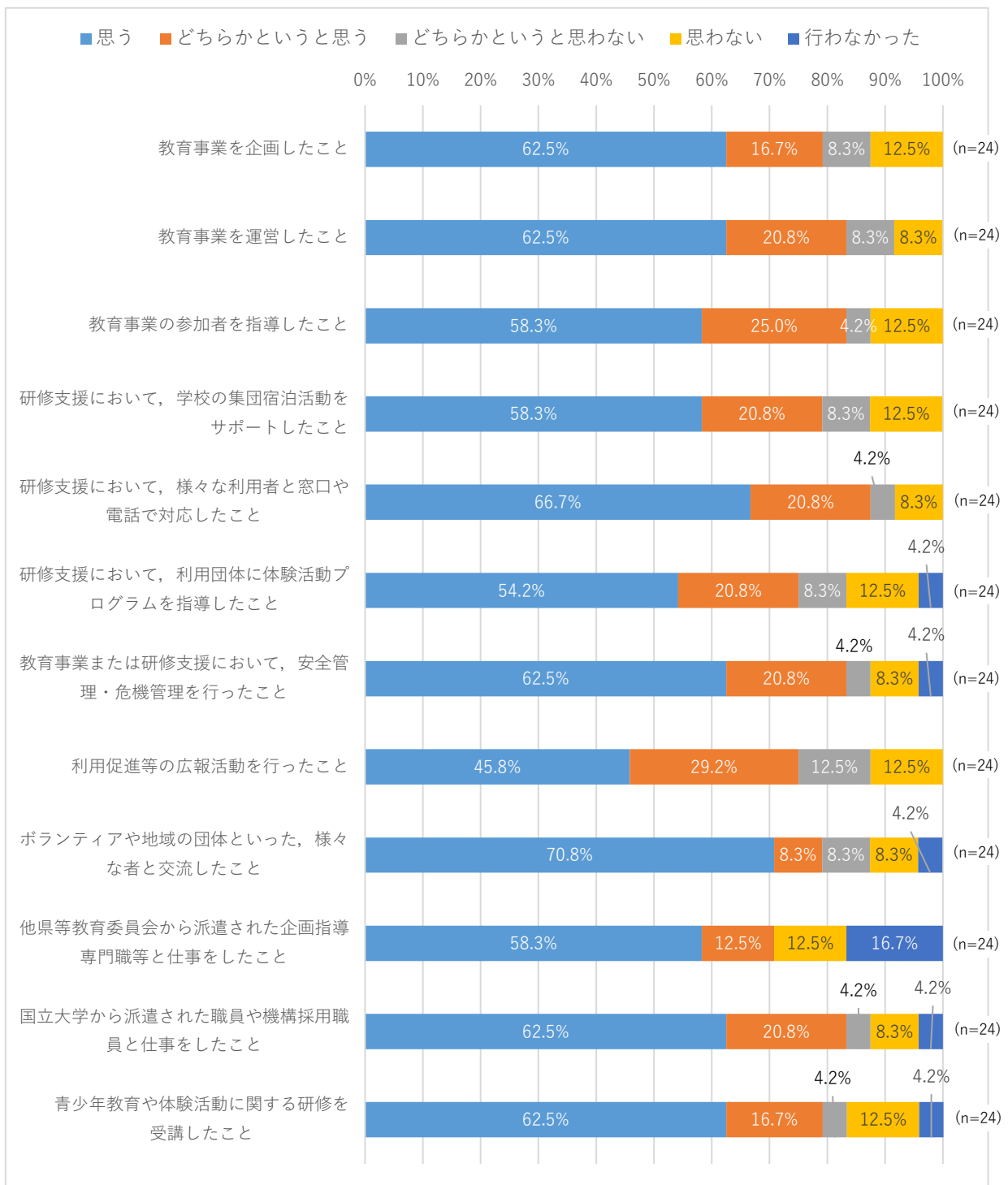


図 2-61 国立施設での業務等に対する有用感

表 2-19 国立施設での業務等に対する有用感

業務	実施回	度数	思う	どちらかといふと思う	どちらかといふ思わぬ	思わない	行わなかった	合計
		割合						
教育事業を企画したこと	第4回	度数	15	4	2	3	0	24
		割合	62.5%	16.7%	8.3%	12.5%	0.0%	100.0%
教育事業を運営したこと	第4回	度数	15	5	2	2	0	24
		割合	62.5%	20.8%	8.3%	8.3%	0.0%	99.9%
教育事業の参加者を指導したこと	第4回	度数	14	6	1	3	0	24
		割合	58.3%	25.0%	4.2%	12.5%	0.0%	100.0%
研修支援において、学校の集団宿泊活動をサポートしたこと	第4回	度数	14	5	2	3	0	24
		割合	58.3%	20.8%	8.3%	12.5%	0.0%	99.9%
研修支援において、様々な利用者と窓口や電話で対応したこと	第4回	度数	16	5	1	2	0	24
		割合	66.7%	20.8%	4.2%	8.3%	0.0%	100.0%
研修支援において、利用団体に体験活動プログラムを指導したこと	第4回	度数	13	5	2	3	1	24
		割合	54.2%	20.8%	8.3%	12.5%	4.2%	100.0%
教育事業または研修支援において、安全管理・危機管理を行ったこと	第4回	度数	15	5	1	2	1	24
		割合	62.5%	20.8%	4.2%	8.3%	4.2%	100.0%
利用促進等の広報活動を行ったこと	第4回	度数	11	7	3	3	0	24
		割合	45.8%	29.2%	12.5%	12.5%	0.0%	100.0%
ボランティアや地域の団体といった、様々な者と交流したこと	第4回	度数	17	2	2	2	1	24
		割合	70.8%	8.3%	8.3%	8.3%	4.2%	99.9%
他県等教育委員会から派遣された企画指導専門職等と仕事をしたこと	第4回	度数	14	3	0	3	4	24
		割合	58.3%	12.5%	0.0%	12.5%	16.7%	100.0%
国立大学から派遣された職員や機構採用職員と仕事をしたこと	第4回	度数	15	5	1	2	1	24
		割合	62.5%	20.8%	4.2%	8.3%	4.2%	100.0%
青少年教育や体験活動に関する研修を受講したこと	第4回	度数	15	4	1	3	1	24
		割合	62.5%	16.7%	4.2%	12.5%	4.2%	100.1%

## 12 国立施設に勤務した3年間における派遣元の教育委員会との関係（第4回）

国立施設に勤務した3年間で、派遣元の教育委員会との関係を尋ねた結果は図 2-62、表 2-20 の通りである。

「国立施設に派遣された職員を対象にした研修会に参加した」と「国立施設に派遣された職員を対象にした会議・懇談会等に参加した」が45.8%、「あなたが教育委員会を訪問し、教育委員会職員と面談・面接を行った」が37.5%、「教育委員会が実施した現職の教員を対象にした研修会に参加した」と「教育委員会職員が国立施設を訪問し、あなたと面談・面接を行った」が25.0%となっている。

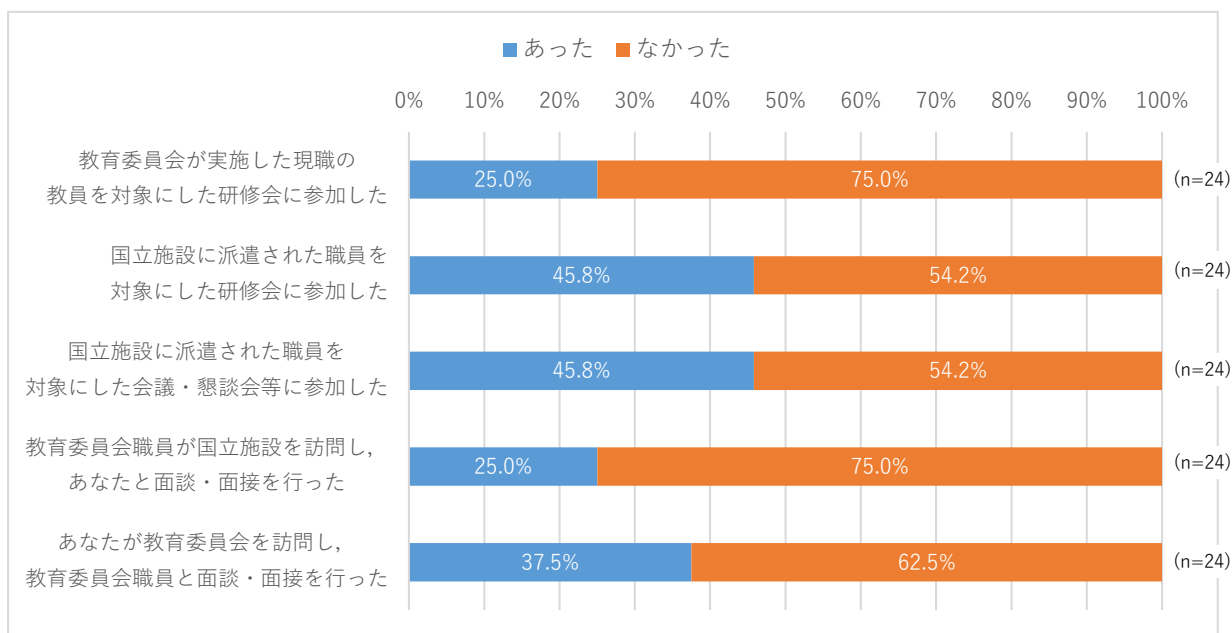


図 2-62 派遣期間中の派遣元教育委員会との関係

表 2-20 派遣期間中の派遣元教育委員会との関係

行ったこと	実施回	度数/割合	あった	なかった	合計
教育委員会が実施した現職の教員を対象にした研修会に参加した	第4回	度数	6	18	24
		割合	25.0%	75.0%	100.0%
国立施設に派遣された職員を対象にした研修会に参加した	第4回	度数	11	13	24
		割合	45.8%	54.2%	100.0%
国立施設に派遣された職員を対象にした会議・懇談会等に参加した	第4回	度数	11	13	24
		割合	45.8%	54.2%	100.0%
教育委員会職員が国立施設を訪問し、あなたと面談・面接を行った	第4回	度数	6	18	24
		割合	25.0%	75.0%	100.0%
あなたが教育委員会を訪問し、教育委員会職員と面談・面接を行った	第4回	度数	9	15	24
		割合	37.5%	62.5%	100.0%

### 13 教員が学校以外の機関等に派遣されることへの評価（第4回）

教員が学校以外の機関等に派遣されることへの評価について尋ねた結果は図 2-63、表 2-21 の通りである。

「重要」と回答した割合は 41.7%で、「どちらかという重要」は 37.5%、合計すると 79.2%となる。

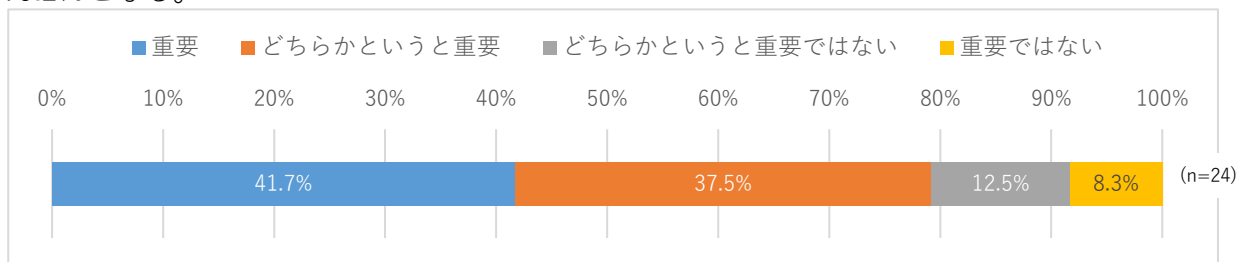


図 2-63 教員が学校以外の機関等に派遣されることへの評価

表 2-21 教員が学校以外の機関等に派遣されることへの評価

項目	第4回	
	度数	割合
重要	10	41.7%
どちらかという重要	9	37.5%
どちらかという重要ではない	3	12.5%
重要ではない	2	8.5%
合計	24	100.0%

### 14 国立施設派遣後に青少年教育へ関わる意欲（第4回）

国立施設に派遣された後、青少年教育に関係する職場や活動に、どの程度関わりたいかを尋ねた結果は図 2-64、表 2-22 の通りである。

「思う」または「どちらかという思う」と回答した割合は、「地域での青少年に関わるボランティア活動」が 70.8%、次いで「教育委員会や首長部局の社会教育・生涯学習・青少年育成に関する部署での勤務」と「公立青少年教育施設での勤務」が 62.5%となっている。

また、「思う」と回答した割合を見ると、「教育委員会や首長部局の社会教育・生涯学習・青少年育成に関する部署での勤務」が 41.7%、「公立青少年教育施設での勤務」が 37.5%、「地域での青少年に関わるボランティア活動」が 20.8%となっている。

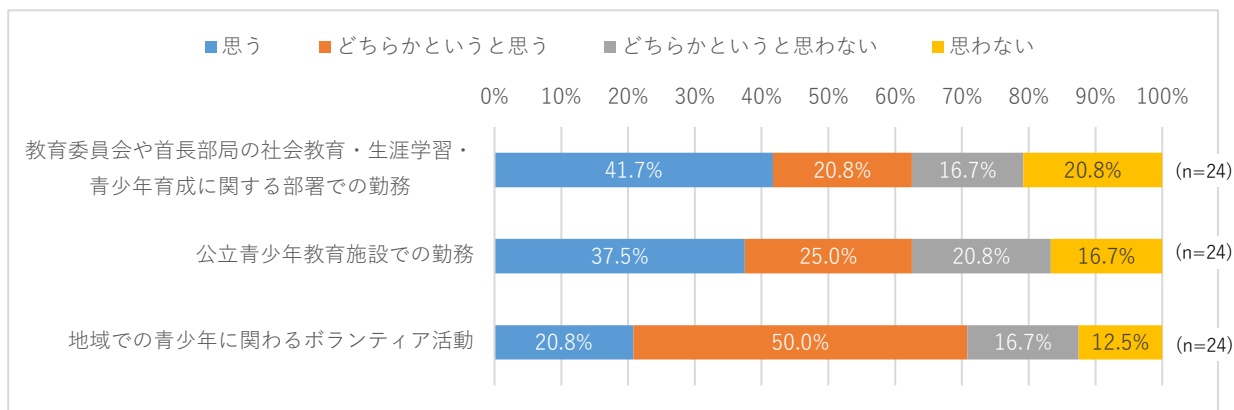


図 2-64 国立施設派遣後に青少年教育へ関わる意欲

表 2-22 国立施設派遣後に青少年教育へ関わる意欲

研修内容	度数	思う	どちらかという 思う	どちらかという 思わない	思わ ない	合計
	割合					
教育委員会や首長部局の社会教育・生涯学習・青少年育成に関する部署での勤務	度数	10	5	4	5	24
	割合	41.7%	20.8%	16.7%	20.8%	100.0%
公立青少年教育施設での勤務	度数	9	6	5	4	24
	割合	37.5%	25.0%	20.8%	16.7%	100.0%
地域での青少年に関わるボランティア活動	度数	5	12	4	3	24
	割合	20.8%	50.0%	16.7%	12.5%	100.0%

### 15 国立施設 3 年間の勤務についての総合的な満足度（第 4 回）

国立施設に勤務した 3 年間の満足度を尋ねた結果は図 2-65、表 2-23 の通りである。

「満足」と回答した割合は 33.3%で、「どちらかという満足」と回答した割合が 50.0%、合計すると 83.3%となる。

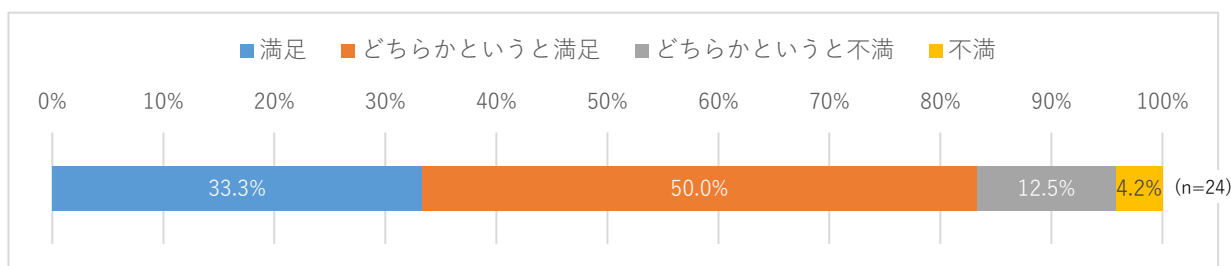


図 2-65 国立施設勤務の総合的な満足度

表 2-23 国立施設勤務の総合的な満足度

項目	第 4 回	
	度数	割合
満足	8	33.3%
どちらかという満足	12	50.0%
どちらかという不満	3	12.5%
不満	1	4.2%
合計	24	100.0%

### 16 国立施設に勤務したことによる、学校の集団宿泊活動に対する考えの変化（第 4 回）

国立施設に勤務したことにより、学校の集団宿泊活動に対する考えに変化があったかを尋ねたところ、以下の 10 件の回答があった。

- ①体験を提供するという点では、担任時代よりもその重要性を感じることができた。
- ②学校や教員が考える集団宿泊行事と機構が考える理想との齟齬。機構自身が非常に閉塞的で、予算が縮小される中、一層余裕を失い、目先の結果にとらわれているという事実。むしろ、(先進的な) 学校によっては、より柔軟に変容しようとしている実態があることを鑑みると、社会教育と学校教育が部分的には逆転しているようにも感じる。本来の社会教

育の使命や理想を実現できることを願っている。地方から、社会教育と連携して学校教育を実現することで、様々な特性やよさをもつ子どもたちがより自由に生き、民主的に生きている社会の担い手となるように、微力ながら努力していきたい。

③子供をどのように育てていくのか、学校教育のみではないということを強く意識することができた。もっと肩の力を抜いて教育活動に携わりたい。

④状況に応じた変化が必要である。

⑤宿泊学習の意義・実施方法、体験活動の重要性に気づき、今後実践したい。

⑥負担の大きい敬遠されがちなものであったが、子どもの力を伸ばす魅力ある行事である。

⑦個別の支援がなかなか難しいと感じました。

⑧集団宿泊体験は、これまでもこれからも児童生徒にとって貴重な体験の場であり、国公立青少年教育施設においては、施設利用については無償であってほしい。教育課程以外の活動については、日帰りも含めて有償でよいが、せめて義務教育における教育の機会は平等に保障してあげたい。申し込み書類について、改善を試みてはいるが、もっと申し込み手続きの煩雑さを軽減し教員の負担を軽減したい。国立施設は、貴重な自然体験・集団宿泊体験を安心・安全に提供するための職員研修を一層充実して、ナショナルセンターとしての役割を果たしていける施設であってほしい。

⑨施設提供側の苦労やサービスについて知ることができた。施設を使わせてもらって当たり前ではなく、感謝の気持ちを持ちながら利用することを子どもに伝えたい。

⑩体験活動をすることによっての様々な効果

### 第3章 クロス集計の結果～教員が学校以外の機関等に派遣されることについての評価との関係～

教員が学校以外の機関等に派遣されることについての評価と関係する事項を析出するために、関連が予想される事項とクロス集計を行った。

クロス集計を行うにあたって、元の「教員が学校以外の機関等に派遣されることへの評価について」の回答割合が、「重要」41.7%、「どちらかという重要」37.5%、「どちらかという重要ではない」12.5%、「重要ではない」8.5%となっていることを踏まえ、「重要」「どちらかという重要」「どちらかという重要ではない+重要ではない」の3群として集計した。なお、分析にあたっては、「重要」または「どちらかという重要」と回答した割合を「肯定感」とした。

#### 1 研修支援に関する業務

研修支援業務の1週間あたりの実施日数を「ない+1日」「2日～3日」「4日～5日」の3群として集計した。

##### (1) 来所または電話での利用者との事前相談

「肯定感」は、「2日～3日」が最も高く87.5%で、次いで「ない+1日」と「4日～5日」が75.0%となっている。

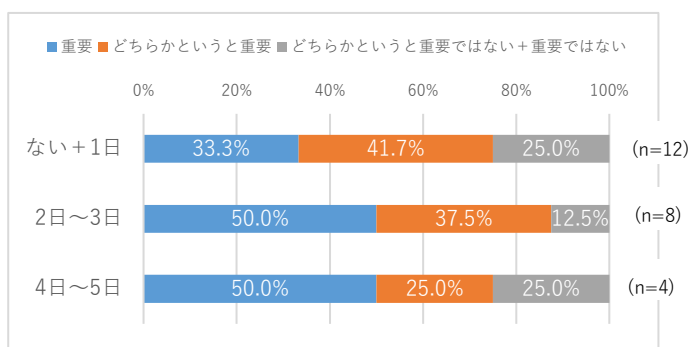


図 3-1 利用者との事前相談

##### (2) 窓口または電話での利用者への対応

「肯定感」は、「4日～5日」が最も高く90.0%で、次いで「ない+1日」が75.0%、「2日～3日」が66.7%となっている。

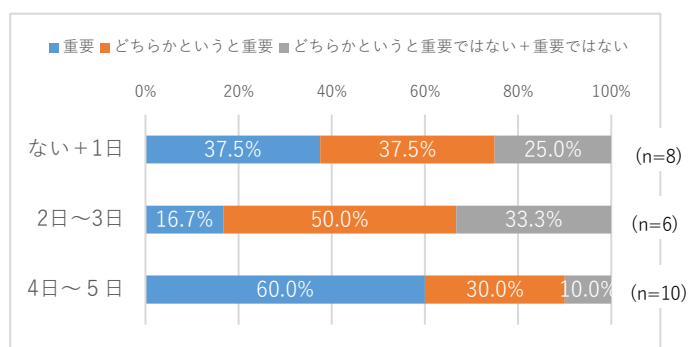


図 3-2 利用者への対応

### (3) 入所式またはオリエンテーションの指導

「肯定感」は、「2日～3日」が最も高く100.0%で、次いで「4日～5日」が66.6%、「ない+1日」が62.5%となっている。

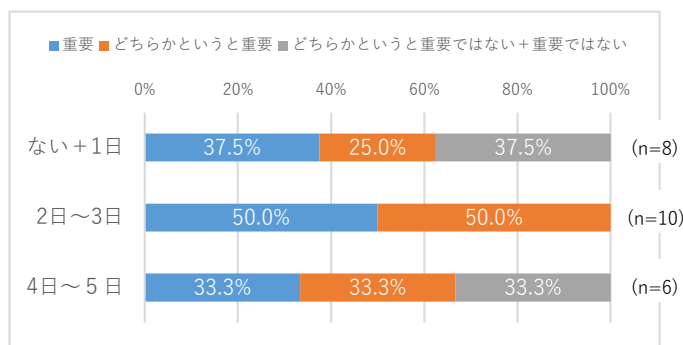


図 3-3 入所式またはオリエンテーションでの指導

### (4) 自然体験活動プログラムの直接指導

「肯定感」は、「4日～5日」が最も高く100.0%（ただし、回答者は2人）で、次いで、「2日～3日」が85.7%、「ない+1日」が73.3%となっている。

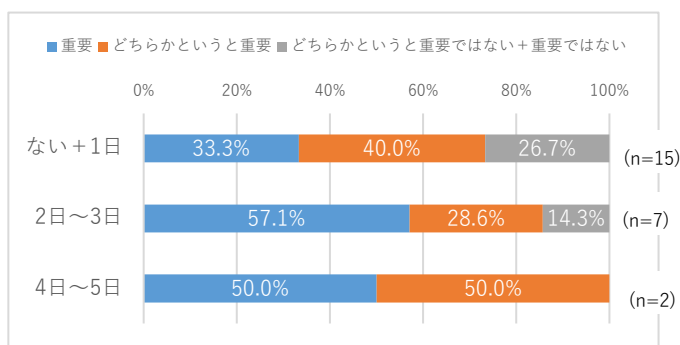


図 3-4 自然体験活動プログラムの直接指導

### (5) 自然体験活動プログラムの間接指導

「肯定感」は、「2日～3日」が最も高く100.0%で、次いで「4日～5日」が75.0%、「ない+1日」が66.6%となっている。

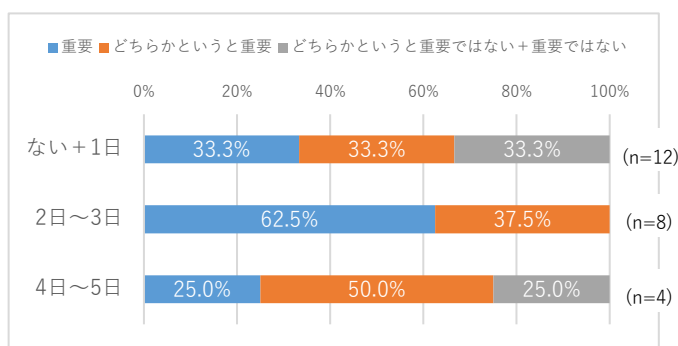


図 3-5 自然体験活動プログラムの間接指導

### (6) グループワークの直接指導

「肯定感」は、「4日～5日」が最も高く100.0%（ただし、回答者は1人）で、次いで「ない+1日」が78.3%となっている。

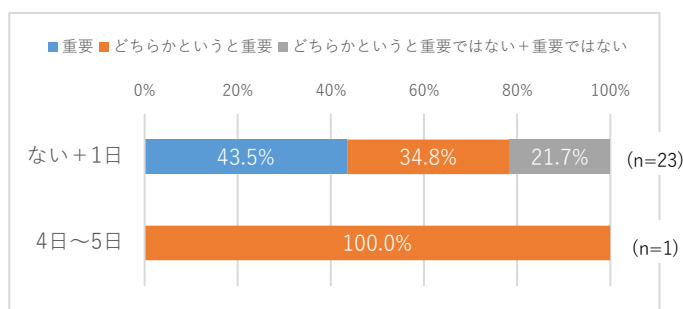


図 3-6 グループワークの直接指導

## 2 教育事業に関する業務

### (1) 宿泊を伴う教育事業の主担当数との関係

宿泊を伴う教育事業の主担当数を「ない+1事業」「2～3事業」「4事業以上」の3群として集計した。

「肯定感」は、「2～3事業」が最も高く100.0%で、次いで「ない+1事業」が75.0%、「4事業以上」が66.7%となっている。

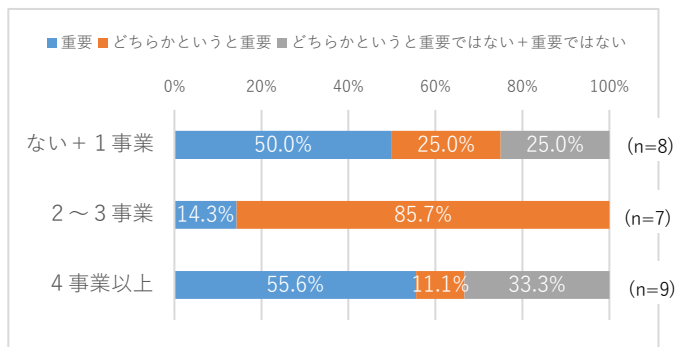


図 3-7 宿泊を伴う教育事業の担当数

### (2) 担当した教育事業の対象との関係

#### 1) 教員として勤務した学校種以外の青少年を対象にした事業

「肯定感」は、「あった」が85.7%で、「なかった」が75.0%となっている。

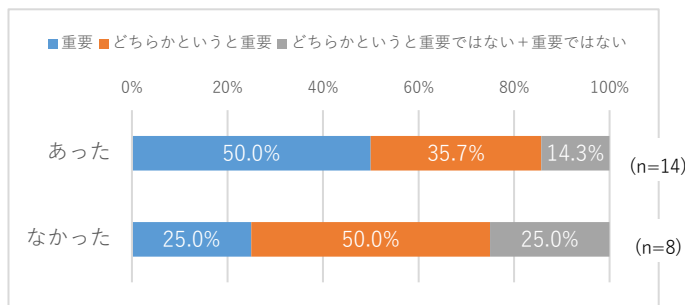


図 3-8 教員として勤務した学校種以外の青少年を対象

#### 2) 親子・家族等を対象にした事業

「肯定感」は、「なかった」が88.9%で、「あった」が77.0%となっている。

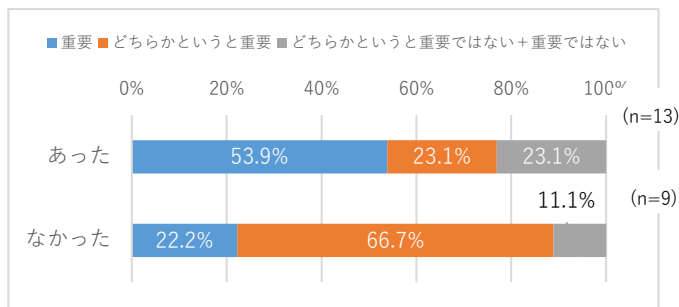


図 3-9 親子・家族等を対象

#### 3) 困難を抱える青少年を対象にした事業（困難とは、障がい、貧困、不登校、引きこもり、ネット依存等）

「肯定感」は、「なかった」が87.5%で、「あった」が78.6%となっている。

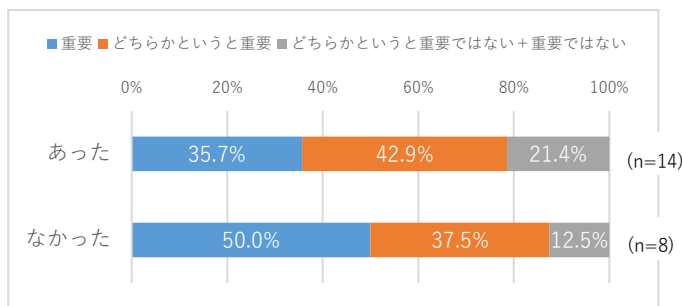


図 3-10 困難を抱える青少年を対象

#### 4) 指導者を対象にした研修

「肯定感」は、「あった」が87.5%で、「なかった」が12.5%となっている。

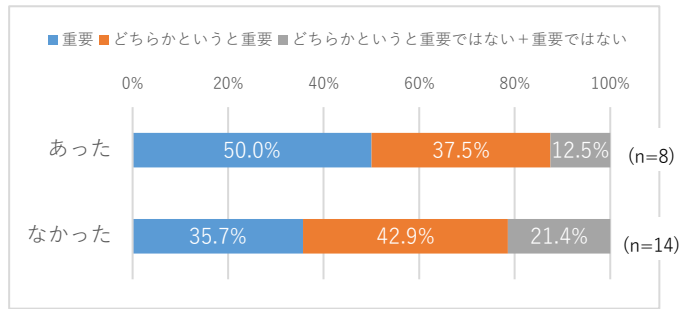


図 3-11 指導者を対象

### 3 仕事を進める上での協議

仕事を進める上で、協議を行ったかについて「行った」「どちらかというに行った」「どちらかというに行わなかった+行わなかった」の3群として集計した。

#### (1) 協議の対象

##### 1) 所長との協議

「肯定感」は、「行った」が最も高く91.7%で、次いで「どちらかというに行わなかった+行わなかった」が80.0%、「どちらかというに行った」が57.2%となっている。

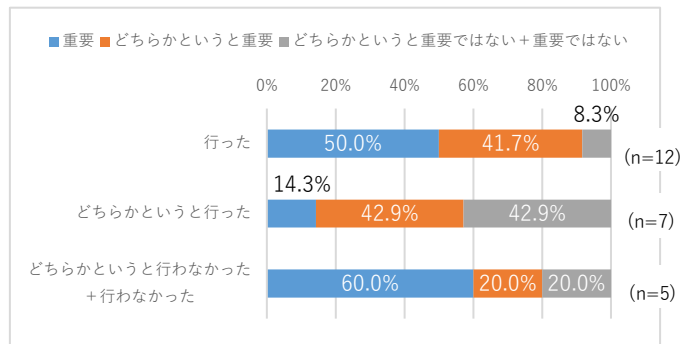


図 3-12 所長との協議

##### 2) 次長との協議

「肯定感」は、「行った」が最も高く87.6%で、次いで「どちらかというに行わなかった+行わなかった」が66.6%、「どちらかというに行った」が60.0%となっている。

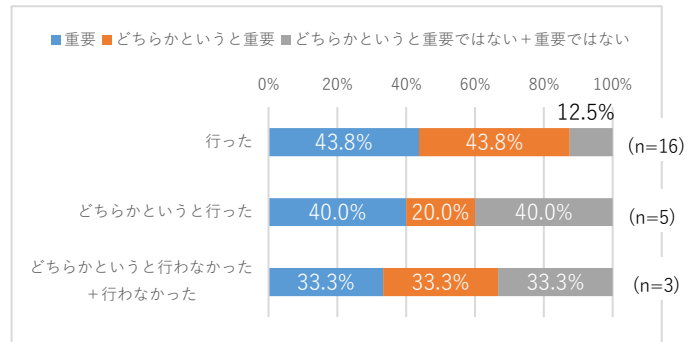


図 3-13 次長との協議

##### 3) 他の専門職等との協議

「肯定感」は、「行った」が最も高く85.8%で、次いで「どちらかというに行わなかった+行わなかった」が50.0%となっている。

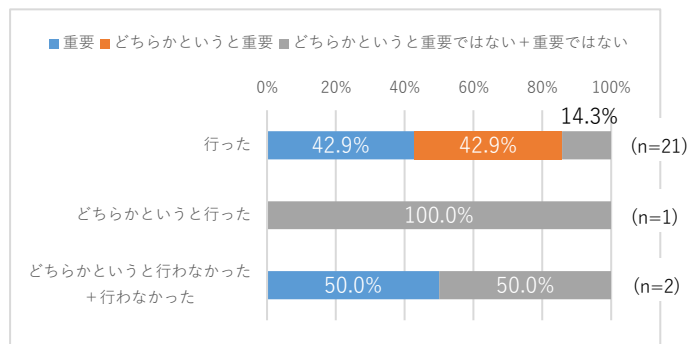


図 3-14 他の専門職等との協議

#### 4) 専門職等以外の職員との協議

「肯定感」は、「行った」が最も高く100.0%で、次いで「どちらかというに行わなかった+行わなかった」が50.0%、「どちらかというに行った」が33.3%となっている。

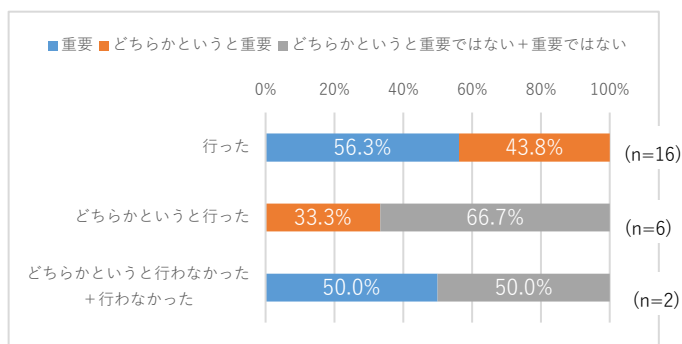


図 3-15 専門職等以外の職員との協議

#### 5) 関係機関または地域の団体等との協議

「肯定感」は、「行った」が最も高く100.0%で、次いで「どちらかというに行った」が66.6%「どちらかというに行わなかった+行わなかった」が50.0%，となっている。

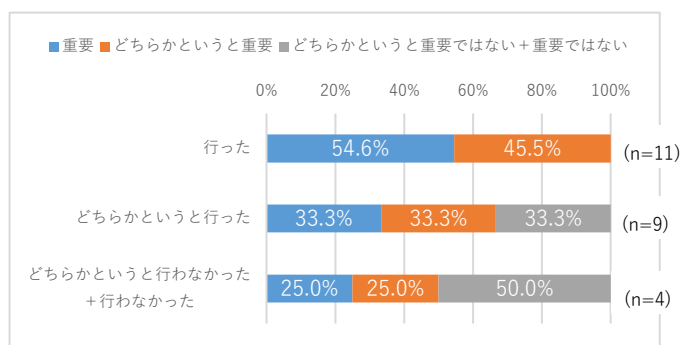


図 3-16 関係機関または地域の団体等との協議

### (2) 所長または次長との協議の内容

所長または次長とどのような協議を行ったかについて「行った」「どちらかというに行った」「どちらかというに行わなかった+行わなかった」の3群として集計した。

#### 1) 教育事業の企画の段階で、事業の内容・指導方法・運営に関すること

「肯定感」は、「どちらかというに行った」が85.8%で、次いで「どちらかというに行わなかった+行わなかった」が80.0%、「どちらかというに行った」が75.0%となっている。

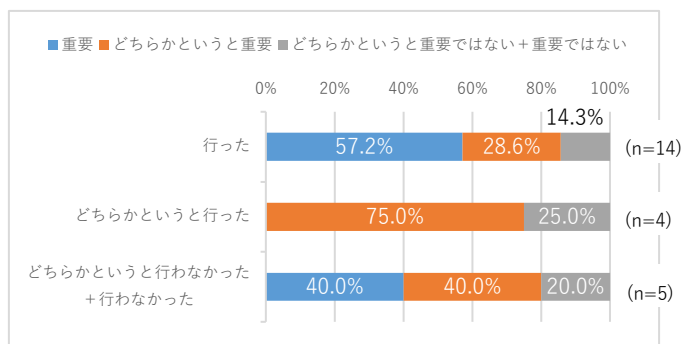


図 3-17 教育事業の企画・運営

## 2) 教育事業の後で、事業の評価に関すること

「肯定感」は、「行った」が100.0%で、次いで「どちらかというに行った」が87.5%、「どちらかというに行わなかった+行わなかった」が53.5%となっている。

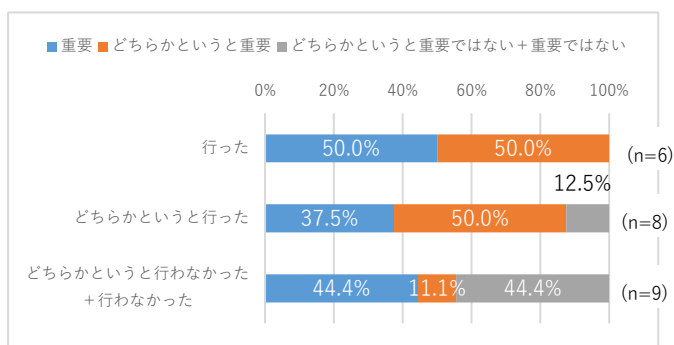


図 3-18 教育事業の評価

## 3) 年度当初に、あなたの業務の見通し・目標設定に関すること

「肯定感」は、「行った」が100.0%で、次いで「どちらかというに行った」が87.5%、「どちらかというに行わなかった+行わなかった」が55.5%となっている。

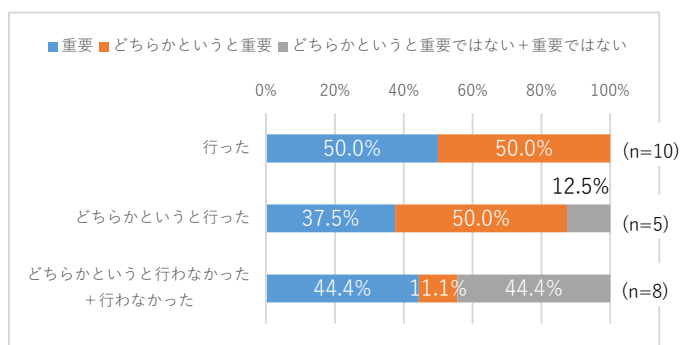


図 3-19 業務の見通し・目標設定

## 4) 年度途中にあなたが設定した年度当初の業務の見通し・目標の評価・修正に関すること

「肯定感」は、「行った」と「どちらかというに行った」が87.5%で、「どちらかというに行わなかった+行わなかった」が57.2%となっている。

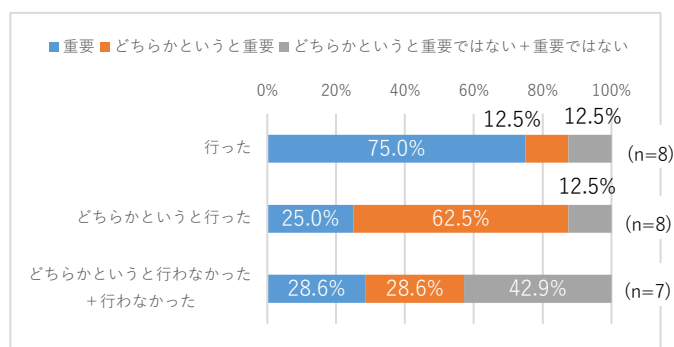


図 3-20 業務の見通し・目標の年度途中評価

## (5) 仕事に取り組むあなたの姿勢・意欲に関すること

「肯定感」は、「行った」と「どちらかというに行った」が100.0%で、「どちらかというに行わなかった+行わなかった」が61.6%となっている。

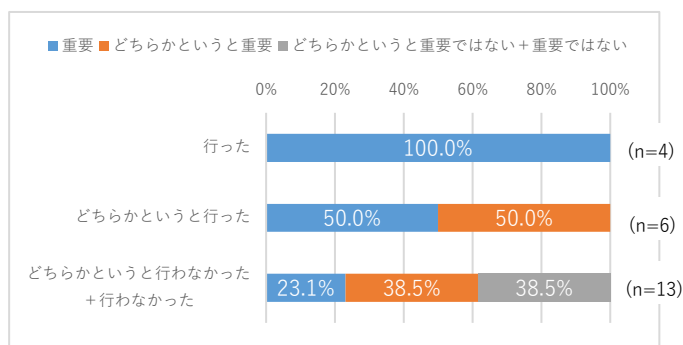


図 3-21 仕事に取り組む姿勢・意欲

### (6) 仕事をする上で必要なあなたの資質・能力に関すること

「肯定感」は、「行った」が100.0%で、次いで「どちらかというに行った」が87.5%、「どちらかというに行わなかった+行わなかった」が66.6%となっている。

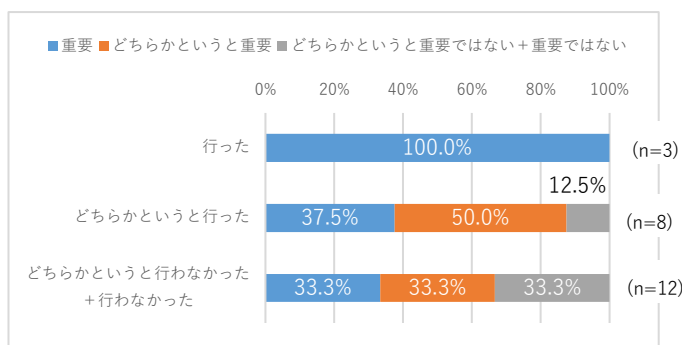


図 3-22 仕事に必要な資質・能力

### (7) 行政文書の作成や原議書の決裁などの行政的な仕事の仕方に関すること

「肯定感」は、「行った」が100.0%で、次いで「どちらかというに行った」が80.0%、「どちらかというに行わなかった+行わなかった」が75.0%となっている。

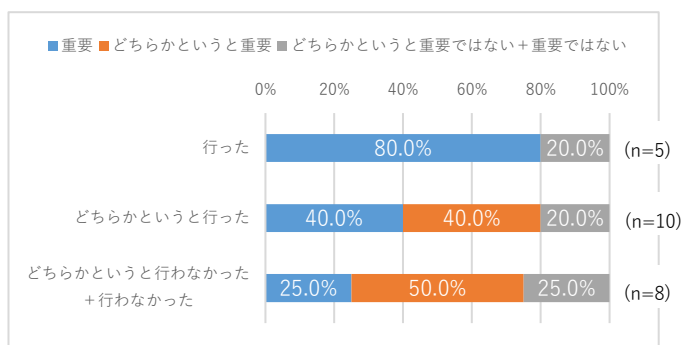


図 3-23 行政的な仕事の仕方

### (8) 事業方針などの施設全体の事業運営に関すること

「肯定感」は、「行った」が90.0%で、次いで「どちらかというに行った」が85.8%、「どちらかというに行わなかった+行わなかった」が40.0%となっている。

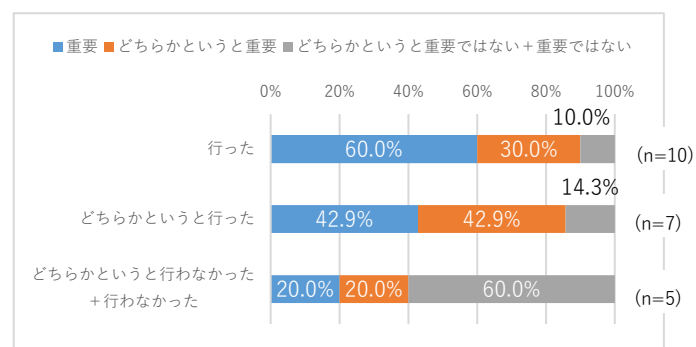


図 3-24 施設全体の事業運営

### (9) 職員の働き方や職場の雰囲気に関すること

「肯定感」は、「行った」が100.0%で、次いで「どちらかというに行わなかった+行わなかった」が75.0%、「どちらかというに行った」が66.6%となっている。

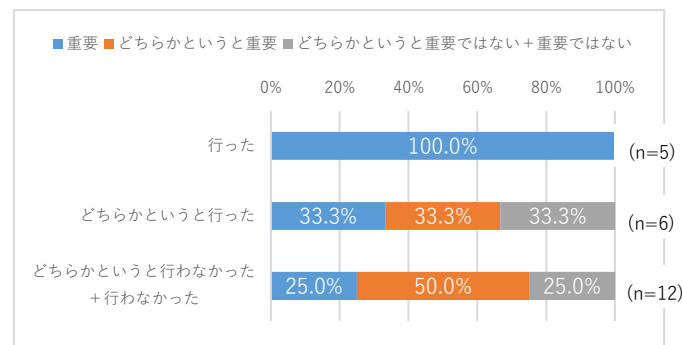


図 3-25 職員の働き方・職場の雰囲気

#### 4 国立施設での勤務における教員のときの経験等の活用

国立施設での勤務に教員の時の経験や学校教育の知識・技能が活かされていると思うかについて「思う」「どちらかというと思う」「どちらかというと思わない+思わない」の3群として集計した。

「肯定感」は、「思う」が最も高く90.0%で、次いで「どちらかというと思う」が77.8%、「どちらかというと思わない+思わない」が60.0%となっている。

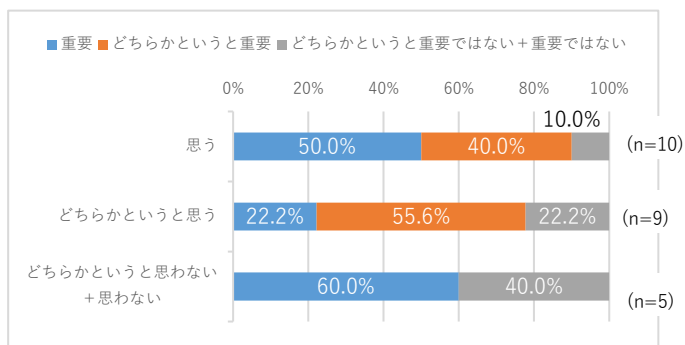


図 3-26 教員経験や学校教育の知識・技能の活用

#### 5 国立施設での勤務経験の学校での活用

国立施設での勤務は学校で活かされると思うかについて「思う」「どちらかというと思う」「どちらかというと思わない+思わない」の3群として集計した。

「肯定感」は、「思う」が最も高く100.0%で、次いで「どちらかというと思う」が81.9%、「どちらかというと思わない+思わない」が25.0%となっている。

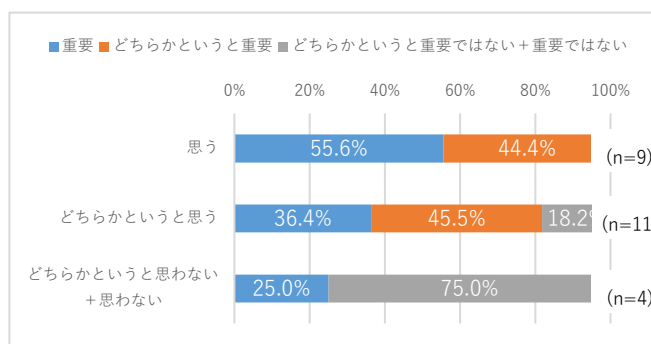


図 3-27 国立施設経験の活用

#### 6 社会教育主事の任用資格

##### (1) 社会教育主事の任用資格の有無

令和3年度に実施した1回目の調査で社会教育主事の任用資格の取得の有無を調査し、令和3年度2回目・令和4年度3回目・令和5年度4回目の調査で社会教育主事講習の受講の有無

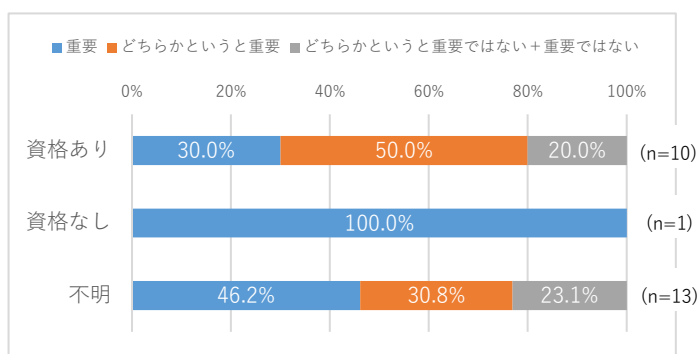


図 3-37 社会教育主事任用資格

を調査している。よって、社会教育主事任用資格の有無を「資格有り」<sup>3</sup>「資格なし」<sup>4</sup>「不明」<sup>5</sup>の3群として集計した。

「肯定感」は、「資格あり」が80.0%となっており、「資格なし」は100.0%であるが該当者は1人であった。

## (2) 国立施設勤務中における社会教育主事講習受講の有無

令和3年度2回目、令和4年度3回目、令和5年度4回目のいずれかの調査で社会教育主事講習の受講について「受けた」「受けなかった」<sup>6</sup>「不明」<sup>7</sup>の3群として集計した。

「肯定感」は、「受けた」が100.0%で、「受けなかった」が66.6%となっている。

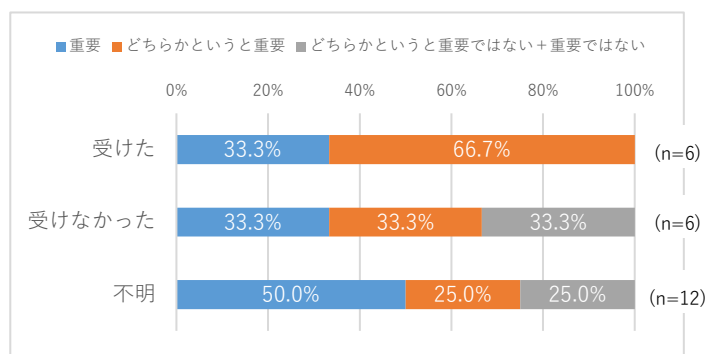


図 3-38 社会教育主事講習

## 7 教職員研修機構が主催する研修の受講

令和3年度2回目、令和4年度3回目、令和5年度4回目のいずれかの調査で教職員研修機構が主催する研修の受講について「受けた」<sup>8</sup>「受けなかった」<sup>9</sup>「不明」<sup>10</sup>の3群として集計した。

「肯定感」は、「受けた」が85.0%となっている。

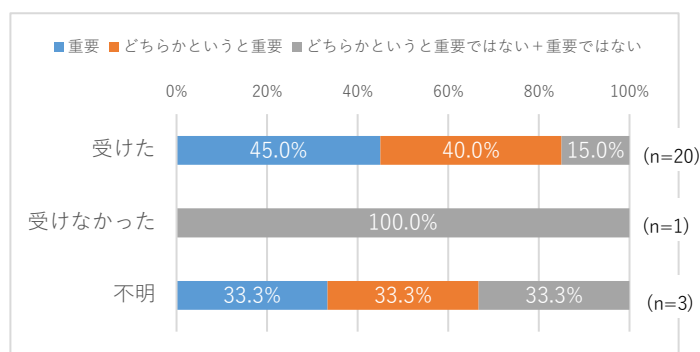


図 3-39 教職員支援機構が主催する研修

<sup>3</sup> 1回目の調査で社会教育主事の任用資格を取得していると回答した者及び2回目・3回目・4回目のいずれかで社会教育主事講習を受講したと回答した者。

<sup>4</sup> 1回目の調査で社会教育主事の任用資格を取得していないと回答した者及び2回目・3回目・4回目のいずれも社会教育主事講習を受講していないと回答した者。

<sup>5</sup> 1回目・2回目・3回目・4回目のいずれかで回答していないので、判別がつかない回答者。

<sup>6</sup> 国立施設に着任する前に社会教育主事任用資格を取得していたので、受講する必要がなかった者が含まれる。

<sup>7</sup> 1回目・2回目・3回目・4回目のいずれかで回答していないので、判別がつかない回答者。

<sup>8</sup> 2回目・3回目・4回目のいずれかで受講したと回答した者。

<sup>9</sup> 2回目・3回目・4回目のいずれも受講していないと回答した者。

<sup>10</sup> 2回目・3回目・4回目のいずれかで回答していないので、判別がつかない者。

## 8 国立施設派遣後に青少年教育へ関わる意欲

国立施設派遣後の勤務や活動において青少年教育と関わる意欲について「思う+どちらかというと思う」「どちらかというと思わない+思わない」の2群として集計した。

### (1) 教育委員会や首長部局の社会教育・生涯学習・青少年育成に関する部署での勤務

「肯定感」は、「思う+どちらかというと思う」が93.4%で、「どちらかというと思わない+思わない」が55.5%となっている。

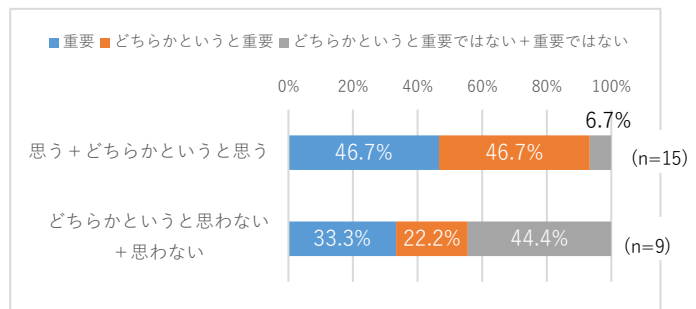


図 3-28 社会教育・生涯学習・青少年育成に関する行政での勤務

### (2) 公立青少年教育施設での勤務

「肯定感」は、「思う+どちらかというと思う」が100.0%で、「どちらかというと思わない+思わない」が44.4%となっている。

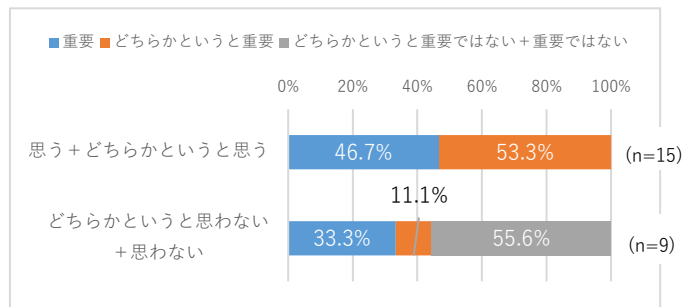


図 3-29 公立青少年教育施設での勤務

### (3) 地域での青少年に関わるボランティア活動

「肯定感」は、「思う+どちらかというと思う」が82.4%で、「どちらかというと思わない+思わない」が71.5%となっている。

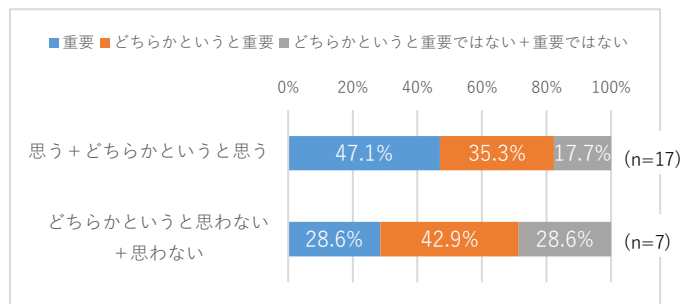


図 3-30 地域での青少年に関わるボランティア活動

## 9 国立施設勤務中における派遣元の教育委員会との関係

### (1) 教育委員会が実施した現職の教員を対象にした研修会に参加した

「肯定感」は、「あった」が83.4%で、「なかった」が77.7%となっている。

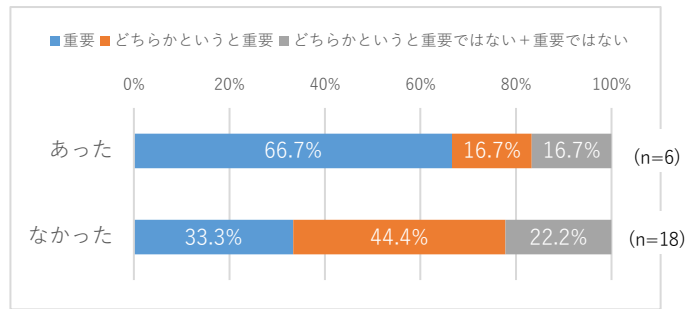


図 3-32 教育委員会が実施した教員を対象にした研修

### (2) 国立施設に派遣された職員を対象にした研修会に参加した

「肯定感」は、「あった」が100.0%で、「なかった」が61.6%となっている。

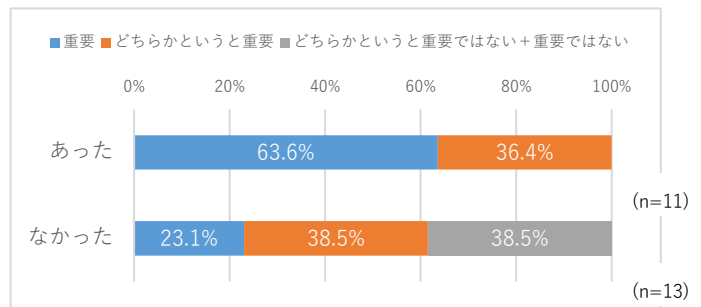


図 3-33 国立施設に派遣された職員を対象にした研修

### (3) 国立施設に派遣された職員を対象にした会議・懇談会等に参加した

「肯定感」は、「あった」が91.0%で、「なかった」が69.3%となっている。

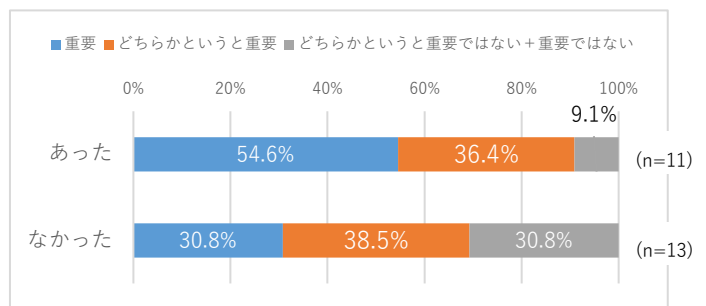


図 3-34 国立施設に派遣された職員を対象にした会議・懇談会

### (4) 教育委員会の職員が国立施設を訪問し、あなたと面談・面接を行った

「肯定感」は、「あった」が100.0%で、「なかった」が72.2%となっている。

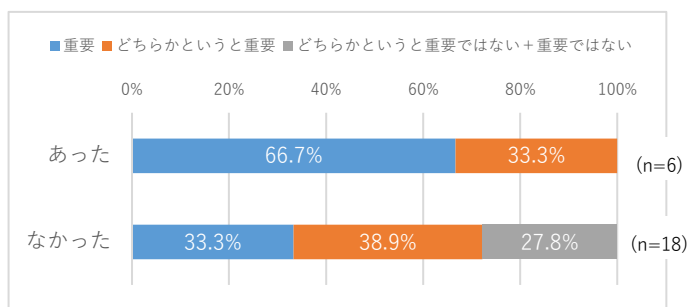


図 3-35 教育委員会職員が国立施設を訪問して面談・面接

### (5) あなたが教育委員会を訪問し、教育委員会職員と面談・面接を行った

「肯定感」は、「なかった」が87.1%で、「あった」が66.6%となっている。

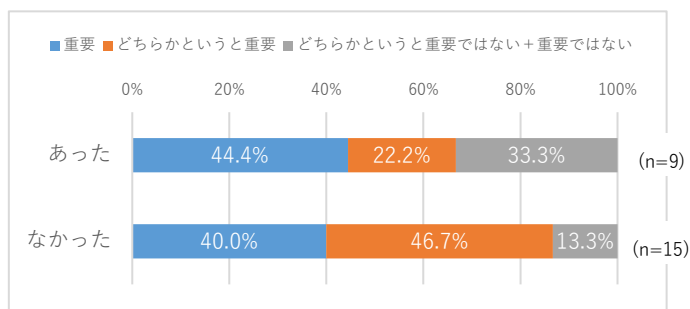


図 3-36 教育委員会を訪問して教育委員会職員と面談・面接

## 10 国立施設3年間の勤務についての総合的な満足度

国立施設に勤務した3年間の総合的な満足度について「満足」「どちらかという満足」「どちらかという不満+不満」の3群として集計した。

「肯定感」は、「満足」が100.0%で、「どちらかという満足」が83.3%、「どちらかという不満+不満」が25.0%となっている。

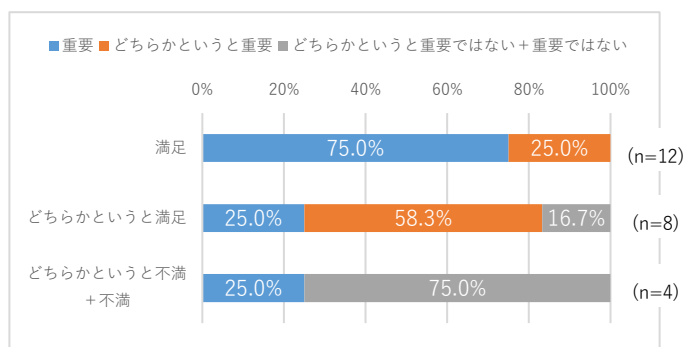


図 3-31 国立施設勤務3年間の満足度

## 第4章 調査結果のまとめ

### 1 調査結果の概要

#### (1) 研修支援業務の実施状況

国立施設に勤務して約1年後に実施した第2回（令和4年（2022年）3月）及び約2年後となる第3回（令和5年（2023年）3月）は、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、研修支援事業（受入）及び教育事業の運営に支障をきたした状況下で実施された。よって、令和5年（2023年）4月から令和6年（2024年）3月までの勤務を対象にした第4回（令和6年（2024年）3月）の調査結果の方が、平時に近い状況を表していると考えられる。

各研修支援業務を「1日以上」実施した割合を見ると、「新型コロナウイルス感染防止のための消毒作業」を除き第3回調査が最も高くなっている。

「指導」に関する業務を行った（1日以上）割合の第4回の調査結果は、「入所式またはオリエンテーションの指導」が91.7%と最も高く、「自然体験活動の間接指導」が83.3%、「自然体験活動の直接指導」が75.0%、「グループワークの直接指導」が33.4%となっており、専門職等が児童・生徒等に体験活動を指導する機会が、他の指導業務よりも低くなっている。なお、「グループワークの直接指導」の割合が、他の指導業務と比べると低い傾向が見られるのは、同指導に該当する活動（プログラム）を提供している国立施設が多くないことも影響していると考えられる。

全業務について「ない」と回答した者が各調査回とも一定数いる。

#### (2) 教育事業に関する業務の実施状況

宿泊を伴う教育事業の担当を「1事業以上」経験した割合を見ると第3回が最も高く、「4事業以上」の場合についても同様となっている。

宿泊を伴う教育事業の担当にならなかったと回答した者が各回とも一定数いる結果となっている。しかしながら、調査を実施した各年度の実施状況を尋ねているので、国立施設3年間を通じた実施状況は分からない。

第4回で担当となる事業数が減っているのは、勤務して3年目となる年度は「主任企画指導専門職」になる傾向にあることも影響していると考えられる。また、「指導者を対象にした研修事業」の担当を担ったと回答した割合が、他の対象と比べて低いのは、同事業の実施数自体が他の対象の事業数よりも少ないことが影響していると考えられる。

#### (3) 仕事を進める上での協議の実施状況

いずれの協議の相手についても、協議を「行った」または「どちらかというに行った」（以下、「行った」）と回答した割合は各回とも8割を超えており職員間のコミュニケーションが概ね図られていると考えられる。しかしながら、「行った」と回答した割合は第2回よりも第3回や第4回の方が低くなっており、勤務年数が長くなるにつれてコミュニケーションが少なくなる傾向が見られる。また、「行わなかった」または「どちらかというに行わなかった」（以下、「行わなかった」）と回答した割合が、各回とも一定程度見られる。

協議の内容を見ると、「教育事業の企画の段階で、事業の内容・指導方法・運営に関すること」は「行った」と回答した割合は高いものの、「教育事業の後で、事業の評価に関すること」は低くなっている。また、派遣専門職個々の業務や資質能力については、「行わなかった」と回答した割合が3割程度見られる。

協議を希望する内容としては、「機構及び所の方針」「所としての教育ビジョン」「業務改善」「系の横断的連携の仕方」といった「経営」に関することや「事業を通して、参加者にどのような資質・能力が身につくか」「学校が求めていることは何か」といった「教育活動」に関する事など、多岐にわたっている。

#### (4) 研修の受講状況

##### 1) 国立施設または機構が実施した研修

各研修とも「施設で受けた」と回答した割合が高くなっている。また、「施設と外部で受けた」または「施設で受けた」または「外部で受けた」と回答した割合は、第2回が最も高く、第3回、第4回と年度ごとに下がる傾向が見られ、「野外炊事」や「登山またはハイキング」といった活動（アクティビティ）の場合が顕著となっている。

「外部で受けた」と回答した割合が高い研修は、「ファシリテーション」（各回）、「コーディネート」（各回）、「青少年機構」（第2回）となっている。

「登山またはハイキング」や「水辺活動」といった活動に関する研修を受講した割合は勤務している国立施設が当該活動を提供しているかで左右されると考えられるが、施設に関係なくどの専門職等にも求められるであろう「利用者への対応（ビジネスマナー）」や「教育事業の企画の立て方」といった基本的な知識・技能、あるいは「ファシリテーション」や「インタープリテーション」「カウンセリング」といった専門的な知識・技能に関する研修であっても、受講した割合は高いとは言えない。

第3回で実施した「オンデマンド研修」または「ライブ配信研修」で受講した研修の割合は低く、受講した場合であっても1割程度となっている。

##### 2) 国立施設または機構以外の機関等が実施した研修

「独立行政法人教職員研修支援機構」が主催した教職員を対象にした研修を受講した割合は6割～7割程度となっている。第2回、第3回、第4回を横断的に見ると、「毎年度受講した者」「1回または2回受講した者」「1回受講した者」「受講しなかった者」がいることが分かった。なお、4回の調査全てに回答した10人については「3回（毎年度）」が2人、「2回」が7人、「受講しなかった」が1人となっている。

「社会教育主事講習」を受講した割合は、第3回が3割程度で、第4回が2割程度となっている。社会教育主事講習については、国立施設に派遣された時点で社会教育主事の任用資格を取得している者は受講しないし、派遣されてから1年目または2年目に受講した者は以降受講しないことが受講した割合に影響していると考えられる。なお、4回の調査全てに回答した10人については「国立施設派遣前に受講」が3人、「国立施設在職中に受講」が6人、「国立施設在職中に受講しなかった」が1人となっている。

#### **(5) 国立施設での勤務における満足度**

「満足」または「どちらかという満足」（以下、「満足度」）と回答した割合は、多くの項目において各回とも7割以上で、総括的な項目である「全体の満足度」は約8割程度となっている。

「満足度」が低い傾向が見られる項目は、「給料」が概ね4割～5割程度、「勤務形態（勤務時間や休日、宿直等）」が概ね6割程度となっており、勤務条件に関する項目に低い傾向が見られる。更に低い項目が「機構全体の方針」で第3回が5割程度、第4回が3割となっている。

各項目の「満足度」の各回を比較すると、第2回が最も高い場合もあれば、第3回や第4回の場合もあり、勤務年数の長さが満足度に影響を与えているとは考えられない。

#### **(6) 国立施設での勤務における教員のときの経験等の活用**

国立施設での勤務に教員のときの経験等が活用できていると「思う」または「どちらかというと思う」と回答した割合は、第2回が最も高く9割で、学校を離れた年数が長くなった第3回が7割、第4回が8割と低くなっている。特に、「思う」と回答した割合は、年度を追うごとに低くなっている。

#### **(7) 国立施設での勤務経験の学校での活用**

国立施設での勤務経験が学校で活用できると「思う」または「どちらかというと思う」と回答した割合は、第2回が最も高く9割で、国立施設での勤務年数が長くなった第3回と第4回が8割と低くなっている。

#### **(8) 国立施設に勤務することへの意欲の変化**

第3回では「変わらない」と回答した割合が最も高かったが、第4回では「高くなった」が最も高かった。また、各回とも「低くなった」と回答した者がいる。

意欲が高くなった要因としては「教育事業の活動中や終了時、参加者の姿が変容（成長）したため」といった仕事の手応えや、「見通しをもって仕事ができるようになった」といった仕事に慣れたこと等が挙げられている。

一方、意欲が低くなった要因としては「事務連絡会のみで企画や運営方針について合意形成の場がない」や「組織としての体制をしっかりと整える必要性を感じる」といった経営に関することが挙げられている。

#### **(9) 資質・能力の習得**

「とてできる」または「できる」または「ややできる」と回答した割合（以下、「習得度」）は、全34項目のうち、「予算管理ができる」を除いた項目は、各回とも概ね7割以上となっている。

「とてもできる」と「できる」と「ややできる」と回答した割合を比較すると、「とてもできる」が各項目・各回とも3つの選択肢の中で最も低いが、「できる」と「ややできる」については、項目や回によって異なっている。

各項目で「習得度」が最も高い回は、第1回の場合もあれば、第2回や第3回の場合もあり、必ずしも勤務年数が長くなるほど習得度が高まっているわけではない。

#### **(10) 見方・考え方の意識**

「とても意識している」または「意識している」または「やや意識している」と回答した割合（以下、「意識度」）は、全13項目が各回とも概ね7割以上となっている。

「とても意識している」と「意識している」と「やや意識している」と回答した割合を比較すると、項目や回によって高い割合の回答は異なっている。

各項目で「意識度」が最も高い回は、第1回の場合もあれば、第2回や第3回の場合もある一方で、全項目とも第4回が最も低くなっており、必ずしも勤務年数が長くなるほど意識度が高まっているわけではない。

#### **(11) 国立施設での業務等に対する学校での有用度**

国立施設での業務等が学校で役立つと「思う」または「どちらかというと思う」と回答した割合は、全12項目が7割以上となっている。また、「思う」と回答した割合と「どちらかというと思う」と回答した割合を比較すると、全項目「思う」と回答した割合の方が高い。

#### **(12) 国立施設勤務中における派遣元の教育委員会との関係（第4回）**

「国立施設に派遣された職員を対象にした研修会に参加した」と「国立施設に派遣された職員を対象にした会議・懇談会等に参加した」が5割弱となっているものの、他の3項目は4割以下となっている。

全項目に「あった」と回答した割合は12.5%（3人）で、「なかった」と回答した割合は33.3%（8人）となっている。

#### **(13) 教員が学校以外の機関等に派遣されることへの評価（第4回）**

教員が学校以外の機関等に派遣されることについて「重要」または「どちらかという重要」と回答した割合は8割程度となっている。また、「重要」と回答した割合が、「どちらかという重要」と回答した割合よりも高い。

#### **(14) 国立施設勤務後に青少年教育へ関わる意欲（第4回）**

国立施設勤務後に青少年教育に関わりたいと「思う」または「どちらかというと思う」と回答した割合は、全3項目が6割以上となっている。

また、「教育委員会や首長部局の社会教育・生涯学習・青少年育成に関する部署での勤務」と「公立青少年教育施設での勤務」については、関わりたいと「思う」と回答した割合が「どちらかというと思う」と回答した割合よりも高くなっている。

#### (15) 国立施設3年間の勤務についての総合的な満足度（第4回）

国立施設3年間の勤務について「満足」または「どちらかという満足」と回答した割合は8割を超えている。ただし、「満足」と回答した割合よりも「どちらかという満足」と回答した割合の方が高い。

#### (16) 国立施設に勤務したことによる学校の集団宿泊活動に対する考え方の変化（第4回）

「宿泊学習の意義・実施方法、体験活動の重要性に気づき、今後実践したい」といった教育的意義・効果に関する意見や「施設提供側の苦労やサービスについて知ることができた」といった施設側の運営に関する気づきなどの肯定的な意見があった。一方、「学校や教員が考える集団宿泊行事と機構が考える理想との齟齬。機構自身が非常に閉塞的で予算が縮小される中、一層余裕を失い、目先の結果にとらわれている事実」といった国立施設の問題を指摘する意見もあった。

#### (17) 「教員が学校以外の機関等に派遣されることへの評価」とのクロス集計

教員が学校以外の機関等に派遣されることについて「重要」または「どちらかという重要」と回答した割合を以下「肯定感」とする。

##### 1) 研修支援業務の実施状況との関係

研修支援業務の実施日数が「4日～5日」で「肯定感」が高くなる業務もあれば「2日～3日」で最も高くなる業務もあるので、「肯定感」と研修支援業務の実施日数とに明確な関連は見られなかった。

##### 2) 教育事業に関する業務の実施状況との関係

「宿泊を伴う教育事業の主担当数」ごとの「肯定感」は、担当事業が「2～3事業」で最も高く、次いで「ない+1事業」、「4事業以上」となっていることから、「肯定感」と宿泊を伴う教育事業の主担当数とに明確な関連は見られなかった。

「宿泊を伴う教育事業の主担当となった対象」ごとに見ると「青少年」と「指導者」では、主担当を経験した方が「肯定感」が高い傾向が見られた。

##### 3) 仕事を進める上での協議の実施状況との関係

「仕事を進める上での協議の実施対象」ごとの「肯定感」は、いずれの対象においても協議を「行った」場合が最も高くなっている。しかしながら、「どちらかという行った」場合と「どちらかという行わなかった+行わなかった」場合では、協議の対象によってどちらかが「肯定感」が高いかが異なっている。

一方、「仕事を進める上での協議の実施内容」ごとの「肯定感」は、いずれの内容においても「行った」と回答した場合に最も高く、次いで「どちらかという行った」、「どちらかという行わなかった+行わなかった」の順となっている。以上のことから、仕事を進める

上での協議，換言すればコミュニケーションを図る機会があるほど「肯定感」が高くなる傾向が見られる。

#### **4) 国立施設での勤務における教員の時の経験等の活用との関係**

国立施設での勤務に教員の時の経験等が活用できていると「思う」と回答した場合に「肯定感」が最も高く，次いで「どちらかというと思う」，「どちらかというと思わない+思わない」の順となっていることから，国立施設での勤務に教員の時の経験等が活用できていると思うほど，「肯定感」が高くなる傾向が見られる。

#### **5) 国立施設での勤務経験の学校での活用との関係**

国立施設での勤務経験が学校で活用できると「思う」と回答した場合に「肯定感」が最も高く，次いで「どちらかというと思う」，「どちらかというと思わない+思わない」の順となっていることから，国立施設での勤務が学校で活用できると思うほど，「肯定感」が高くなる傾向が見られる。

#### **6) 社会教育主事の任用資格との関係**

社会教育主事の任用資格を取得している方が，「肯定感」が高くなる傾向が見られる。

#### **7) 教職員研修支援機構が主催する研修との関係**

教職員研修支援機構が主催する研修を受講した方が，「肯定感」が高くなる傾向が見られる。

#### **8) 国立施設派遣後に青少年教育へ関わる意欲**

いずれの項目でも，派遣後も関わりたいと「思う+どちらかというと思う」の方が「どちらかというと思わない+思わない」よりも「肯定感」が高くなっていることから，国立施設派遣後に青少年教育へ関わる意欲が高い方が，「肯定感」が高くなる傾向が見られる。

#### **9) 国立施設勤務中の派遣元教育委員会との関係**

いずれの項目でも，派遣元の教育委員会との関係が「あった」方が「なかった」よりも「肯定感」が高くなっていることから，国立施設勤務中に派遣元教育委員会との関係があった方が，「肯定感」が高くなる傾向が見られる。

## **2 教員が学校以外の機関等に派遣されることの有用性**

全体を通じて，学校教員が学校以外の教育機関である機構に派遣され，国立施設で勤務することは有用であると言えるものの，派遣元の教育委員会及び機構・各国立施設には，その効果を高めるための取組が必要と言える。調査結果は，「国立施設勤務の満足度を高めること」，「所長や次長との協議の場を設けること」，「社会教育主事の任用資格を持たない者に社会教育主事講習を受講させること」，「独立行政法人教職員研修支援機構が実施する研修を受講させること」，「派遣元の教育委員会は派遣した教員に研修や面談の機会を設けること」の重要性が示唆される。

## 参考資料

### 1 三次調査・第3回調査・アンケート調査票

令和4年度国立青少年教育施設での勤務経験に関する調査研究（第3回）

－アンケート調査票－

○各設問については、**令和4年度（令和4年4月～現在）のこと**についてお答えください。

○令和3年6月第1回の調査の際にご回答いただいた携帯電話番号の下4ケタ（回答者を認識するためのIDとして使用します）をご記入ください（注：1回目に携帯電話番号とは別の数字をご記入した場合は、1回目の数字をご記入ください）。

問1 研修支援において、次の業務をどの程度行いましたか。利用団体が極端に多かったり少なかったりした週ではなく、比較的平均的な1週間（月～金曜日の5日間）を想定し各項目について1つ選択してください。

※自然体験活動プログラム：本調査では野外炊事や登山、水辺活動等とします。

※直接指導：本調査では利用者に対して指導する場合とします。

※間接指導：本調査では引率者等に対して指導する場合とします。

※グループワーク：本調査では、チームビルドやネイチャーゲーム等といった利用団体の研修目的に応じて一定の時間グループの指導にあたる活動とします。

1：ない 2：1日 3：2日～3日 4：4日～5日

①来所または電話での利用者との事前相談	1	2	3	4
②窓口または電話での利用者への対応	1	2	3	4
③入所式またはオリエンテーションの指導	1	2	3	4
④自然体験活動プログラムの直接指導	1	2	3	4
⑤自然体験活動プログラムの間接指導	1	2	3	4
⑥グループワークの直接指導	1	2	3	4
⑦新型コロナウイルス感染防止のための消毒作業	1	2	3	4

問2 宿泊を伴う教育事業の主担当をどの程度担いましたか。1つ選択してください。

1：ない 2：1事業 3：2事業 4：3事業 5：4事業以上

⇒「1：ない」と回答した人は問4へ

（問2で、「2」「3」「4」「5」とご回答した方にお尋ねします）

問3 次の宿泊を伴う教育事業の主担当を担いましたか。各項目について1つ選択してください。

1：ない 2：ある

①教員として勤務した学校種以外の青少年を対象にした事業	1	2
②親子・家族等を対象にした事業	1	2
③困難を抱える青少年を対象とした事業 （困難とは、障がい、貧困、不登校、引きこもり、ネット依存等）	1	2
④指導者を対象とした研修事業	1	2

問4 仕事を進める上で、次の者等との協議をどの程度行いましたか。各項目について1つ選択してください。

1：行わなかった 2：どちらかというに行わなかった 3：どちらかというに行った  
4：行った

- |                    |   |   |   |   |
|--------------------|---|---|---|---|
| ①所長との協議            | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ②次長との協議            | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ③他の専門職等との協議        | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ④専門職等以外の職員との協議     | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑤関係機関または地域の団体等との協議 | 1 | 2 | 3 | 4 |

(問4の「①所長との協議」または「②次長との協議」で、「3」または「4」と回答した方にお尋ねします)

問5 所長または次長とどのような協議を行いましたか。各項目について1つ選択してください。

1：行わなかった 2：どちらかというに行わなかった 3：どちらかというに行った  
4：行った

- ①教育事業の企画の段階で、事業の内容・指導方法・運営に関すること
- ②教育事業の後で、事業の評価に関すること
- ③年度当初に、あなたが業務の見通し・目標を設定すること
- ④年度途中に、あなたが設定した年度当初の業務の見通し・目標の評価・修正に関すること
- ⑤仕事に取り組むあなたの姿勢・意欲に関すること
- ⑥仕事をする上で必要なあなたの資質・能力に関すること

問6 所長または次長と、どのようなことを協議・話したいと思いますか、ご記入ください。

問7 今年度(令和4年4月～令和5年3月)、次の研修を受けましたか。ただし、参加者が一堂に会し指導者から直接指導を受けた研修とします。各項目について1つ選択してください。なお、選択肢の「施設」は自施設で実施した場合、「外部」は自施設以外の機関等(機構本部を含む)が実施する研修に参加した場合とします。

1：受けなかった 2：外部で受けた 3：施設で受けた 4：施設と外部の両方で受けた

- |                         |   |   |   |   |
|-------------------------|---|---|---|---|
| ①野外炊事に関する研修             | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ②登山またはハイキングに関する研修       | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ③オリエンテーリングに関する研修        | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ④カッターやカヌー等の水辺活動に関する研修   | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑤自然物を使ったクラフトに関する研修      | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑥レクリエーションに関する研修         | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑦ファシリテーションに関する研修        | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑧インタープリテーションに関する研修      | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑨カウンセリングに関する研修          | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑩コーディネートに関する研修          | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑪プログラム相談に関する研修          | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑫利用者への対応(ビジネスマナー)に関する研修 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑬教育事業の企画の立て方に関する研修      | 1 | 2 | 3 | 4 |

⑭安全管理・危機管理に関する研修	1	2	3	4
⑮救命救急の技能に関する研修	1	2	3	4
⑯青少年教育に関する研修	1	2	3	4
⑰国立青少年教育振興機構に関する研修	1	2	3	4
⑱予算や法人文書に関する研修	1	2	3	4
⑲コンプライアンスに関する研修	1	2	3	4

問8 今年度（令和4年4月～令和5年3月）、次の研修をオンデマンド配信またはライブ配信で受けましたか。

※オンデマンド配信：本調査では、研修の動画を自分の都合のよい時に PC 等で視聴する場合とします。

※ライブ配信：本調査では、研修が行われているリアルタイムに、PC 等で研修の動画を視聴する場合とします。

1：受けなかった 2：オンデマンド配信で受けた 3：ライブ配信で受けた

4：オンデマンド配信とライブ配信で受けた

①野外炊事に関する研修	1	2	3	4
②登山またはハイキングに関する研修	1	2	3	4
③オリエンテーリングに関する研修	1	2	3	4
④カッターやカヌー等の水辺活動に関する研修	1	2	3	4
⑤自然物を使ったクラフトに関する研修	1	2	3	4
⑥レクリエーションに関する研修	1	2	3	4
⑦ファシリテーションに関する研修	1	2	3	4
⑧インタープリテーションに関する研修	1	2	3	4
⑨カウンセリングに関する研修	1	2	3	4
⑩コーディネートに関する研修	1	2	3	4
⑪プログラム相談に関する研修	1	2	3	4
⑫利用者への対応（ビジネスマナー）に関する研修	1	2	3	4
⑬教育事業の企画の立て方に関する研修	1	2	3	4
⑭安全管理・危機管理に関する研修	1	2	3	4
⑮救命救急の技能に関する研修	1	2	3	4
⑯青少年教育に関する研修	1	2	3	4
⑰国立青少年教育振興機構に関する研修	1	2	3	4
⑱予算や法人文書に関する研修	1	2	3	4
⑲コンプライアンスに関する研修	1	2	3	4

問9 今年度に、独立行政法人教職員支援機構が主催する研修を受講しましたか。1つ選択してください。

1：受講しなかった 2：受講した

問10 今年度に、社会教育主事講習を受講しましたか。1つ選択してください。

1：受講しなかった 2：受講した

問 11 国立施設での勤務における次のことについて満足していますか。各項目について 1 つ選択してください。

1：不満 2：どちらかという不満 3：どちらかという満足 4：満足

①教育事業の企画・運営	1	2	3	4
②教育事業の参加者への指導	1	2	3	4
③研修支援における活動プログラムの指導	1	2	3	4
④研修支援におけるプログラム相談の対応	1	2	3	4
⑤給料	1	2	3	4
⑥勤務形態（勤務時間や休日，宿直等）	1	2	3	4
⑦勤務している施設の方針等	1	2	3	4
⑧機構全体の方針等	1	2	3	4
⑨所長との関係	1	2	3	4
⑩次長との関係	1	2	3	4
⑪同僚との関係（次長・所長を除く職員）	1	2	3	4
⑫施設が実施した研修	1	2	3	4
⑬施設以外が実施した研修	1	2	3	4
⑭全体の満足度	1	2	3	4

問 12 次に示すことについて、どの程度できると思いますか。各項目について 1 つ選択してください。

1：まったくできない 2：できない 3：ややできない

4：ややできる 5：できる 6：とてもできる

1 広い視野で考える	1	2	3	4	5	6
2 学校の教育活動等を俯瞰的な視点でみる	1	2	3	4	5	6
3 物事を計画的に進める	1	2	3	4	5	6
4 物事を主体的に進める	1	2	3	4	5	6
5 物事に臨機応変に対応する	1	2	3	4	5	6
6 相手が理解できるように自分の意思を伝える	1	2	3	4	5	6
7 相手の意思・感情を共感的に受け容れる	1	2	3	4	5	6
8 児童・生徒以外の多様な者と関係を築く	1	2	3	4	5	6
9 課題の解決または自己の能力向上のために学ぶ	1	2	3	4	5	6
10 教員としての自信を持つ	1	2	3	4	5	6
11 同僚または上司と報告・連絡・相談をしながら仕事を進める	1	2	3	4	5	6
12 行政的な文書を作成する	1	2	3	4	5	6
13 多くの人に事業成果等を伝える文書を作成する	1	2	3	4	5	6
14 予算管理ができる	1	2	3	4	5	6
15 安全管理・危機管理ができる	1	2	3	4	5	6
16 体験活動に関する知識を理解する	1	2	3	4	5	6
17 自然体験活動を指導する	1	2	3	4	5	6
18 集団宿泊的行事を計画・運営する	1	2	3	4	5	6
19 学校行事を計画・運営する（集団宿泊的行事を除く）	1	2	3	4	5	6
20 教科等の授業計画を立案する	1	2	3	4	5	6
21 学習指導要領改訂の趣旨または学習指導要領の内容を理解して	1	2	3	4	5	6

教育課程を編成する

22 体験活動を取り入れた教育課程を編成する	1	2	3	4	5	6
23 現代的な課題をテーマに、教科等横断的な視点で教育課程を編成する	1	2	3	4	5	6
24 児童・生徒の言動から内面的な心情を理解する	1	2	3	4	5	6
25 児童・生徒の成育歴等から特性を把握する	1	2	3	4	5	6
26 小学生や中学生といった発達段階に応じた心身の特徴を理解する	1	2	3	4	5	6
27 一人一人の児童・生徒の特性に応じて指導する	1	2	3	4	5	6
28 様々な対象に応じた話し方をする	1	2	3	4	5	6
29 規律ある集団にする	1	2	3	4	5	6
30 問題を話し合っ解決するといった自治的な活動ができる集団にする	1	2	3	4	5	6
31 人間関係づくりプログラムを指導する	1	2	3	4	5	6
32 ファシリテーションの手法で指導する	1	2	3	4	5	6
33 物事を進めるために、他の教職員に働きかけ巻き込む	1	2	3	4	5	6
34 地域の関係者・団体等と連携する	1	2	3	4	5	6

問 13 次に示すことについて、どの程度意識していますか。

1：まったく意識していない 2：意識していない 3：やや意識していない  
4：やや意識している 5：意識している 6：とても意識している

1 児童・生徒がどのように学ぶかといった学習過程を重視する	1	2	3	4	5	6
2 児童・生徒が試行錯誤できるよう時間的なゆとりを持つ	1	2	3	4	5	6
3 児童・生徒に考えさせたり、挑戦させたりする	1	2	3	4	5	6
4 児童・生徒一人一人のよいところを伸ばす	1	2	3	4	5	6
5 国の教育政策を理解する	1	2	3	4	5	6
6 勤務時間内に仕事を終えるようにする	1	2	3	4	5	6
7 余暇を有意義に過ごす	1	2	3	4	5	6
8 コスト意識を持つ	1	2	3	4	5	6
9 安全管理・危機管理体制を整備する	1	2	3	4	5	6
10 学校の一員として自らの役割を果たす	1	2	3	4	5	6
11 児童・生徒に関わる者が連携・協力しながら物事を進める	1	2	3	4	5	6
12 学校の教育活動に、地域の人材や自然といった教育資源を活かす	1	2	3	4	5	6
13 地域づくりに学校が貢献する	1	2	3	4	5	6

問 14 国立施設での勤務に、教員の経験や学校教育に関する知識・技能は活かされていると思いますか。1つ選択してください。

1：思わない 2：どちらかというと思わない 3：どちらかというと思う 4：思う

問 15 国立施設での勤務経験は、学校に戻った際に活かされると思いますか。1つ選択してください。

1：思わない 2：どちらかというと思わない 3：どちらかというと思う 4：思う

問 16 青少年教育施設に勤務することへの意欲は、1年目の4月と現在を比較して変わりましたか。1つ選択してください。

1 高くなった 2 低くなった 3 変わらない

(問16で、「1」または「2」と回答した方にお尋ねします)

問17 意欲が変わったのはいつ頃、どのような理由からか、ご記入ください。なお、出来事やきっかけ等のエピソードをお書きいただいても構いません。

## 2 三次調査・第4回調査・アンケート調査票

令和5年度国立青少年教育施設での勤務経験に関する調査研究(第4回)  
- アンケート調査票 -

○各設問で「今年度」としている場合は、令和5年度(令和5年4月～現在)のことについてお答えください。

○令和3年6月第1回の調査の際にご回答いただいた携帯電話番号の下4ケタ(回答者を認識するためのIDとして使用します)をご記入ください(注:1回目に携帯電話番号とは別の数字をご記入した場合は、1回目の数字をご記入ください)。

問1 今年度、研修支援において、次の業務をどの程度行いましたか。利用団体が極端に多かったり少なかったりした週ではなく、比較的平均的な1週間(月～金曜日の5日間)を想定し各項目について1つ選択してください。

※自然体験活動プログラム：本調査では野外炊事や登山、水辺活動等とします。

※直接指導：本調査では利用者に対して指導する場合とします。

※間接指導：本調査では引率者等に対して指導する場合とします。

※グループワーク：本調査では、チームビルドやネイチャーゲーム等といった利用団体の研修目的に応じて一定の時間グループの指導にあたる活動とします。

1：ない 2：1日 3：2日～3日 4：4日～5日

①来所または電話での利用者との事前相談	1	2	3	4
②窓口または電話での利用者への対応	1	2	3	4
③入所式またはオリエンテーションの指導	1	2	3	4
④自然体験活動プログラムの直接指導	1	2	3	4
⑤自然体験活動プログラムの間接指導	1	2	3	4
⑥グループワークの直接指導	1	2	3	4
⑦新型コロナウイルス感染防止のための消毒作業	1	2	3	4

問2 今年度、宿泊を伴う教育事業の主担当をどの程度担いましたか。1つ選択してください。

1：ない 2：1事業 3：2事業 4：3事業 5：4事業以上

⇒「1：ない」と回答した人は問4へ

(問2で、「2」「3」「4」「5」とご回答した方にお尋ねします)

問3 今年度、次の宿泊を伴う教育事業の主担当を担いましたか。各項目について1つ選択してください。

1：ない 2：ある

①教員として勤務した学校種以外の青少年を対象にした事業 1 2

- ②親子・家族等を対象にした事業 1 2
- ③困難を抱える青少年を対象とした事業 1 2  
(困難とは、障がい、貧困、不登校、引きこもり、ネット依存等)
- ④指導者を対象とした研修事業 1 2

問4 今年度、仕事を進める上で、次の者等との協議をどの程度行いましたか。各項目について1つ選択してください。

- 1：行わなかった 2：どちらかというに行わなかった 3：どちらかというに行った  
4：行った

- ①所長との協議 1 2 3 4
- ②次長との協議 1 2 3 4
- ③他の専門職等との協議 1 2 3 4
- ④専門職等以外の職員との協議 1 2 3 4
- ⑤関係機関または地域の団体等との協議 1 2 3 4

(問4の「①所長との協議」または「②次長との協議」で、「3」または「4」と回答した方にお尋ねします)

問5 今年度、所長または次長とどのような協議を行いましたか。各項目について1つ選択してください。

- 1：行わなかった 2：どちらかというに行わなかった 3：どちらかというに行った  
4：行った

- ①教育事業の企画の段階で、事業の内容・指導方法・運営に関する事
- ②教育事業の後で、事業の評価に関する事
- ③年度当初に、あなたが業務の見通し・目標を設定する事
- ④年度途中で、あなたが設定した年度当初の業務の見通し・目標の評価・修正に関する事
- ⑤仕事に取り組むあなたの姿勢・意欲に関する事
- ⑥仕事をする上で必要なあなたの資質・能力に関する事
- ⑦行政文書の作成や原議書の決裁などの行政的な仕事の仕方に関する事
- ⑧事業方針などの施設全体の事業運営に関する事
- ⑨職員の働き方や職場の雰囲気に関する事

問6 今年度(令和5年4月～令和6年3月)、次の研修を受けましたか。ただし、参加者が一堂に会し指導者から直接指導を受けた研修とします。各項目について1つ選択してください。なお、選択肢の「施設」は自施設で実施した場合、「外部」は自施設以外の機関等(機構本部を含む)が実施する研修に参加した場合とします。

- 1：受けなかった 2：外部で受けた 3：施設で受けた 4：施設と外部の両方で受けた

- ①野外炊事に関する研修 1 2 3 4
- ②登山またはハイキングに関する研修 1 2 3 4
- ③オリエンテーリングに関する研修 1 2 3 4
- ④カッターやカヌー等の水辺活動に関する研修 1 2 3 4
- ⑤自然物を使ったクラフトに関する研修 1 2 3 4
- ⑥レクリエーションに関する研修 1 2 3 4
- ⑦ファシリテーションに関する研修 1 2 3 4

⑧インタープリテーションに関する研修	1	2	3	4
⑨カウンセリングに関する研修	1	2	3	4
⑩コーディネートに関する研修	1	2	3	4
⑪プログラム相談に関する研修	1	2	3	4
⑫利用者への対応（ビジネスマナー）に関する研修	1	2	3	4
⑬教育事業の企画の立て方に関する研修	1	2	3	4
⑭安全管理・危機管理に関する研修	1	2	3	4
⑮救命救急の技能に関する研修	1	2	3	4
⑯青少年教育に関する研修	1	2	3	4
⑰国立青少年教育振興機構に関する研修	1	2	3	4
⑱予算や法人文書に関する研修	1	2	3	4
⑲コンプライアンスに関する研修	1	2	3	4

問7 今年度、独立行政法人教職員支援機構が主催する研修を受講しましたか。1つ選択してください。

1：受講しなかった 2：受講した

問8 今年度、社会教育主事講習を受講しましたか。1つ選択してください。

1：受講しなかった 2：受講した

問9 今年度、国立施設での勤務における次のことについて満足していますか。各項目について1つ選択してください。

1：不満 2：どちらかという不満 3：どちらかという満足 4：満足

①教育事業の企画・運営	1	2	3	4
②教育事業の参加者への指導	1	2	3	4
③研修支援における活動プログラムの指導	1	2	3	4
④研修支援におけるプログラム相談の対応	1	2	3	4
⑤給料	1	2	3	4
⑥勤務形態（勤務時間や休日、宿直等）	1	2	3	4
⑦勤務している施設の方針等	1	2	3	4
⑧機構全体の方針等	1	2	3	4
⑨所長との関係	1	2	3	4
⑩次長との関係	1	2	3	4
⑪同僚との関係（次長・所長を除く職員）	1	2	3	4
⑫施設が実施した研修	1	2	3	4
⑬施設以外が実施した研修	1	2	3	4
⑭全体の満足度	1	2	3	4

問10 次に示すことについて、どの程度できると思いますか。各項目について1つ選択してください。

1：まったくできない 2：できない 3：ややできない

4：ややできる 5：できる 6：とてもできる

1 広い視野で考える 1 2 3 4 5 6

2 学校の教育活動等を俯瞰的な視点でみる	1	2	3	4	5	6
3 物事を計画的に進める	1	2	3	4	5	6
4 物事を主体的に進める	1	2	3	4	5	6
5 物事に臨機応変に対応する	1	2	3	4	5	6
6 相手が理解できるように自分の意思を伝える	1	2	3	4	5	6
7 相手の意思・感情を共感的に受け容れる	1	2	3	4	5	6
8 児童・生徒以外の多様な者と関係を築く	1	2	3	4	5	6
9 課題の解決または自己の能力向上のために学ぶ	1	2	3	4	5	6
10 教員としての自信を持つ	1	2	3	4	5	6
11 同僚または上司と報告・連絡・相談をしながら仕事を進める	1	2	3	4	5	6
12 行政的な文書を作成する	1	2	3	4	5	6
13 多くの人に事業成果等を伝える文書を作成する	1	2	3	4	5	6
14 予算管理ができる	1	2	3	4	5	6
15 安全管理・危機管理ができる	1	2	3	4	5	6
16 体験活動に関する知識を理解する	1	2	3	4	5	6
17 自然体験活動を指導する	1	2	3	4	5	6
18 集団宿泊的行事を計画・運営する	1	2	3	4	5	6
19 学校行事を計画・運営する（集団宿泊的行事を除く）	1	2	3	4	5	6
20 教科等の授業計画を立案する	1	2	3	4	5	6
21 学習指導要領改訂の趣旨または学習指導要領の内容を理解して 教育課程を編成する	1	2	3	4	5	6
22 体験活動を取り入れた教育課程を編成する	1	2	3	4	5	6
23 現代的な課題をテーマに、教科等横断的な視点で教育課程を編成する	1	2	3	4	5	6
24 児童・生徒の言動から内面的な心情を理解する	1	2	3	4	5	6
25 児童・生徒の成育歴等から特性を把握する	1	2	3	4	5	6
26 小学生や中学生といった発達段階に応じた心身の特徴を理解する	1	2	3	4	5	6
27 一人一人の児童・生徒の特性に応じて指導する	1	2	3	4	5	6
28 様々な対象に応じた話し方をする	1	2	3	4	5	6
29 規律ある集団にする	1	2	3	4	5	6
30 問題を話し合って解決するといった自治的な活動ができる集団にする	1	2	3	4	5	6
31 人間関係づくりプログラムを指導する	1	2	3	4	5	6
32 ファシリテーションの手法で指導する	1	2	3	4	5	6
33 物事を進めるために、他の教職員に働きかけ巻き込む	1	2	3	4	5	6
34 地域の関係者・団体等と連携する	1	2	3	4	5	6

問 11 次を示すことについて、どの程度意識していますか。

1：まったく意識していない 2：意識していない 3：やや意識していない

4：やや意識している 5：意識している 6：とても意識している

1 児童・生徒がどのように学ぶかといった学習過程を重視する	1	2	3	4	5	6
2 児童・生徒が試行錯誤できるよう時間的なゆとりを持つ	1	2	3	4	5	6
3 児童・生徒に考えさせたり、挑戦させたりする	1	2	3	4	5	6
4 児童・生徒一人一人のよいところを伸ばす	1	2	3	4	5	6
5 国の教育政策を理解する	1	2	3	4	5	6

6 勤務時間内に仕事を終えるようにする	1	2	3	4	5	6
7 余暇を有意義に過ごす	1	2	3	4	5	6
8 コスト意識を持つ	1	2	3	4	5	6
9 安全管理・危機管理体制を整備する	1	2	3	4	5	6
10 学校の一員として自らの役割を果たす	1	2	3	4	5	6
11 児童・生徒に関わる者が連携・協力しながら物事を進める	1	2	3	4	5	6
12 学校の教育活動に、地域の人材や自然といった教育資源を活かす	1	2	3	4	5	6
13 地域づくりに学校が貢献する	1	2	3	4	5	6

問 12 国立施設での勤務に、教員の経験や学校教育に関する知識・技能は活かされていると思いますか。1つ選択してください。

1：思わない 2：どちらかというと思わない 3：どちらかというと思う 4：思う

問 13 国立施設での勤務経験は、学校に戻った際に活かされると思いますか。1つ選択してください。

1：思わない 2：どちらかというと思わない 3：どちらかというと思う 4：思う

問 14 青少年教育施設に勤務することへの意欲は、1年目の4月と今年度を比較して変わりましたか。1つ選択してください。

1 高くなった 2 低くなった 3 変わらない

(問 14 で、「1」または「2」と回答した方にお尋ねします)

問 15 意欲が変わったのはいつ頃、どのような理由からか、ご記入ください。なお、出来事やきっかけ等のエピソードをお書きいただいても構いません。

問 16 国立施設での次の業務や事項は、あなたの今後の教育活動に役立ったと思いますか。1つ選択してください。

1：思わない 2：どちらかというと思わない 3：どちらかというと思う  
4：思う N：行わなかった

1 教育事業を企画したこと	1	2	3	4	N
2 教育事業を運営したこと	1	2	3	4	N
3 教育事業の参加者を指導したこと	1	2	3	4	N
4 研修支援において、学校の集団宿泊活動をサポートしたこと	1	2	3	4	N
5 研修支援において、様々な利用者と窓口や電話で対応したこと	1	2	3	4	N
6 研修支援において、利用団体に体験活動プログラムを指導したこと	1	2	3	4	N
7 教育事業または研修支援における安全管理・危機管理を行ったこと	1	2	3	4	N
8 利用促進等の広報活動を行ったこと	1	2	3	4	N
9 ボランティアや地域の団体といった、様々な者と交流したこと	1	2	3	4	N
10 他県等教育委員会から派遣された企画指導専門職と仕事をしたこと	1	2	3	4	N
11 国立大学から派遣された職員や機構採用職員等と仕事をしたこと	1	2	3	4	N
12 青少年教育や体験活動に関する研修を受講したこと	1	2	3	4	N
13 その他に役立ったことがあればご記入ください					

( )

問 17 国立施設での3年間の勤務について、総合的な満足度についてお尋ねします。1つ選択してください。

1：不満 2：どちらかという不満 3：どちらかという満足 4：満足

問 18 教員が学校以外の機関等に派遣されることについて、どのように思いますか。1つ選択してください。また、理由をご記入ください。

1：重要ではない 2：どちらかという重要ではない 3：どちらかという重要  
4：重要

理由（ ）

問 19 国立施設に勤務した3年間で、派遣元の教育委員会と次のことがありましたか。1つ選択してください。

1：なかった 2：あった

1 教育委員会が実施した現職の教員を対象にした研修会に参加した	1	2
2 国立施設に派遣された職員を対象にした研修会に参加した	1	2
3 国立施設に派遣された職員を対象にした会議・懇談会等に参加した	1	2
4 教育委員会職員が国立施設を訪問し、あなたと面談・面接を行った	1	2
5 あなたが教育委員会を訪問し、教育委員会職員と面談・面接を行った	1	2
6 その他のことがあればご記入ください。		

（ ）

問 20 国立施設派遣後の勤務について、次のことをやりたいと思いますか。1つ選択してください。

1：思わない 2：どちらかという思わない 3：どちらかという思う 4：思う

1 教育委員会や首長部局の社会教育・生涯学習・青少年育成に 関係する部署での勤務	1	2	3	4
2 公立青少年教育施設での勤務	1	2	3	4
3 地域での青少年に関わるボランティア活動	1	2	3	4

問 21 国立施設に勤務したことにより、学校の集団宿泊活動に対する考えに変化がありましたか。例えば、意義や効果、内容（プログラム）や指導方法、学校の運営体制や教員の苦勞など、気づいたことをお書きください。

アンケートは以上です。ご協力いただきありがとうございました。 先生のますますのご活躍を願っております。
--



国立青少年教育施設での勤務経験による資質能力の向上に関する調査研究  
(令和5年度調査) 執筆者

---

小林 真一 NPO 法人国際自然大学校マネージャー  
国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター 調査研究アドバイザー

---

(お願い)

本報告書を引用された場合には、今後の参考とさせていただきたいと思いますので、国立青少年教育振興機構青少年教育研究センターまで、メールまたはFAX等でその旨ご連絡いただきましたら幸いです。

---

「国立青少年教育施設での勤務経験による資質能力の向上に関する調査研究  
(令和5年度調査)」報告書 令和8年3月発行

編集・発行

国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター  
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3番1号  
TEL 03-6407-7747 FAX 03-6407-7619

---